



# 地理統計データベース GEOSTAT

地理統計情報株式会社

## 使用説明書

Version 2.1



## 目次

1. 基本操作 .....	2
1. 1 起動と終了 .....	2
1. 2 画面構成 .....	3
1. 3 プロジェクトの構成 .....	4
1. 4 表ウィンドウの基本操作 .....	6
1. 5 地図ウィンドウの基本操作 .....	8
2. ファイルメニュー .....	11
2. 1 新規プロジェクト .....	11
2. 2 プロジェクトを開く .....	12
2. 3 プロジェクトを上書き保存 .....	13
2. 3 プロジェクトを別名保存 .....	14
2. 5 プロジェクトを閉じる .....	15
2. 6 プロジェクトのエクスポート .....	16
2. 7 データを開く .....	17
2. 8 データを別名保存 .....	20
2. 9 データを閉じる .....	22
2. 10 名前の変更 .....	23
2. 11 削除 .....	24
2. 12 インポート .....	25
2. 12. 1 シェープファイル .....	25
2. 12. 2 CSV ファイル .....	29
2. 13 エクスポート .....	34
2. 13. 1 シェープファイル .....	34
2. 13. 2 CSV ファイル .....	36
2. 15 印刷 .....	39
2. 16 環境設定 .....	41
2. 17 最近使ったプロジェクト .....	42
2. 18 終了 .....	43
3. データ処理メニュー .....	44
3. 1 検索 .....	44
3. 2 表示キー .....	47
3. 2. 1 表示キーを指定 .....	47
3. 2. 2 表示キーを保存 .....	48
3. 2. 3 表示キーの削除 .....	49

3. 3	分類集計 .....	50
3. 4	クロス集計 .....	53
3. 5	ファイル結合 .....	55
3. 6	データ加工編集 .....	68
3. 6. 1	データビュー .....	69
3. 6. 2	書込み .....	71
3. 6. 3	ファイルビュー .....	72
3. 6. 4	メニュー .....	73
3. 6. 5	コマンドライン .....	81
3. 7	プロパティ .....	85
4.	地図処理メニュー .....	87
4. 1	新規レイヤ .....	87
4. 2	新規マップ .....	89
4. 3	レイヤ/マップの削除 .....	90
4. 4	表示設定 .....	91
4. 5	拡大 .....	102
4. 6	縮小 .....	102
4. 7	全体表示 .....	102
4. 8	連動設定 .....	103
4. 9	全体表示領域を設定 .....	104
4. 10	全体表示領域をクリア .....	104
4. 11	表示位置 .....	105
4. 11. 1	表示位置を指定 .....	105
4. 11. 2	表示位置を保存 .....	106
4. 11. 3	表示位置を削除 .....	107
4. 12	表示範囲設定ツール .....	108
4. 13	印刷レイアウト .....	110
4. 13. 1	レイアウトの操作 .....	111
4. 13. 2	レイアウトアイテムの設定 .....	115
4. 13. 3	位置合わせ機能 .....	126
4. 14	マップ印刷 .....	127
5.	ウィンドウメニュー .....	129
5. 1	並べて表示 .....	129
5. 2	重ねて表示 .....	130
5. 3	ウィンドウを閉じる .....	131
5. 4	表ウィンドウを全て閉じる .....	131

5. 5 レイヤウィンドウを全て閉じる.....	131
5. 6 マップウィンドウを全て閉じる.....	131
5. 7 全て閉じる.....	131
付録.....	133



# 1. 基本操作

## 1. 1 起動と終了

本システムの起動は Windows のスタートメニューから行います。

「スタート」－「すべてのプログラム」－「GEOSTAT」

本システムを初めて起動すると環境設定画面が表示されます。ここで標準データフォルダ及び地図データ格納フォルダを指定してください（2. 1 6 章参照）。「参照」ボタンをクリックするとフォルダ選択画面が表示され、画面上でフォルダを指定することができます。

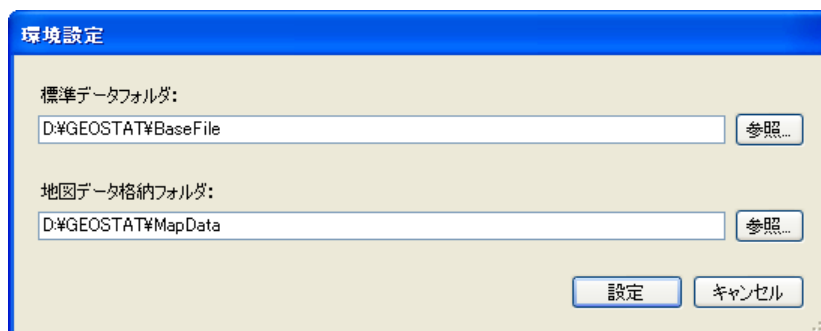


図 1 - 1 環境設定画面

なお、この環境設定は、メニューからいつでも変更することができます（「ファイル」－「環境設定」メニュー）。

本システムを実行すると、あらかじめ背景データが設定された新規プロジェクトが読み込まれた状態で起動します。

プロジェクトとは...

本システムでは同時に複数の属性データや地図データを利用することができます。プロジェクトとは、ユーザーがどのデータを利用しているか、どのような地図の表示設定を行っているか、などの作業状態を記録・管理するものです。保存されたプロジェクトを再度開くと、以前の作業状態が復元されます。

本システムを終了するには、「ファイル」－「終了」メニューを実行します。

## 1. 2 画面構成

本システムの代表的な画面構成を図1-2に示します。

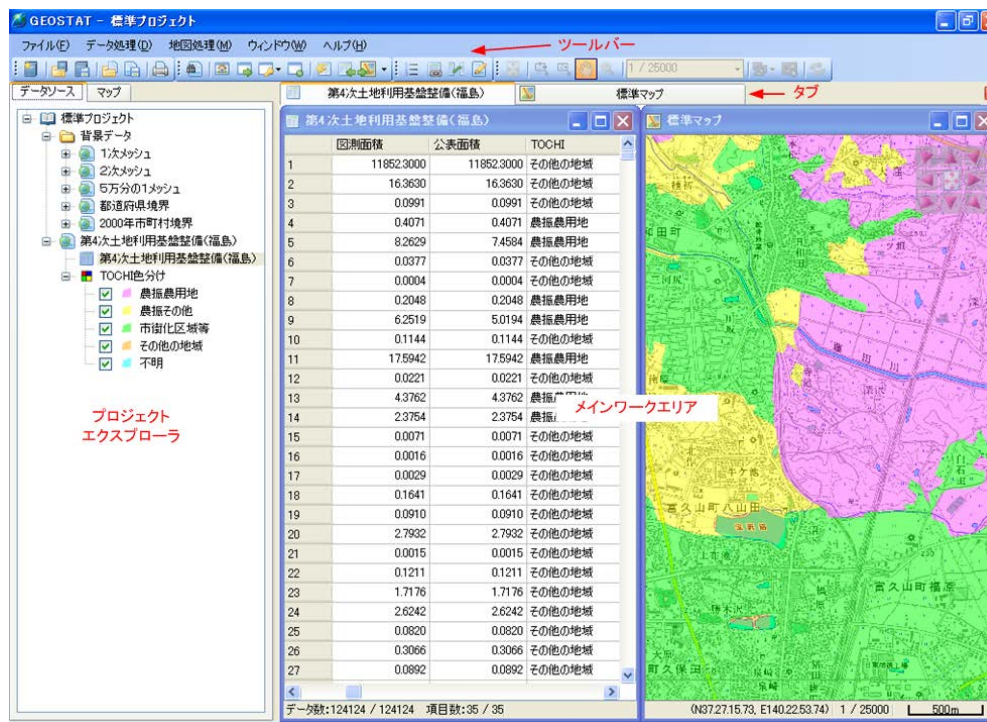


図1-2 全体画面構成

<プロジェクトエクスプローラ>

- 現在のプロジェクト構成（開いているデータ、地図等）がリスト表示されます。
- ツリー表示中の項目を選択すると、その内容がメインワークエリアに表示されます。

<メインワークエリア>

- 本システムではマルチウィンドウ方式を採用しており、複数のデータや地図を同時に閲覧することができます。
- ウィンドウの全体表示、タイル表示等の機能が用意されています。

<タブ>

- メインワークエリア中のウィンドウの切り替えを行います。

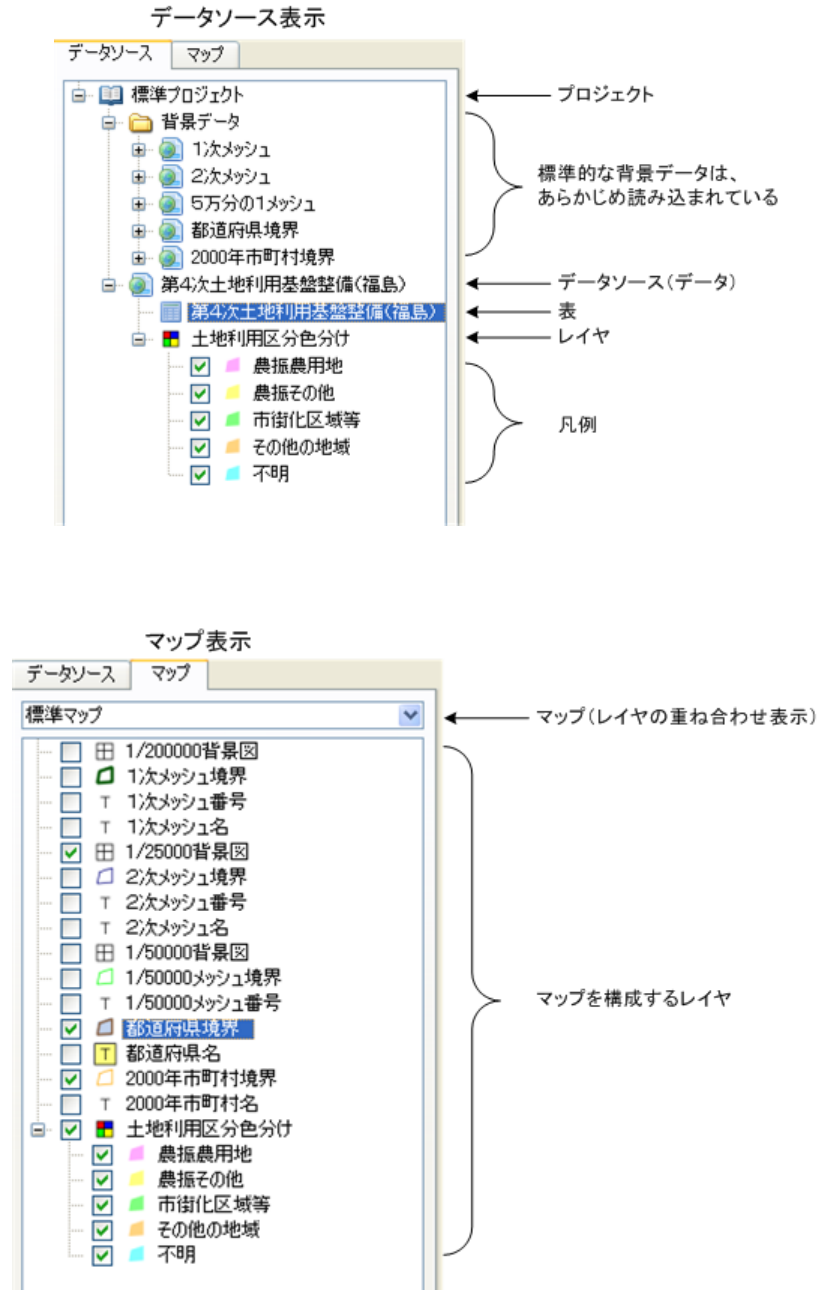
<ツールバー>

- ファイル操作、データ処理、地図処理等に関するツールバーが表示されます。





### 1. 3 プロジェクトの構成

プロジェクトの標準的な構成例を図1-3に示します。



プロジェクトを構成するアイテムについて、表 1-1 にまとめます。

表 1-1 プロジェクト構成アイテム

データソース (データ)	<p>本システムで取り扱う調査/統計データ、地図データをデータソースと呼びます。単純にデータとも呼ぶ場合もあります。</p> <p>データソースは属性データ及び地図データ (形状データ) から構成され、それぞれの表現として表及びレイヤを持ちます。地図データを持たないデータソースにはレイヤは定義できません。</p> <p> : 属性のみのデータ</p> <p> : 属性と図形 (地図) の両方を持つデータ</p>
表	データソースの属性データを表示するための表。
レイヤ	地図データ (形状データ) を持つデータソースには複数のレイヤを定義することができます。
マップ	複数のレイヤの重ね合わせ表示をマップと呼びます。マップを構成するレイヤ、レイヤの描画順は自由に設定することができます。また、複数のマップを定義することも可能です。
凡例	段彩表示時 (属性の値に応じて描画スタイルを段階的に変えること) の凡例

#### <カレントアイテムについて>

プロジェクトツリー中の選択アイテムをカレントアイテムと呼びます。本システムの大半の機能はカレントアイテムに対して行います。

## 1. 4 表ウィンドウの基本操作








	年次	都道府県	名称	市区町村コード	市区町村名称	2次
1	2000年	滋賀県	大津市	25201	大津市	
2	2000年	滋賀県	彦根市	25202	彦根市	
3	2000年	滋賀県	長浜市	25203	長浜市	
4	2000年	滋賀県	近江八幡市	25204	近江八幡市	
5	2000年	滋賀県	八日市市	25205	八日市市	
6	2000年	滋賀県	草津市	25206	草津市	
7	2000年	滋賀県	草津市	25206	草津市	
8	2000年	滋賀県	守山市	25207	守山市	
9	2000年	滋賀県	志賀町	25301	志賀町	
10	2000年	滋賀県	栗東町	25321	栗東町	
11	2000年	滋賀県	中主町	25342	中主町	
12	2000年	滋賀県	野洲町	25343	野洲町	
13	2000年	滋賀県	石部町	25361	石部町	
14	2000年	滋賀県	甲西町	25362	甲西町	
15	2000年	滋賀県	水口町	25363	水口町	
16	2000年	滋賀県	土山町	25364	土山町	
17	2000年	滋賀県	甲賀町	25365	甲賀町	

図1-4 表ウィンドウ

- 項目ヘッダ①をマウス右クリックすると、その項目の値でソートすることができます。
- 現在表示しているデータのデータ数、項目数が②データ情報欄に表示されます。表示するデータは検索（3. 1章）や表示キー（3. 2. 1章参照）により絞り込むことができます。また、項目については、データのプロパティ（3. 7章参照）により表示可否を設定することができます。

表ウィンドウの操作に関連したツールバーボタンの内容を表1-2にまとめます。

表 1-2 表ウィンドウ関連ツールバーボタン内容

	検索 (3. 1 章参照)	現在のデータに対して、検索条件を指定し、検索を行います。
	全て表示 (3. 2. 1 章参照)	検索や表示キーにより絞り込まれた表示を初期状態にリセットします。
	選択データのみ表示 (3. 2. 1 章参照)	表あるいは地図表示で、手動で選択したデータ（強調表示されているデータ）のみを表示します。
	表示キーを指定 (3. 2. 1 章参照)	保存された表示キーをメニューとして表示します。表示キーを選択することで、表示状態を簡単に切り替えることができます。
	表示キーを保存 (3. 2. 2 章参照)	現在の表示状態を表示キーとして保存します。
	選択データにジャンプ	表中の選択データが表示されるようにスクロールします。
	地図連携	選択されているデータを地図で表示します。ボタンをクリックした場合は、標準マップが表示され、選択データが画面中央になるように移動します。ボタン右側の矢印をクリックすると、サブメニューから表示するレイヤ・マップを選択することができます。

## 1. 5 地図ウィンドウの基本操作

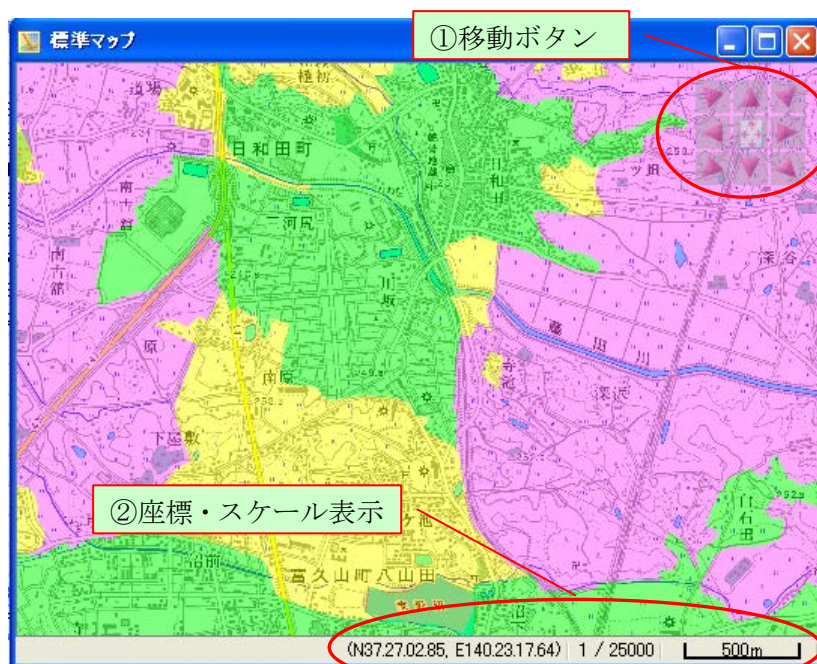


図1-5 地図ウィンドウ

- ①移動ボタンをクリックすると、その方向に地図を移動します。中央のボタンをクリックすると、全体表示（4. 7章）を行います。
- ②座標・スケール表示には現在の座標／スケールを表示します。スケールの変更はツールバーより行います（表1-3参照）。

地図ウィンドウに関連したツールバーボタンの内容を表1-3にまとめます。

表 1-3 地図ウィンドウ関連ツールバーボタン内容














	全体表示 (4. 7 章参照)	描画レイヤ (マップ) 全体を表示します。全体表示領域は任意の領域に設定することができます (4. 9 章参照)。
	選択ツール (表 1-4 参照)	マウスモードを選択ツールに変更します。 マウスドラッグ時に一部が含まれるデータを選択します。
	選択ツール (表 1-4 参照)	マウスモードを選択ツールに変更します。 マウスドラッグ時に完全に含まれるデータのみ選択します。
	移動ツール (表 1-4 参照)	マウスモードを移動ツールに変更します。
	拡大・縮小ツール (表 1-4 参照)	マウスモードを拡大・縮小ツールに変更します。
	スケール指定	表示スケールを選択します。
	選択データにジャンプ	表中の選択データが表示されるようにスクロールします。
	表連携	関連する表を表示します。データが選択されている場合は、そのデータが表示されるようにスクロールします。
	表示位置を指定 (4. 11. 1 章参照)	保存された表示位置を指定し、その位置にジャンプします。
	表示位置を保存 (4. 11. 2 章参照)	現在の表示位置を名前をつけて保存します。
	連動設定 (4. 8 章参照)	地図画面の連動を設定します。


表 1-4 マウスモード

<p>選択</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図上の図形（ポリゴンやライン等）をクリックすることで、データ選択。</li> <li>・コントロールキーを押しながらのクリックで複数データ選択。選択済みの場合は選択解除。</li> <li>・マウสดラッグにより、指定領域内のデータをまとめて選択。ドラッグ時に完全に含まれるオブジェクトだけを選択するか、一部だけが含まれていても選択するか、オプション指定することができる。</li> </ul>
<p>拡大・縮小</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図上の一点を左クリックすることで、クリックした点を中心にスケールを2倍にして表示。</li> <li>・地図上の任意領域を左ボタンドラッグ指定することで、指定された領域が画面一杯に表示されるようにスケール拡大。</li> <li>・マウス右ボタンでは縮小操作。</li> </ul>
<p>移動（パン）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図上の一点をクリックすることで、クリックした点を中心に表示。</li> <li>・地図上の一点をクリック後、そのままドラッグすることで任意領域を表示。</li> </ul>

## 2. ファイルメニュー

### 2. 1 新規プロジェクト

メニュー：「ファイル」－「新規プロジェクト」

ツールバー：

初期状態のプロジェクトを開きます。

すでに別のプロジェクトが開かれていて、かつ、そのプロジェクトが変更されている場合は、以下のような保存確認のメッセージが表示されます。

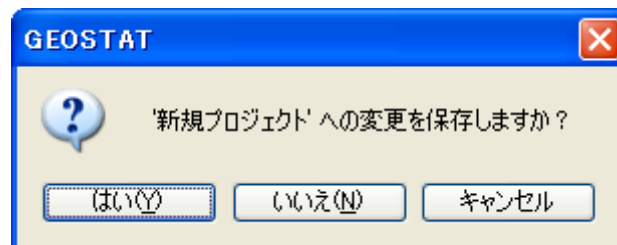



図 2 - 1 保存確認メッセージ

- 「はい(Y)」をクリックすると、プロジェクトが保存されます。開かれているプロジェクトが新規プロジェクトの場合は、「名前を付けて保存」画面が表示されます。この操作については「2. 4プロジェクトの別名保存」を参照してください。
- 「いいえ(N)」をクリックすると、それまでの作業内容をすべて破棄し、新規プロジェクトを開きます。
- 「キャンセル」をクリックすると、この操作を中止します。



## 2. 2 プロジェクトを開く

メニュー：「ファイル」－「プロジェクトを開く」

ツールバー：

既存のプロジェクトを指定して開きます。

メニューを実行すると、ファイル選択画面が表示されるので、開きたいプロジェクトのプロジェクトファイルを指定します（拡張子 `gsp`）。

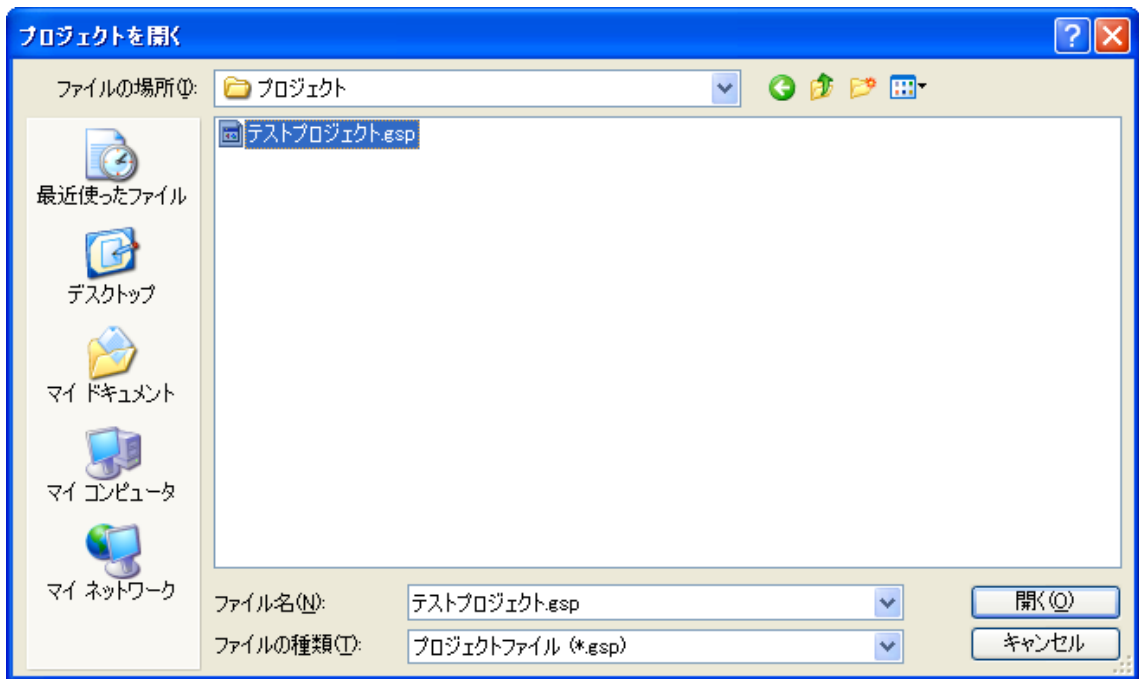



図 2-2 プロジェクトファイルの選択

最近使用したプロジェクトは、「ファイル」－「最近使ったプロジェクト」メニューから直接開くこともできます。

なお、すでに別のプロジェクトが開かれていて、かつ、そのプロジェクトが変更されている場合は、図 2-1 と同様の保存確認メッセージが表示されます。この時の操作については「2. 1 新規プロジェクト」を参照してください。

## 2.3 プロジェクトを上書き保存

メニュー：「ファイル」－「プロジェクトを上書き保存」

ツールバー：

現在開いているプロジェクトを保存します。開いているプロジェクトが「新規プロジェクト」の場合は「名前を付けて保存」画面が表示されます。この操作については「2.4プロジェクトの別名保存」を参照してください。

## 2.3 プロジェクトを別名保存

メニュー：「ファイル」－「プロジェクトを別名保存」

現在開いているプロジェクトを別名で保存します。メニューを実行すると、プロジェクトの保存先を指定する画面が表示されます。

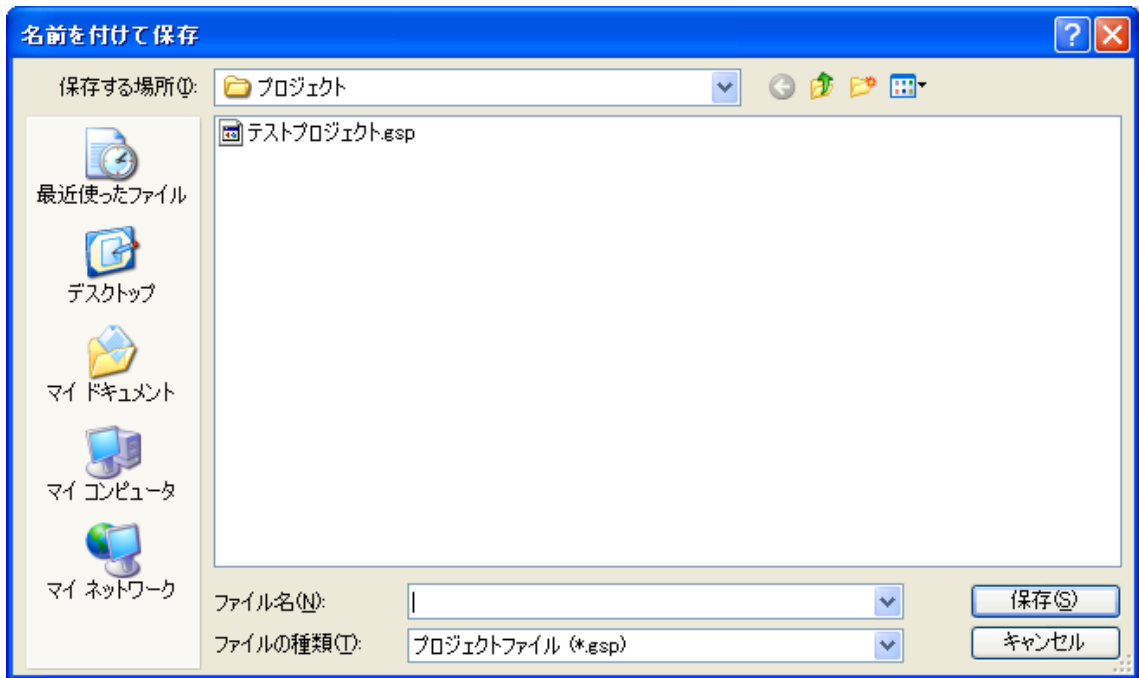


図2-3 プロジェクトの別名保存

- ファイル名を入力し、「保存(S)」ボタンをクリックすると、別名保存が実行されます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、この操作を中止します。

## 2. 5 プロジェクトを閉じる

メニュー：「ファイル」－「プロジェクトを閉じる」

現在開いているプロジェクトを閉じます。このプロジェクトの内容が変更されている場合は、以下のような保存確認のメッセージが表示されます。

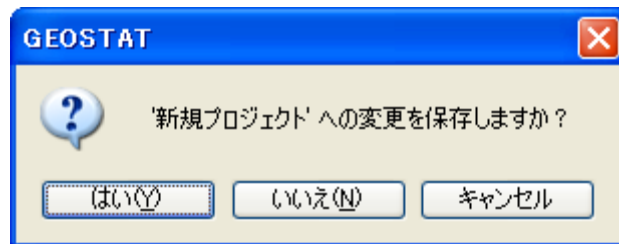


図2-4 保存確認メッセージ

- 「はい(Y)」をクリックすると、プロジェクトが保存されます。開かれているプロジェクトが新規プロジェクトの場合は、「名前を付けて保存」画面が表示されます。この操作については「2. 4プロジェクトの別名保存」を参照してください。
- 「いいえ(N)」をクリックすると、それまでの作業内容をすべて破棄してプロジェクトを閉じます。
- 「キャンセル」をクリックすると、この操作を中止します。

## 2. 6 プロジェクトのエクスポート

メニュー：「ファイル」－「プロジェクトのエクスポート」

プロジェクトファイルとプロジェクトで開いている全データ（標準データフォルダにあるデータと背景データは除く）を指定されたフォルダに出力します。プロジェクトをデータ込みで別の環境に引き渡すときにお使いいただけます。

メニューを実行すると、「プロジェクトのエクスポート」画面が表示されます。

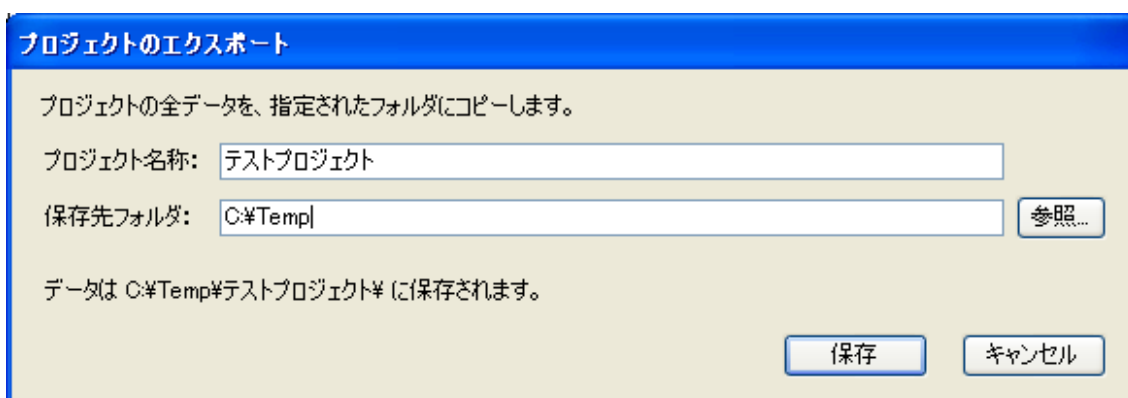



図 2-5 プロジェクトのエクスポート画面

- 「プロジェクトの名称」には出力するプロジェクトの名称を指定します。
- 「保存先フォルダ」には出力したい場所を指定します。データは、指定されたフォルダの下に、プロジェクト名称のフォルダを作成し、その中に出力されます。「参照...」をクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、そこからフォルダを指定することもできます。
- 「保存」をクリックすると、プロジェクトのエクスポートを実行します。
- 「キャンセル」をクリックすると、この操作を中止します。

## 2. 7 データを開く

メニュー：「ファイル」－「データを開く」

ツールバー：

メニューを実行すると、「データを開く」画面が表示されます。

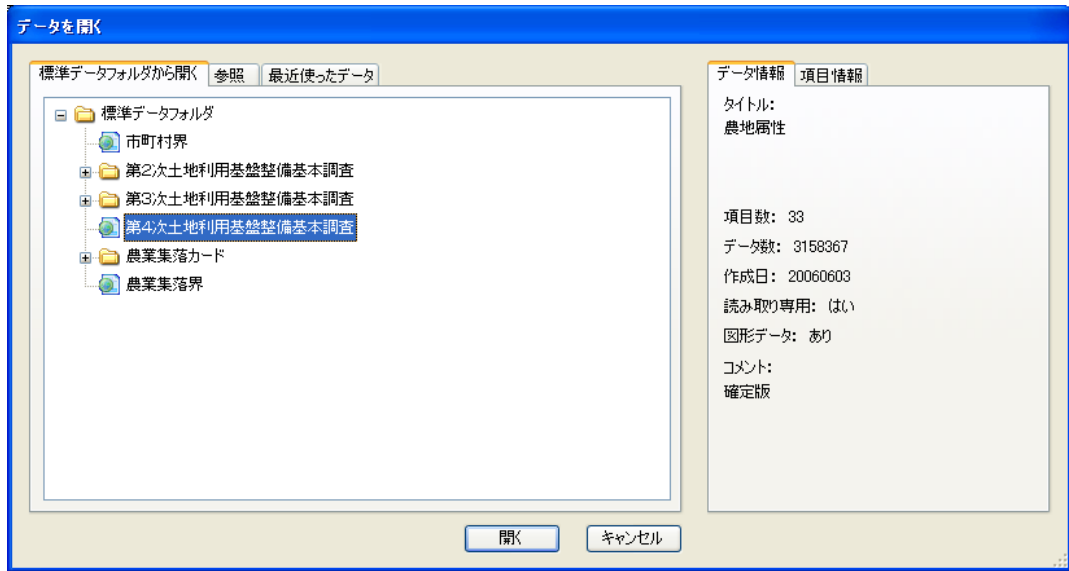


図 2-6 「データを開く」画面（「標準データフォルダから開く」タブ）

開くデータの指定には、以下の3つの方法が用意されています。

- ・標準データフォルダから開く
- ・参照
- ・最近使ったデータ

### 1) 標準データフォルダから開く

- 左側には標準データフォルダ（2. 16章参照）中のデータがツリー形式で表示されます。データを選択すると、右側にデータ・項目情報が表示されます。
- データが選択された状態で、「開く」ボタンをクリックすると、データが読み込まれ、プロジェクトに登録されます。
- 「キャンセル」をクリックすると、この操作を中止します。

### 2) 参照

開きたいデータのパスを直接入力できます。「参照」ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログから、データを指定することができます。

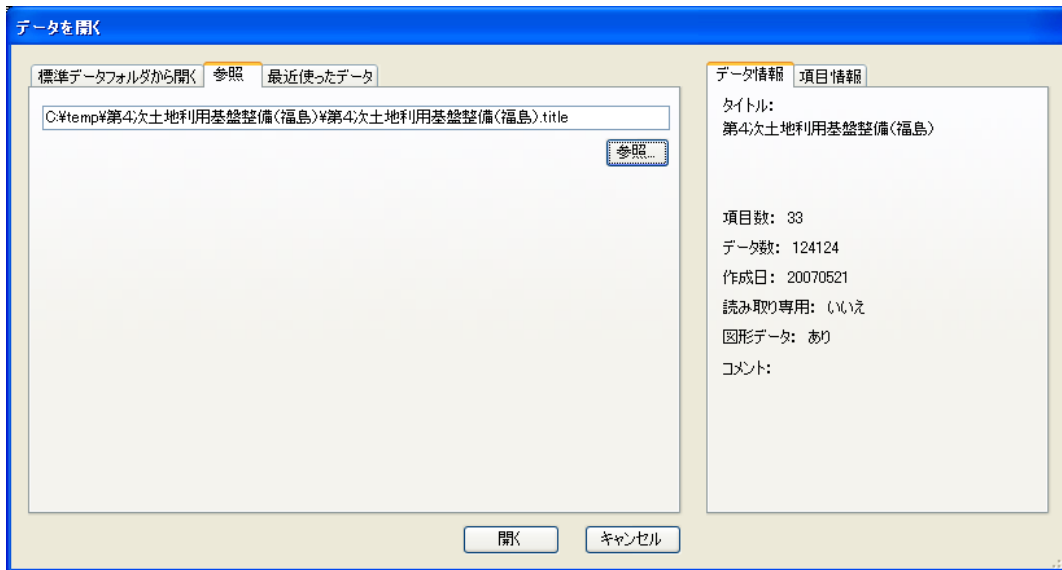


図 2-7 「データを開く」画面（「参照」タブ）

### 3) 最近使ったデータ

最近使ったデータの一覧がリスト表示されるので、開きたいデータを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

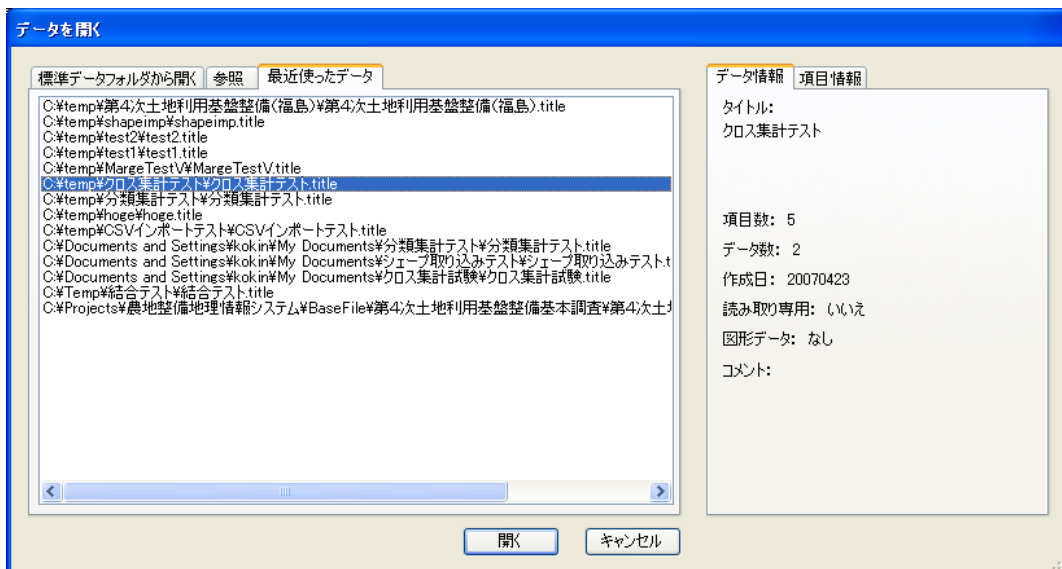


図 2-8 「データを開く」画面（「最近使ったデータ」タブ）

### 本システムのデータについて

本システムのデータは複数のファイルから構成され、原則として「1データ=1フォルダ」の状態で作成されています。ファイルが欠けると正常に取り扱うことができなくなりますので、データをコピーする際はフォルダごとコピーして下さい。

主要データファイル一覧


種類	拡張子	内容
タイトルファイル	title	データの諸元情報
データファイル	dataf	メインデータファイル
項目ファイル	itemf	データの項目情報
分級名称ファイル	rankf	分級（分類）項目の情報
図形データファイル	shp, shx	シェープファイル形式の図形データ、
文字データファイル	kanjf	文字項目データ、項目ごとに1ファイルとなる

※シェープファイル(shapefile)は ESRI 社が開発した標準的な地図フォーマットです。



## 2. 8 データを別名保存

メニュー：「ファイル」－「データを別名保存」

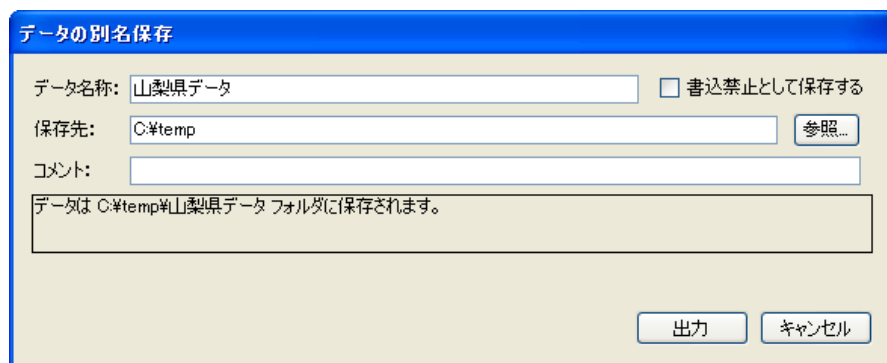
ツールバー：

現在表示しているデータを別名保存します。検索等により表示データが絞り込まれている場合は、表示されているデータだけが保存されます。

以下のような場合、データの別名保存が有効です。

- 検索の結果だけを別データとして保存したい。  
検索の結果を（永続的に）保存するにはデータを別名保存するか、表示キーを保存する必要があります（表示キーについては3. 2章を参照下さい）。検索の結果以外は不要という場合や元のデータとは別に管理したいという場合は、別名保存が有効です。
- 読み取り専用データの加工編集を行いたい。  
読み込み専用データについては、別名保存によりコピーを作成し、そのデータに対して編集を行う必要があります。
- 地図が表示できない。  
データ件数が百万件を超えるような大量データでは、メモリ不足で地図が表示できない場合があります。その場合は、使用したいデータを検索で絞り込み、別名保存することで、表示できるようになる場合があります。

メニューを実行すると、データ保存画面が表示されます。



データの別名保存

データ名称:   書込禁止として保存する

保存先:  

コメント:

データは C:\temp\山梨県データ フォルダに保存されます。

図 2 - 9 データ保存画面

- 「データ名称」には保存するデータの名称を指定します。この名称がデータのファイル名になります。
- 「書込禁止として保存する」をチェックすると、読み込み専用のデータとして保存されます。
- 「保存先」にデータを保存するフォルダを指定します。「参照」ボタンをクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、そこからフォルダを指定することもできます。
- 「コメント」には必要に応じてデータの説明等を入力して下さい。
- 「出力」ボタンをクリックするとデータの別名保存を開始します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、この操作を中止します。

## 2.9 データを閉じる

メニュー：「ファイル」－「データを閉じる」

現在表示しているデータを閉じ、プロジェクトから削除します。データに登録されているレイヤも削除されます。（データファイルそのものは削除されません）  
メニューを実行すると、次の確認画面が表示されます。

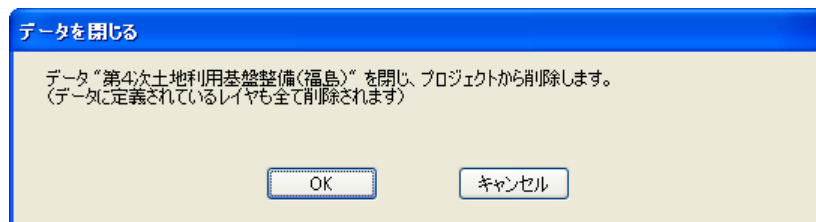


図 2-10 確認画面

- 「OK」ボタンをクリックすると、データを閉じます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、この操作を中止します。

## 2. 10 名前の変更

メニュー：「ファイル」－「名前の変更」

現在表示しているデータやレイヤの名称を変更します。

メニューを実行すると、名前の変更画面が表示されます。新たに設定したい名称を入力し、「保存」ボタンをクリックすることで、名称を変更できます。

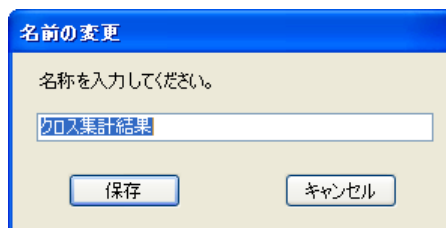


図 2 - 1 1 名前の変更画面

## 2. 1 1 削除

メニュー：「ファイル」－「削除」

現在のデータを完全に削除します（データファイルも削除されます）。

メニューを実行すると、削除確認の画面が表示されるので、本当に削除しても問題ないか確認の上、「削除確認」をチェックし、「削除実行」ボタンをクリックします。

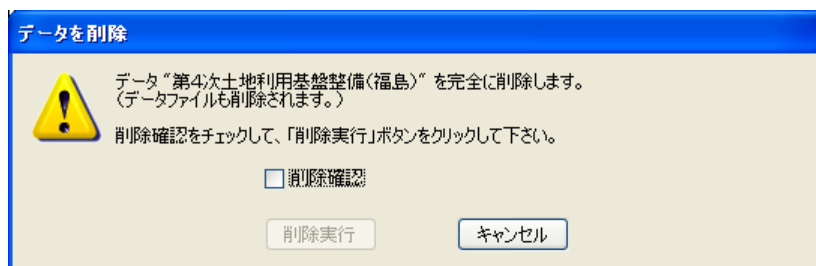


図 2 - 1 2 削除確認画面

本機能により削除されたデータファイルは復活することができませんので、実行には十分注意して下さい。

## 2. 1 2 インポート

### 2. 1 2. 1 シェープファイル

メニュー：「ファイル」－「インポート」－「シェープファイル」

シェープファイル形式のデータを本システムのデータ形式に変換し、データをプロジェクトに登録します。インポートは以下の4つの手順で行います。

1. シェープファイルの指定
2. 座標系の指定
3. インポートする項目の指定
4. データの保存先、諸元の指定

#### 1) シェープファイルの指定

メニューを実行すると、ファイル選択画面が表示されるので、インポートしたいシェープファイル（拡張子が **shp** のファイル）を指定します。

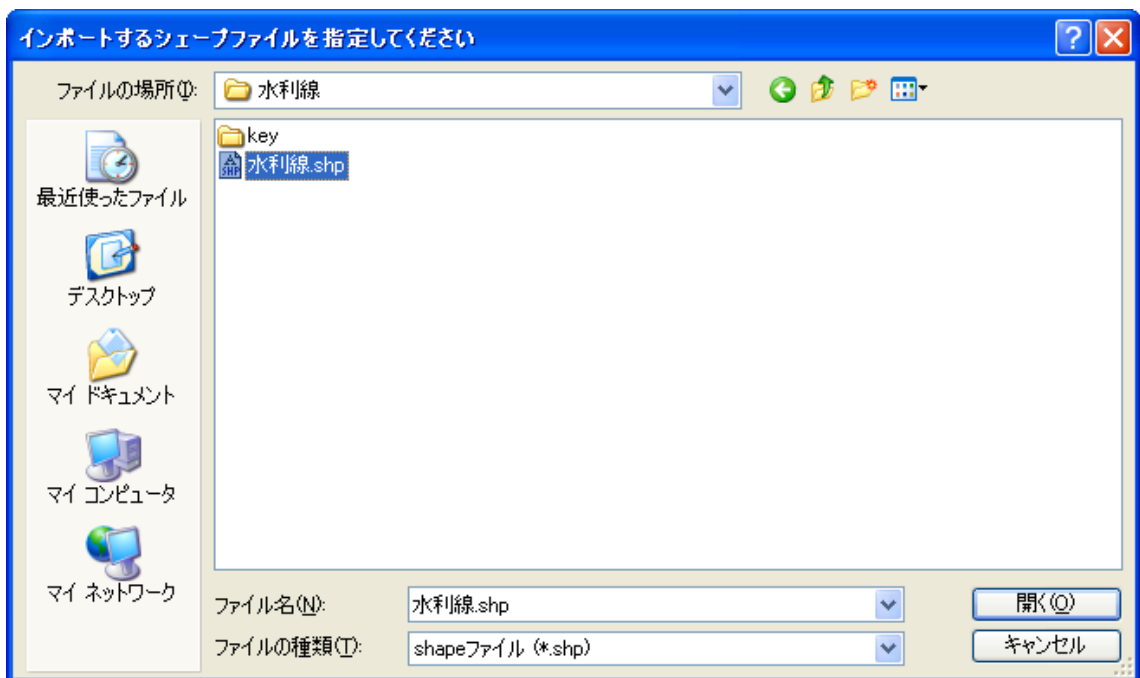


図 2 - 1 3 シェープファイルの指定画面

## 2) 座標系の指定

シェープファイルが指定されると、引き続き、シェープファイルインポート画面が表示されます。

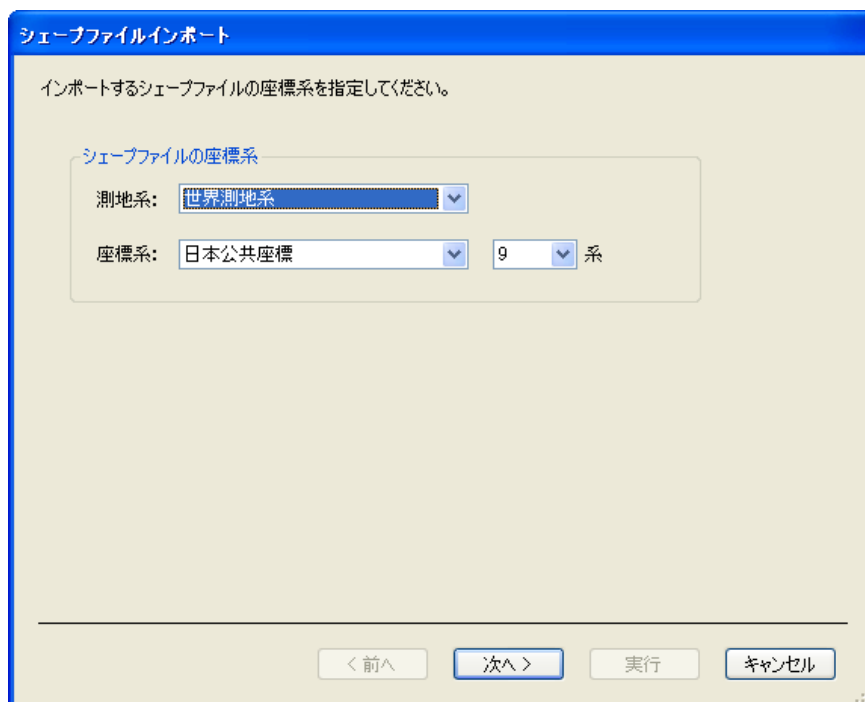


図 2-14 シェープファイルインポート画面

- インポートするシェープファイルの測地系、座標系を指定します。本システムでは表 2-1 に示す測地系・座標系をサポートしています。(測地系、座標系については巻末付録を参照してください)
- 「次へ」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。

表 2-1 サポートする座標系

測地系	世界測地系
	日本測地系
座標系	緯度経度
	日本公共座標 (平面直角座標)
	UTM 座標

インポートしたデータが他の背景データ等とずれて表示される、あるいは全く別の場所に表示される場合、座標系が正しく指定されていない場合があります。その場合は、データの作成元（提供元）に座標系を確認してください。

### 3) インポートする項目の指定

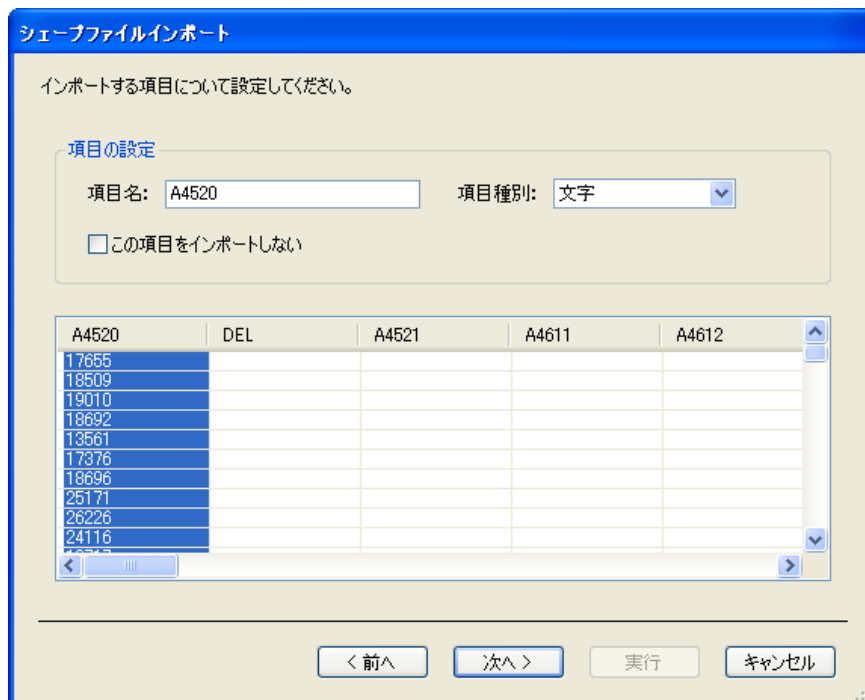


図 2-15 インポート項目の指定

- 指定したシェープファイルの属性データが表示されます。設定したい項目（カラム）をクリックすると、そのカラムの情報が「項目の設定」欄に表示されます。
- 項目名にはインポートする項目の名称を指定します。あらかじめ元の項目名が指定されていますが、変更することもできます。
- 項目種別にはインポートする項目の種別を指定します。あらかじめ元の項目種別に応じた種別が選択されていますが、変更することもできます。
- 項目がインポート不要の場合は「この項目をインポートしない」をチェックします。
- 「前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。



#### 4) データの保存先、諸元の指定

図 2 - 1 6 保存先・諸元の指定

- 「データ名称」には保存するデータの名称を指定します。この名称がデータのファイル名になります。
- 「書込禁止として保存する」をチェックすると、読み込み専用のデータとして保存されます。
- 「保存先」にデータを保存するフォルダを指定します。「参照」ボタンをクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、そこからフォルダを指定することもできます。
- 「コメント」には必要に応じてデータの説明等を入力して下さい。
- 「前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「実行」ボタンをクリックすると、インポートを実行します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。

## 2. 1 2. 2 CSV ファイル

メニュー：「ファイル」－「インポート」－「CSV ファイル」

CSV 形式（カンマ区切り形式）のデータを本システムのデータ形式に変換し、プロジェクトに登録します。インポートは以下の5つの手順で行います。

1. CSV ファイルの指定
2. 区切り文字の指定
3. インポートする項目の指定
4. ポイント座標の設定
5. データの保存先、諸元の指定

### 1) CSV ファイルの指定

メニューを実行すると、ファイル選択画面が表示されるので、インポートしたい CSV ファイルを指定します。

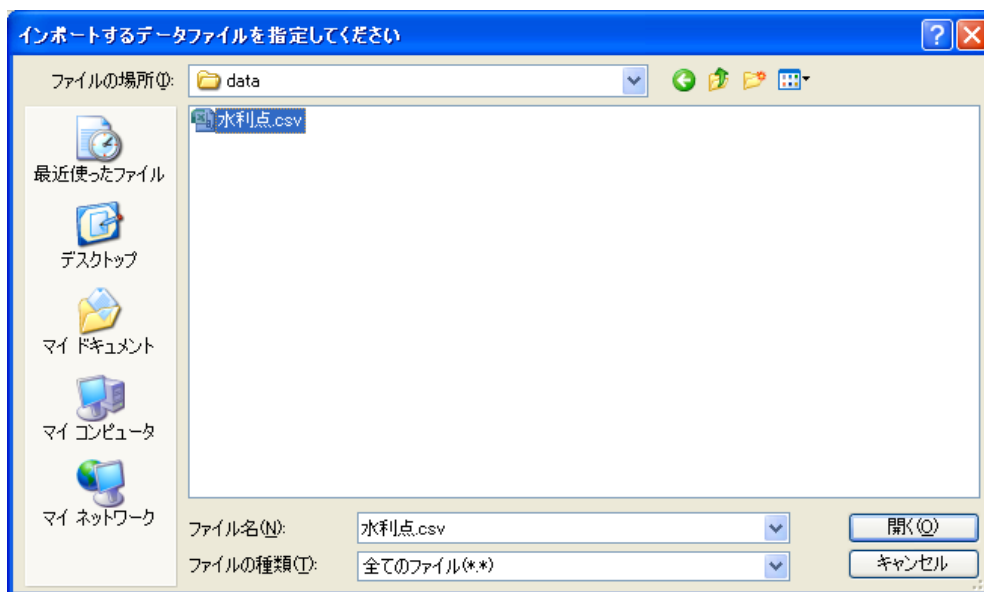


図 2 - 1 7 CSV ファイルの指定

## 2) 区切り文字の指定

区切り記号を設定してください。

項目区切り記号

カンマ タブ セミコロン スペース その他

先頭行を項目名として使用する

A4513	DEL	CODE	CITY	SSTFLG
2_24		0310021023003		
2_17		0310031014001		
2_18		0310031014003		
2_19		0310031014005		
2_98		0310041002024		
2_97		0310041002002		
2_100		0310031015001		
2_101		0310041009001		
2_105		0310041001001		
2_110		0310031015001		

< 前へ 次へ > 実行 キャンセル

図 2 - 1 8 区切り文字の指定

- 項目区切り記号を選択肢の中から指定します。データのサンプルが正しく表示されていない場合は区切り記号の指定が間違っています。
- 先頭行が項目名称の場合は、「先頭行を項目名として使用する」をチェックして下さい。
- 「前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。

### 3) インポートする項目の指定



図 2-19 インポートする項目の指定

- 指定した CSV ファイルのデータが表示されます。設定したい項目（カラム）をクリックすると、そのカラムの情報が「項目の設定」欄に表示されます。
- 「項目名」にはインポートする項目の名称を指定します。
- 「項目種別」にはインポートする項目の種別を指定します。あらかじめデータから自動判断された種別が選択されていますが、変更することもできます。
- 項目がインポート不要の場合は「この項目をインポートしない」をチェックします。
- 「前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。

#### 4) ポイント座標の設定

CSV ファイルにポイント座標データが含まれている場合は、ポイントデータとしてインポートすることができます。

(CSV インポートでは、ライン・ポリゴンのインポートはできません)

図 2-20 ポイント座標の設定

- ポイントデータを生成する場合は、「ポイントデータを生成する」をチェックして下さい。
- 座標値が格納されている項目を「経度 or X 座標」、「緯度 or Y 座標」に指定します。(座標系が緯度経度の場合は「経度」、「緯度」を、日本公共座標もしくは UTM 座標系の場合は「X 座標」、「Y 座標」を指定します)
- 座標値の「測地系」及び「座標系」を指定します。測地系、座標系については表 2-1 及び巻末付録を参照してください。
- 「データの形式」には格納されている座標値の形式を、画面中の説明を参考に指定して下さい。
- 「前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。

## 5) データの保存先、諸元の指定

図 2 - 2 1 保存先、諸元の設定

- 「データ名称」には保存するデータの名称を指定します。この名称がデータのファイル名になります。
- 「書込禁止として保存する」をチェックすると、読み込み専用のデータとして保存されます。
- 「保存先」にデータを保存するフォルダを指定します。「参照」ボタンをクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、そこからフォルダを指定することもできます。
- 「コメント」には必要に応じてデータの説明等を入力して下さい。
- 「前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「実行」ボタンをクリックすると、インポートを実行します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、インポートを中止します。

## 2. 13 エクスポート

### 2. 13. 1 シェープファイル

メニュー：「ファイル」－「エクスポート」－「シェープファイル」

現在表示しているデータをシェープファイル形式で出力します。地図データを持たないデータの場合は、属性データのみを DBF 形式で出力します。

メニューを実行すると、シェープファイルエクスポート画面が表示されます。

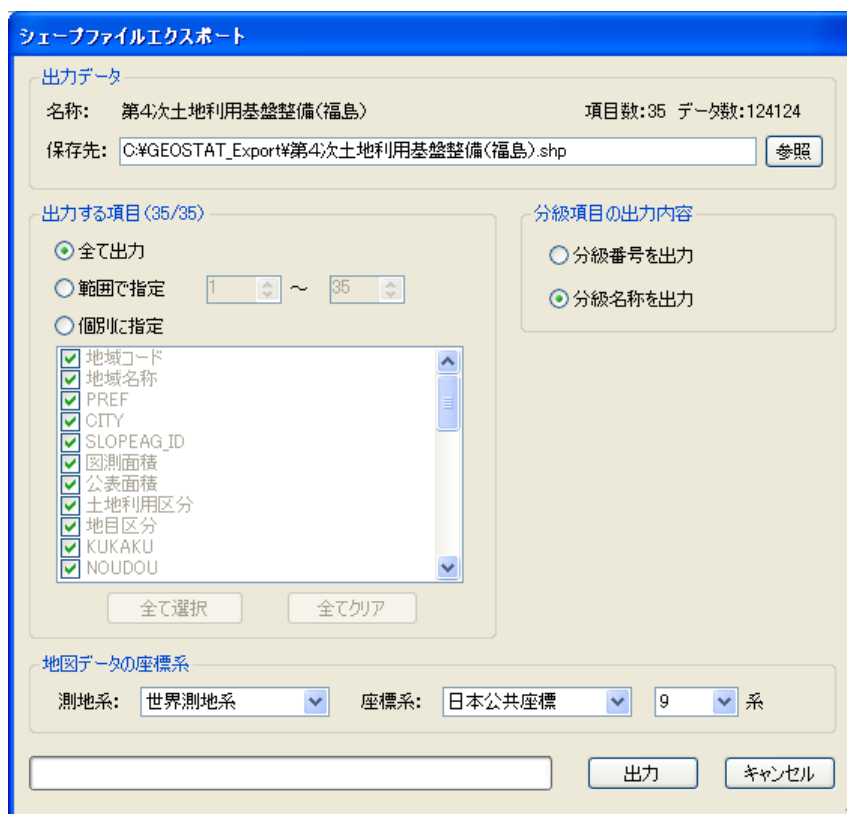


図 2-22 シェープファイルのエクスポート

#### <出力データ>

- データの保存先を指定します。「参照」ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログで指定することができます。

#### <出力する項目>

- 「すべて出力」を選択するとすべての項目を出力します。
- 「範囲で指定」を選択すると、出力する項目の範囲を指定します。
- 「個別に指定」を選択すると、項目リストでチェックされている項目だけを出力します。「すべて選択」ボタンをクリックするとリスト中の全項目をチェ

ックします。また「すべてクリア」ボタンをクリックすると、リスト中の全項目のチェックをはずします。

<分級項目の出力内容>

- 分級（分類）項目を、分級番号で出力するか、分級名称で出力するか指定します。

<地図データの座標系>

- 出力する地図データの測地系と座標系を指定します。出力するデータの利用先での座標系を指定して下さい。サポートしている座標系については、2.11.1章の表2-1を参照して下さい。



## 2. 13. 2 CSV ファイル

メニュー：「ファイル」－「エクスポート」－「CSV ファイル」

現在表示しているデータを CSV ファイル形式で出力します。出力は属性データのみで、地図データは出力されません。

メニューを実行すると、CSV ファイルエクスポート画面が表示されます。

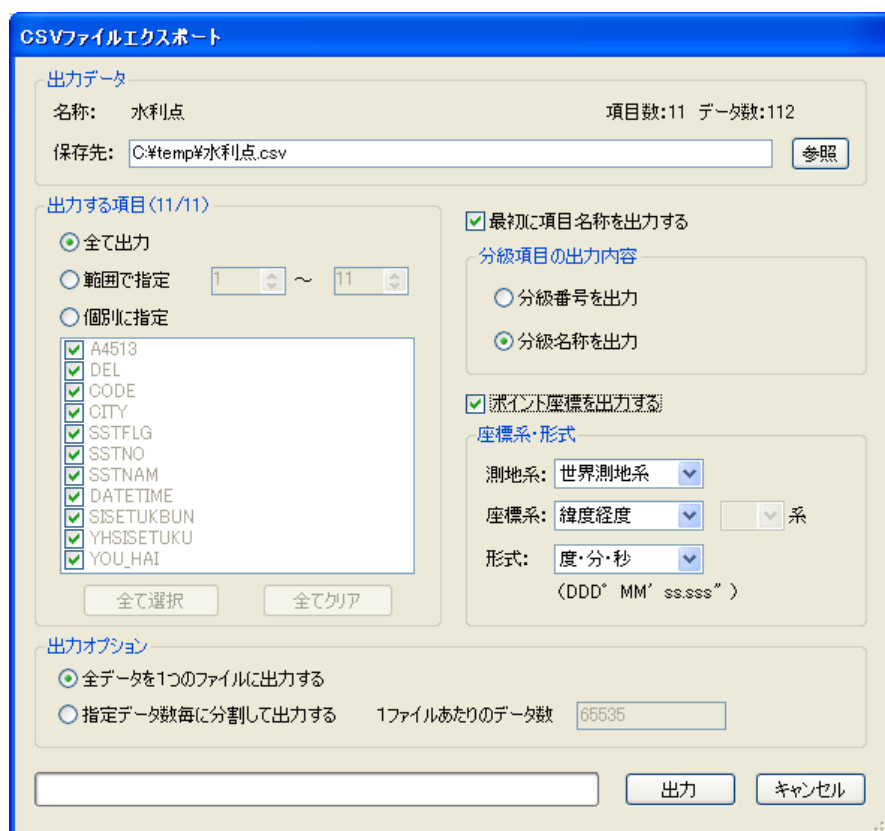


図 2-23 CSV ファイルのエクスポート

### <出力データ>

- データの保存先を指定します。「参照」ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログで指定することができます。

### <出力する項目>

- 「すべて出力」を選択するとすべての項目を出力します。
- 「範囲で指定」を選択すると、出力する項目の範囲を指定します。
- 「個別に指定」を選択すると、項目リストでチェックされている項目だけを出力します。「すべて選択」ボタンをクリックするとリスト中の全項目をチェ

ックします。また「すべてクリア」ボタンをクリックすると、リスト中の全項目のチェックをはずします。

#### <項目名称の出力>

- 「最初に項目名称を出力する」をチェックすると、データの最初の行に項目名を出力します。

#### <分級項目の出力内容>

- 分級（分類）項目を、分級番号で出力するか、分級名称で出力するか指定します。

#### <ポイント座標の出力>

- 出力対象データがポイントの場合、ポイントの座標値を出力することができます。座標値を出力する場合は「ポイント座標を出力する」をチェックして下さい。
- 出力する座標値の「測地系」及び「座標系」を指定します。測地系、座標系については表 2-1 及び巻末付録を参照してください。
- 出力する座標値の「形式」を選択肢の中から指定します。

#### <出力オプション>

- 「全データを1つのファイルに出力する」が選択されていると、データを分割せずに出力します。データ件数が多い場合、Excel 等で開けない場合がありますので、ご注意下さい。
- 「指定データ数ごとに分割して出力する」を選択すると、指定されたデータ数ごとにファイルを分割して出力します。件数が多いデータを Excel で再利用する場合は、こちらを指定して下さい。

## 2. 1 4 ページ設定

メニュー：「ファイル」－「ページ設定」

印刷のページ設定を行います。

メニューを実行すると、ページ設定画面が表示されます。

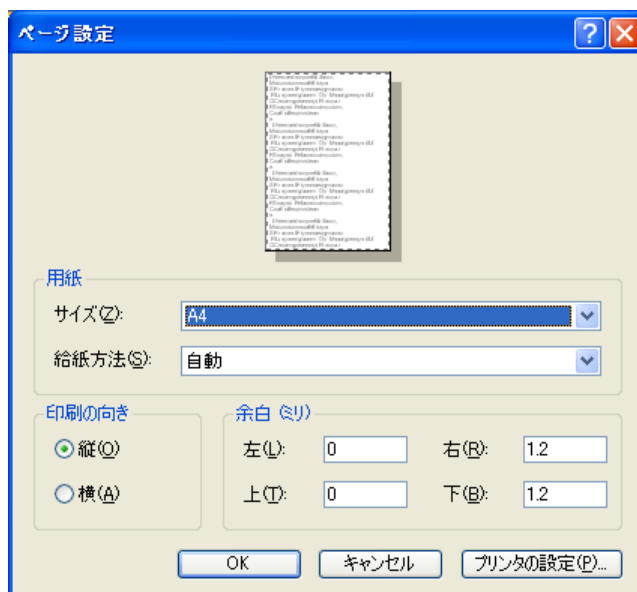



図 2 - 2 4 ページ設定画面

- まず、「プリンタの設定」ボタンをクリックし、現在選択されているプリンタを確認します。利用したいプリンタが選択されていない場合は、選択します。
- 利用したい用紙のサイズ、用紙の給紙方法をリストから選択します。
- 印刷の向きを指定します。

## 2. 15 印刷

メニュー：「ファイル」－「印刷」

ツールバー：

現在のカレントデータの内容を印刷します。カレントデータがマップ・レイヤの場合は画面での表示中心が用紙の中心になるように用紙いっぱいに印刷されます。カレントデータが属性の場合は表が印刷されます。

メニューを実行すると、印刷画面が表示されます。

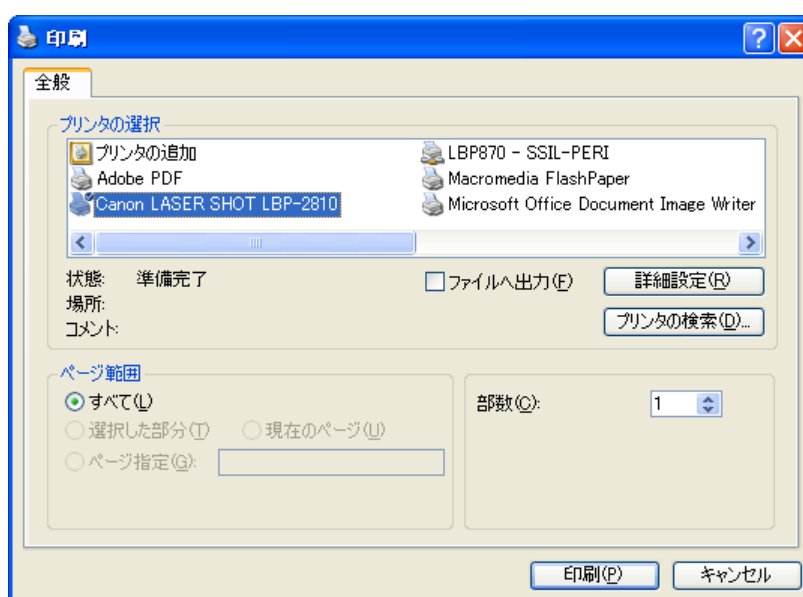


図 2 - 2 5 印刷画面

- 使用するプリンタが選択されていることを確認します。使用するプリンタが選択されていなければ選択します。必要に応じて、「詳細設定」ボタンをクリックし、用紙の設定やプリンタのオプション設定を行います。
- 「印刷(P)」ボタンをクリックすると印刷を開始します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、印刷を中止します。

属性印刷の場合は、印刷ページ数が 10 ページを超える場合に、次のようなメッセージが表示されます。印刷を実行する場合は「はい」ボタンをクリックして下さい。

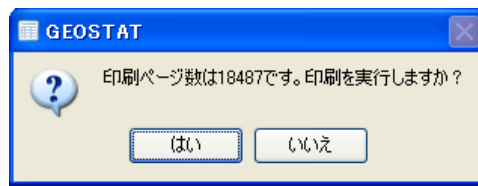


図 2 - 2 6 大量印刷確認メッセージ

## 2. 1 6 環境設定

メニュー：「ファイル」－「環境設定」

本システムで利用する標準データフォルダおよび背景用地図データの格納場所を指定します。

メニューを実行すると、次のような画面を表示します。



図 2 - 2 7 環境設定画面

- 標準データフォルダおよび地図データ格納フォルダに、それぞれデータが格納されている場所（フォルダ）を指定します。これらの設定は必須です。「参照」ボタンをクリックするとフォルダ指定画面が表示されるので、そこからフォルダを指定することもできます。
- 「設定」ボタンをクリックすると設定を登録します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を中止します。

標準データフォルダ：

よく利用するデータや、購入したデータを格納する場所として使用します。このフォルダに格納されているデータは、「データを開く」（2. 6章参照）から簡単に参照することができます。

地図データ格納フォルダ：

本システムに付属の背景用地図データを格納してあるフォルダです。

## 2. 17 最近使ったプロジェクト

メニュー：「ファイル」－「最近使ったプロジェクト」

最近使ったプロジェクトは、利用順に5つまでこのメニューの下にサブメニューとして登録されています。ここから指定することで、即座にプロジェクトを開くことができます。

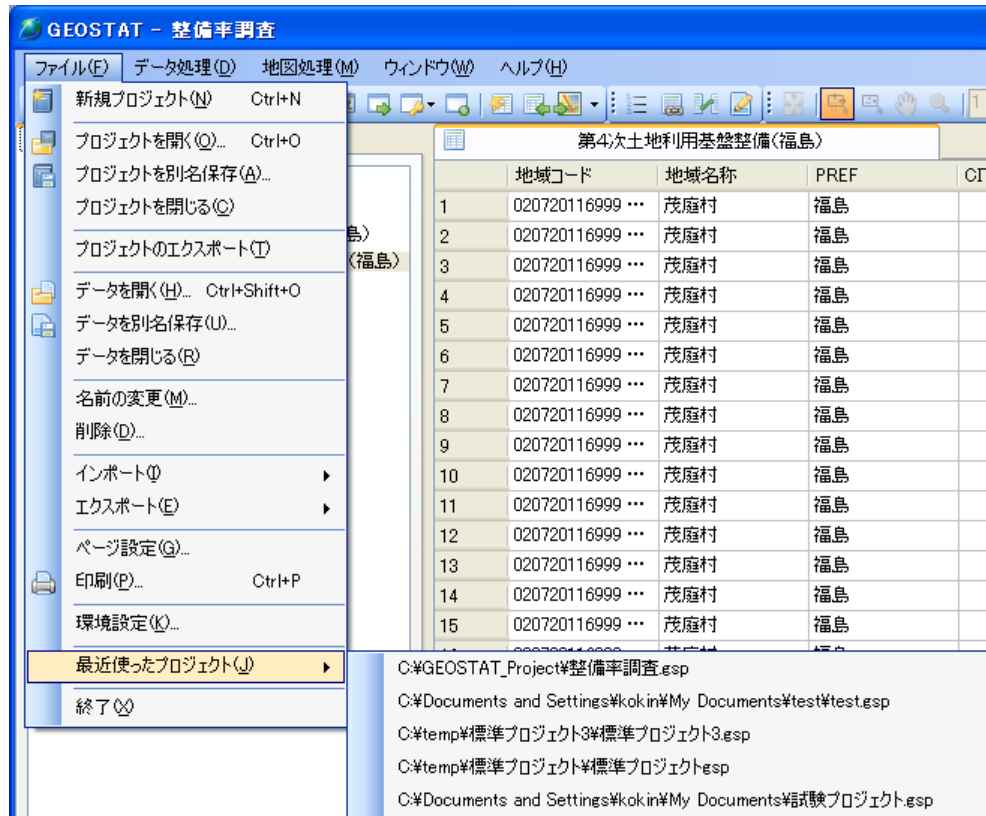


図 2-28 最近使ったプロジェクト表示例

## 2. 18 終了

メニュー：「ファイル」－「終了」

システムを終了します。開いているプロジェクトの内容が変更されている場合は、保存確認のメッセージが表示されます。

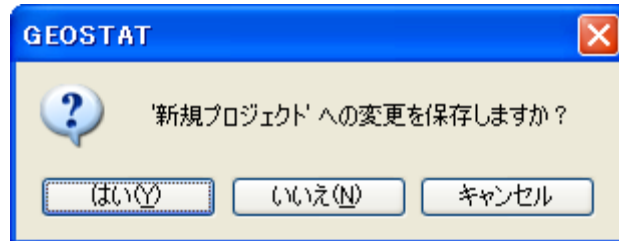


図 2 - 2 9 保存確認メッセージ


- 「はい」をクリックすると、プロジェクトが保存されます。新規プロジェクトの場合は、保存先を指定する画面が表示されるので、プロジェクトファイルの保存先を指定して下さい（2. 4章）。
- 「いいえ」をクリックすると保存をせずにシステムを終了します。
- 「キャンセル」をクリックすると、終了操作をキャンセルします。



## 3. データ処理メニュー

### 3.1 検索

メニュー：「データ処理」－「検索」

ツールバー：

現在表示している属性データに対して、検索条件を指定し検索を行います。検索は複数の条件を組み合わせて行うことができます。検索の条件は項目の種別により以下の中から指定できます。

表 3-1 検索条件

数値項目	「等しい」、「等しくない」、「より大きい」、「以上」、「以下」、「未満」
文字項目	「等しい」、「等しくない」、「含む」、「含まない」
分類項目	「等しい」、「等しくない」

メニューを実行すると、検索条件の一覧画面が表示されます。

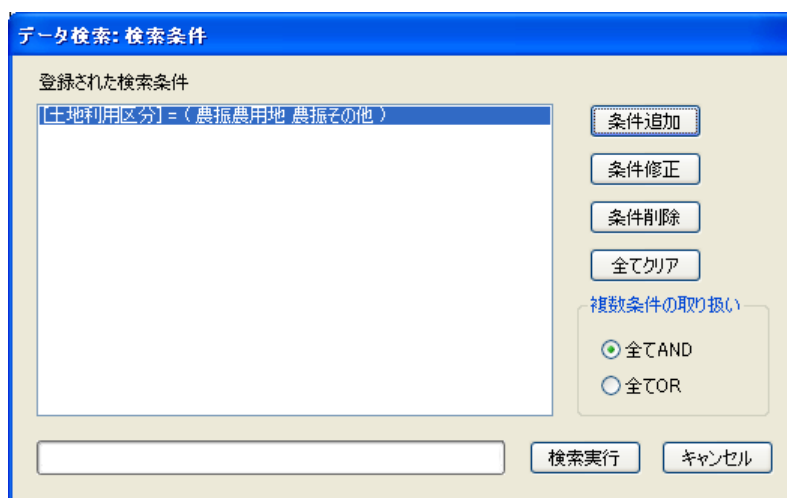


図 3-1 検索条件一覧

- 「条件追加」ボタンをクリックすると、検索条件の入力画面（図 3-2）を表示します。
- 表示されている検索条件を選択し、「条件修正」ボタンをクリックすると、選択された条件を修正できます。
- 表示されている検索条件を選択し、「条件削除」ボタンをクリックすると、選択された条件を削除します。

- 「全てクリア」ボタンをクリックすると、登録されている検索条件を全て削除します。
- 「複数条件の取り扱い」では、検索条件が複数登録されている場合にその条件をすべて AND として検索するか、OR として検索するか指定します。
- 「検索実行」ボタンをクリックすると検索を実行します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると検索をキャンセルします。

### 検索条件の入力・修正

図 3 - 2 検索条件の入力

- 検索項目リストから、検索したい項目を指定します。
- 条件リストには選択された項目に応じて利用可能な選択肢が表示されるので、そこから選択します。
- 値には検索する値を入力します。複数の値を入力したい場合は、間にスペースを入れて下さい。項目が分類項目の場合は、「リストから選択」ボタンをクリックすると、分類値の一覧が表示されるので、そこから選択することができます（複数可）。
- 「登録」ボタンをクリックすると、指定された条件を登録し、検索条件一覧画面に表示します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、検索条件の入力を中止します。

## 検索の結果を表示する

検索の実行が完了すると、次のようなメッセージが表示されます。

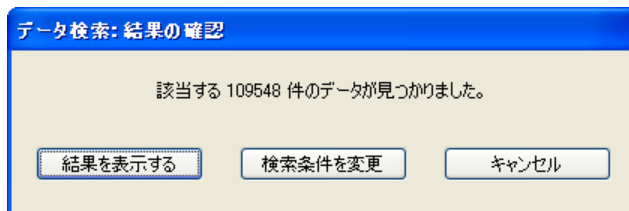


図 3 - 3 結果確認

- 検索結果を表示する場合は、「結果を表示する」ボタンをクリックします。結果は元の画面に即座に反映されます（該当データのみが表示されます）。
- 検索条件を見直す場合は、「検索条件を変更」ボタンをクリックします。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、検索処理を中止します。

検索結果の表示例：（画面下部のデータ数が絞り込まれていることが分かります）

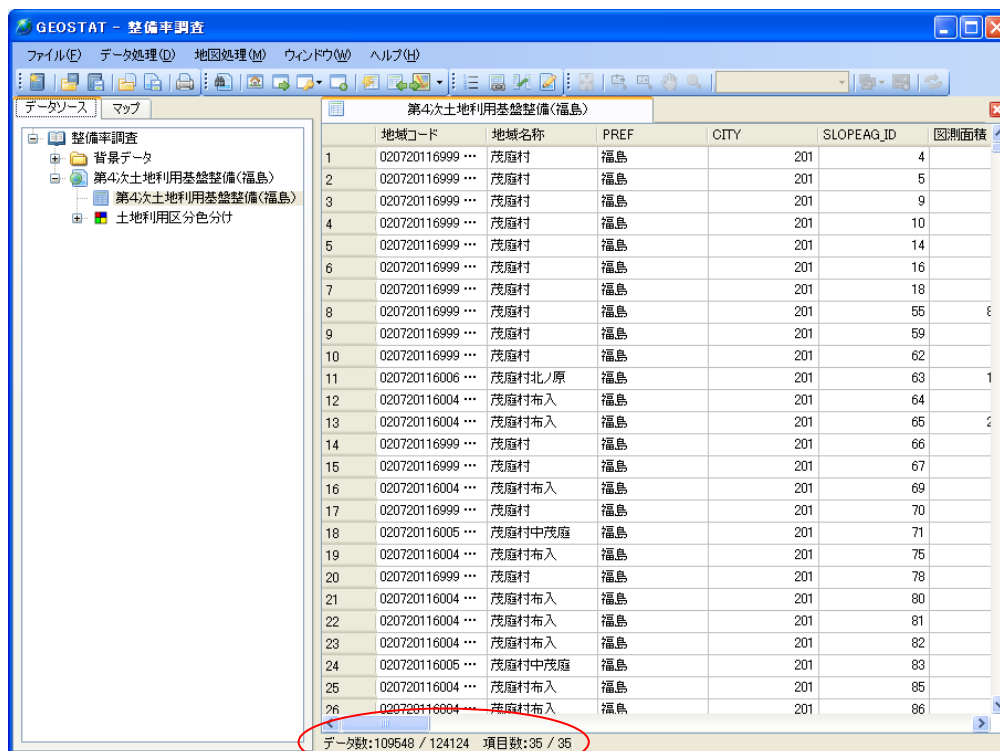


図 3 - 4 結果表示例

この絞り込み表示を元に戻す（全て表示する）には、次に説明する表示キーで「全てを表示する」を実行します。

## 3. 2 表示キー

検索等によって絞り込まれた状態を表示キーとして記録することができます。表示キーでは表示しているデータのインデックスのみを管理するので、1つのデータに複数の表示キーを登録することができます。表示キーを利用することで、簡単な操作で表示内容を切り替えることができ、データを増やさずに検索結果を管理することができます。

### 3. 2. 1 表示キーを指定

メニュー：「データ処理」－「表示キーを指定」

ツールバー： (全て表示)、 (選択のみ表示)、 (表示キーを指定)

登録されている表示キーの読み込みや解除（表示状態のリセット）を行います。「表示キーを指定」メニューには次に示すようなサブメニューがあります。

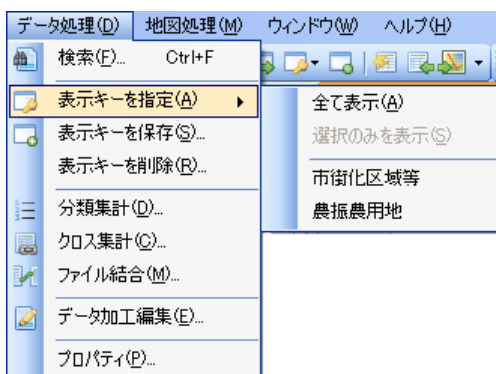



図 3-5 「表示キーを指定」メニュー表示例

- 「全て表示」メニューを実行すると、検索あるいは表示キーにより絞り込まれた表示を元の状態にリセットします。
- 「選択のみ表示」メニューは、表あるいは地図表示で手動で選択したデータ（強調表示されているデータ）のみを表示します。
- 「選択のみ表示」メニューの下には、現在のデータに登録されている表示キーがメニューとして表示されます。ここから表示したい表示キーを選択するだけで、簡単に表示状態を切り替えることができます。

表示キーによる表示状態の変更は属性、地図両方とも同時に行われます。

### 3. 2. 2 表示キーを保存

メニュー：「データ処理」－「表示キーを保存」

ツールバー：

現在の表示状態を表示キーとして保存します。メニューを実行すると、表示キーの名称を入力する画面が表示されます。

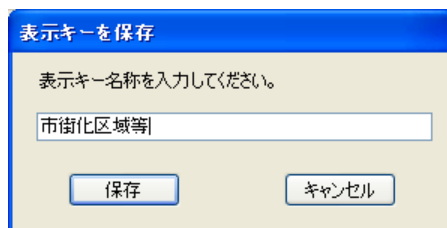


図 3 - 6 表示キー登録画面

- 保存する表示キーの名称を入力します。すでに使われている表示キー名称を指定することはできません。
- 「保存」ボタンをクリックすると、指定された名称で表示キーを作成します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、表示キーの保存をキャンセルします。

### 3. 2. 3 表示キーの削除

メニュー：「データ処理」－「表示キーを削除」

登録されている表示キーを削除します。メニューを実行すると、表示キーの削除画面が表示されます。

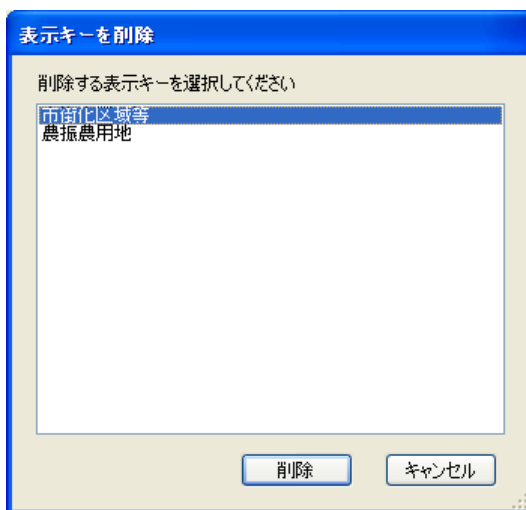



図 3 - 7 表示キーの削除画面

- 登録されている表示キーが一覧表示されるので、削除したい表示キーを選択します。
- 「削除」ボタンをクリックすると、選択されている表示キーを削除します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、表示キーの削除をキャンセルします。

### 3.3 分類集計

メニュー：「データ処理」－「分類集計」

ツールバー：

指定された分類項目の値ごとに、集計項目の値とデータ件数を集計します。分類項目には最低1項目は指定する必要があります（最大の制限はありません）。集計項目には制限はありません（集計項目が指定されない場合は、件数集計のみを行います）。

メニューを実行すると分類集計画面を表示します。

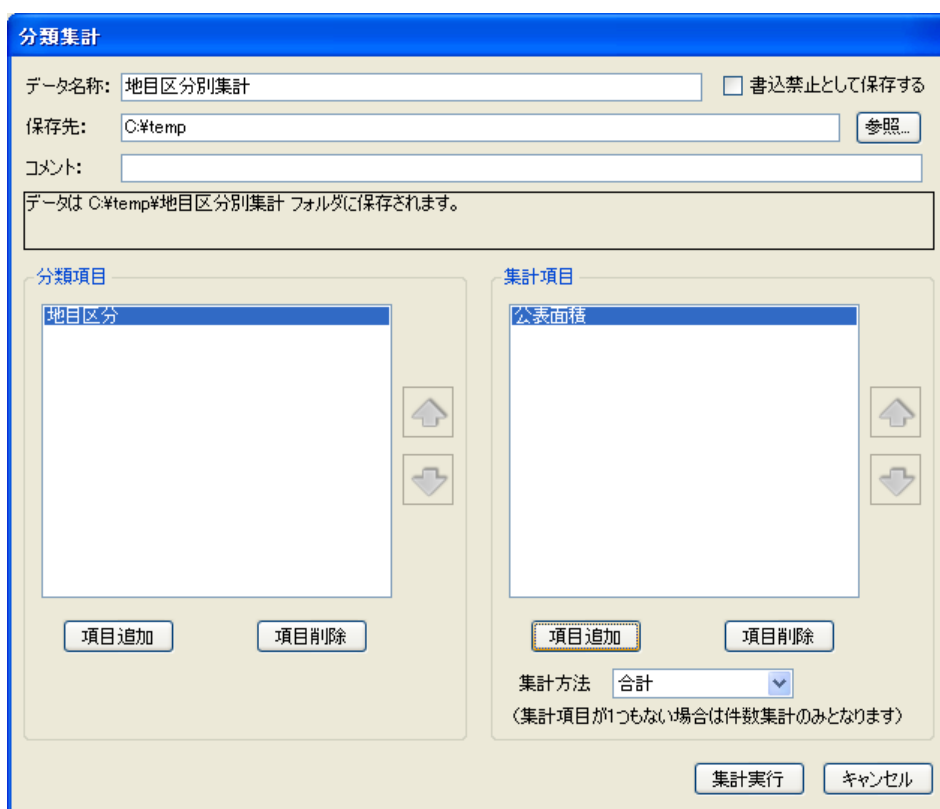


図3-8 分類集計画面

<データ名称>

- 集計された結果を保存する名称を指定します。

<分類項目>

- 「項目追加」ボタンをクリックすると、項目の選択画面が表示されます。そこで指定した項目が分類項目として追加されます。
- 分類項目として登録されている項目を選択し、「項目削除」ボタンをクリックすると、その項目を分類項目から除外します。

- 分類項目として登録されている項目を選択し、リスト横の上下矢印により、項目の集計順を入れ替えることができます。

#### <集計項目>

- 「項目追加」ボタンをクリックすると、項目の選択画面が表示されます。そこで指定した項目が集計項目として追加されます。
- 集計項目として登録されている項目を選択し、「項目削除」ボタンをクリックすると、その項目を集計項目から除外します。
- 集計項目として登録されている項目を選択し、リスト横の上下矢印により、項目の順番を入れ替えることができます。
- 集計方法を選択リストから指定します。集計項目が1つも指定されていない場合は、「件数」以外を選択することはできません。

#### <集計の実行>

- 「集計実行」ボタンをクリックすると、分類集計を開始します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、分類集計をキャンセルします。

### 項目の選択

分類項目及び集計項目の選択は項目の選択画面にて行います。

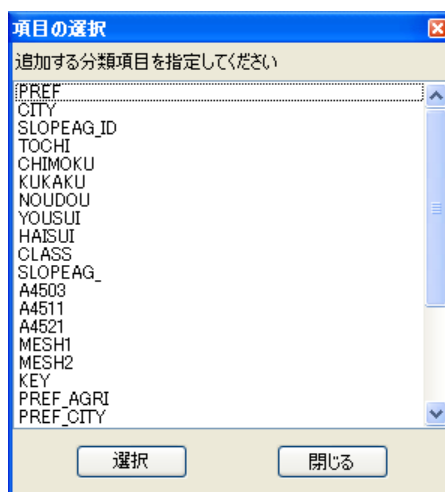


図 3-9 項目選択画面

- 選択可能な項目の一覧が表示されます。項目をマウスでダブルクリックする、あるいは項目を選択して「選択」ボタンをクリックすると対象項目として登




録されます。

- 「キャンセル」 ボタンをクリックすると、この操作を中止します。

### 3. 4 クロス集計

メニュー：「データ処理」－「クロス集計」

ツールバー：

指定された表側項目、表頭項目ごとに、集計項目の値を集計します。

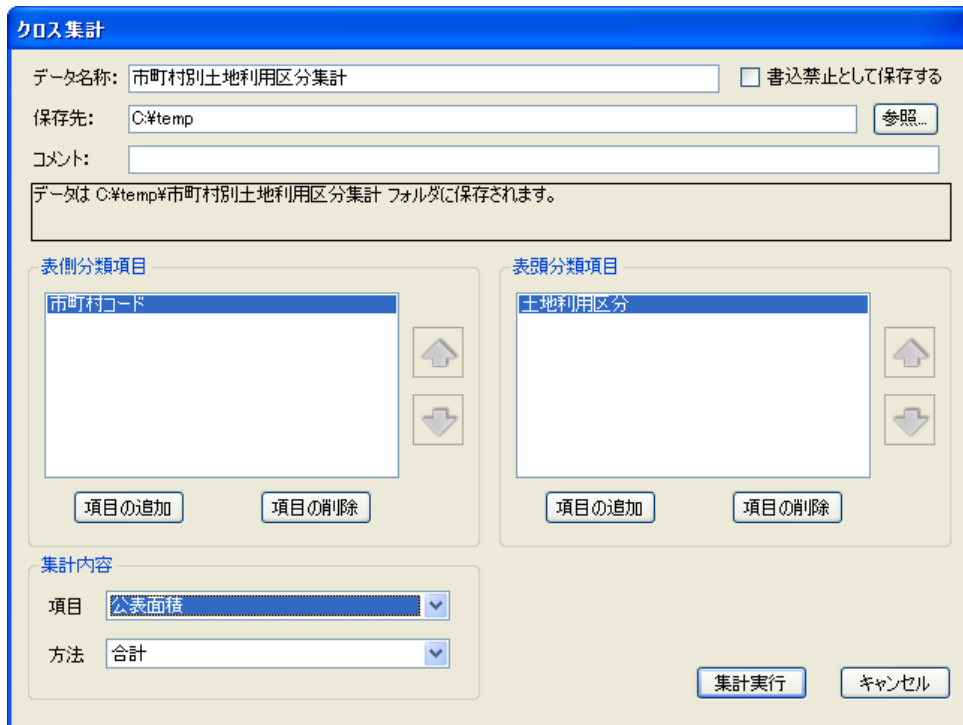


図 3-10 クロス集計画面

<データ名称>

- 集計された結果を保存する名称を指定します。

<表側分類項目、表頭分類項目>

- 「項目の追加」ボタンをクリックすると、項目の選択画面（図 3-9）が表示されます。そこで指定した項目がそれぞれの分類項目として追加されます。
- 分類項目として登録されている項目を選択し、「項目の削除」ボタンをクリックすると、その項目を分類項目から除外します。
- 分類項目として登録されている項目を選択し、リスト横の上下矢印により、項目の集計順を入れ替えることができます。

<集計内容>


- 集計する項目と集計の方法をリストから選択します。

<集計の実行>

- 「集計実行」ボタンをクリックすると、クロス集計を開始します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、クロス集計をキャンセルします。

### 3. 5 ファイル結合

メニュー：「データ処理」－「ファイル結合」

ツールバー：

2つのデータを結合し、新たなデータを作成します。結合の方法は以下に示す3パターンが用意されています。

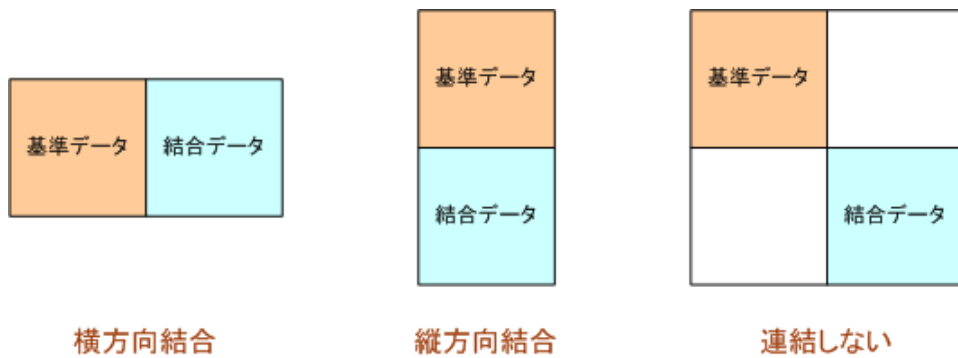


図3-11 結合方法

横方向結合：

横方向結合によるファイル結合では、基準データのレコード（行）に結合データのレコード（行）を連結します。

縦方向結合：

基準データの項目に結合データの項目を連結します。

連結しない：

レコードや項目を全く連結せずに2つのデータを1データにまとめます。

ファイル結合の設定は以下のようなウィザード形式で進めます。以降、画面ごとに操作を説明します。

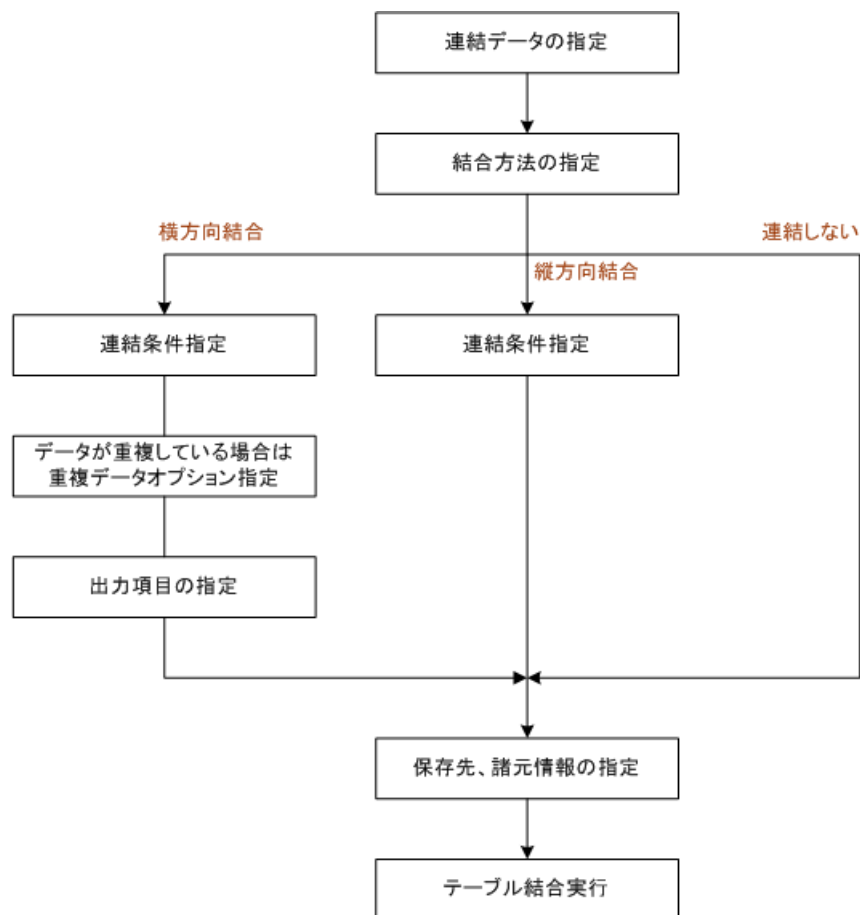


図 3-12 ファイル結合の流れ

## 1) 連結データの指定

結合する2つのデータを指定します。

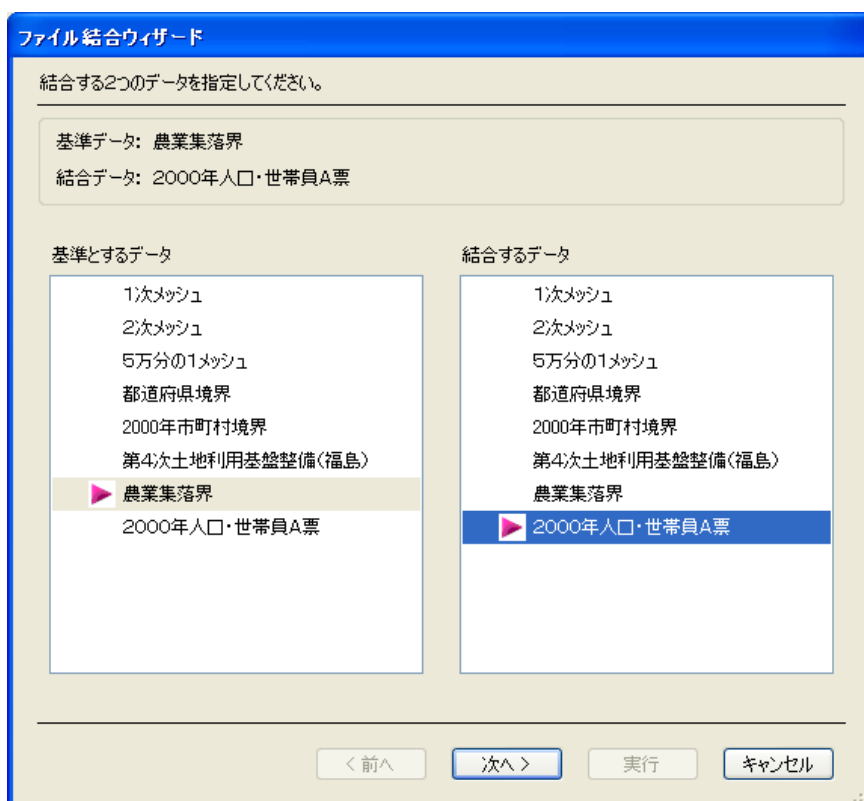


図 3 - 1 3 結合データの指定

- 基準とするデータ、結合するデータをそれぞれ指定します。
- 「次へ >」 ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」 ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。

## 2) 結合方法の指定

データの結合方法を指定します。



図 3-1-4 結合方法の指定

- 結合方法を3つのパターン（図3-1-1参照）から指定します。
- 「< 前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ >」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。

### 3) 連結条件指定 (横方向結合)

横方向結合の連結条件を指定します。

図 3 - 1 5 連結条件指定 (横方向結合)

- どのようにしてデータを連結するか、以下の2つのオプションから指定します。
  - データ順で連結する：  
データ順に連結を行います。
  - 項目の値で連結する：  
指定されたキー項目の値が一致するデータ同士を連結します。キーとなる項目の指定が必要です。
- 連結するデータが見つからない場合の処理を指定します。
  - 出力しない：  
連結するデータが見つからない場合は、基準データ、結合データともにそのデータは出力しません。
  - 基準データ側のデータは出力する：  
基準データは元のデータのまま全て出力されます。結合データは連結先が見つかったものしか出力しません。



➤ 全て出力する：

この場合は、「基準データ側のデータは出力する」を指定したときと同様にデータを出力し、最後に出力されていない結合データ側のデータを出力します。

- 「< 前へ」 ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ >」 ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」 ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。

#### 4) 重複データオプション指定 (横方向結合)

地域コードもしくは項目の値で連結する場合は、その値がユニークかどうか (重複しているかどうか) の確認が行われます。基準データ側もしくは結合データ側の値に重複があった場合は、データの重複をどう取り扱うか指定するために本画面が表示されます。なお、基準データ側と結合データ側の両方とも重複している場合は、本システムでは取り扱うことはできません。

ファイル結合ウィザード

横方向結合: 重複データに関するオプションを指定してください。

基準データ: 農業集落界  
結合データ: 2000年人口・世帯員A票

基準データ側のキー項目はユニークではありません。データ連結に関するオプションを指定して下さい。

最初に一致したデータと連結する  
 重複しているデータを全て足し合わせて連結する  
 一致する全てのデータと連結する

< 前へ   次へ >   実行   キャンセル

図 3 - 1 6 重複データオプション指定

- 基準データ側に重複があった場合は、以下のオプションから指定します。
    - 「最初に一致したデータと連結する」
    - 「一致する全てのデータと連結する」
  - 結合データ側に重複があった場合、以下のオプションから指定します。
    - 「最初に一致したデータと連結する」
    - 「重複しているデータを全て足し合わせて連結する」
  - 「< 前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
  - 「次へ >」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
  - 「キャンセル」ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。
- オプションについては次ページ以降の説明を参照して下さい。

**基準データ側に重複があった場合：**

以下のような元データを例に考えます。

基準データ					結合データ			
番号	項目1	項目2	項目3	キー項目	番号	項目1	項目2	キー項目
1				1	1			1
2				1	2			2
3				1	3			3
4				2	4			4
5				3	5			5
6				3	6			6
7				4				
8				4				
9				4				
10				5				
11				6				

最初に一致したデータと連結する場合は、線で結ばれたデータが連結されて出力されます。灰色のデータは連結対象無しと判断されます。

基準データ					結合データ			
番号	項目1	項目2	項目3	キー項目	番号	項目1	項目2	キー項目
1				1	1			1
2				1	2			2
3				1	3			3
4				2	4			4
5				3	5			5
6				3	6			6
7				4				
8				4				
9				4				
10				5				
11				6				

一致する全てのデータと連結する場合は、結合データ側は同じデータが何度も出力されます（水色の部分）。

基準データ					結合データ			
番号	項目1	項目2	項目3	キー項目	番号	項目1	項目2	キー項目
1				1	1			1
2				1	1			1
3				1	1			1
4				2	2			2
5				3	3			3
6				3	3			3
7				4	4			4
8				4	4			4
9				4	4			4
10				5	5			5
11				6	6			6

**結合データ側に重複があった場合：**

以下のような元データを例に考えます。

基準データ				結合データ				
番号	項目1	項目2	キー項目	番号	項目1	項目2	項目3	キー項目
1			1	1		あ	8	1
2			2	2		い	4	1
3			3	3		う	22	1
4			4	4		え	3	2
5			5	5		お	7	3
6			6	6		か	12	3
				7		き	9	4
				8		く	11	4
				9		け	4	4
				10		こ	2	5
				11		さ	10	6

最初に一致したデータと連結する場合は、線で結ばれたデータが連結されて出力されます。灰色のデータは連結対象無しと判断されます。

基準データ				結合データ				
番号	項目1	項目2	キー項目	番号	項目1	項目2	項目3	キー項目
1			1	1		あ	8	1
2			2	2		い	4	1
3			3	3		う	22	1
4			4	4		え	3	2
5			5	5		お	7	3
6			6	6		か	12	3
				7		き	9	4
				8		く	11	4
				9		け	4	4
				10		こ	2	5
				11		さ	10	6

重複しているデータを全て足し合わせて連結する場合は、結合データ側のキーが一致するデータを足し合わせて出力します。足し合わせは数値項目のみが対象で、それ以外の項目は最初に一致したデータが使用されます。

基準データ				結合データ				
番号	項目1	項目2	キー項目	番号	項目1	項目2	項目3	キー項目
1			1	6		あ	34	1
2			2	4		え	3	2
3			3	11		お	19	3
4			4	24		き	24	4
5			5	10		こ	2	5
6			6	11		さ	10	6

## 5) 出力項目の指定 (横方向結合)

出力する項目を指定します。

図 3-17 出力項目の指定

- 基準データ側および結合データ側の項目がリスト表示されるので、それぞれ出力する項目を指定します。
- 「全てチェック」ボタンをクリックすると、リスト中の項目を全てチェックします。
- 「全てクリア」ボタンをクリックすると、リスト中の項目のチェックを全てはずします。
- 「< 前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ >」ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。

## 6) 連結条件指定 (縦方向結合)

項目の連結方法を指定します。

ファイル結合ウィザード

縦方向結合: 結合条件を指定して下さい。

基準データ: 農業集落界  
結合データ: 2000年人口・世帯員A票

連結方法

項目名称が一致するものを連結する  
 項目順に連結する

名称が一致する項目が見つからない場合の処理

出力しない  
 基準データ側の項目は出力する  
 全て出力する(連結されなかった連結側項目は最後に出力されます)

< 前へ   次へ >   実行   キャンセル

図 3 - 1 8 結合条件の指定 (縦方向結合)

- 項目の連結方法を指定します。
  - 項目名称が一致するものを連結する：  
項目名称が一致する項目同士を連結します。
  - 項目順に連結する：  
項目を順番に連結します。
- 連結する項目が見つからない場合の処理を指定します。
  - 出力しない：  
連結する項目が見つからない場合は、基準データ、結合データともにその項目は出力しません。
  - 基準データ側の項目は出力する：  
基準データは元のデータのまま全て出力されます。結合データは連結先が見つかった項目しか出力しません。
  - 全て出力する：  
この場合は、「基準データ側の項目は出力する」を指定したときと同様に

データを出力し、最後に出力されていない結合データ側の項目を出力します。

- 「< 前へ」 ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「次へ >」 ボタンをクリックすると、次の設定画面に進みます。
- 「キャンセル」 ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。

## 7) 保存先、諸元情報の指定

保存先およびデータの諸元情報を指定します。

ファイル結合ウィザード

データ名称及び保存先を入力してください。

基準データ: 農業集落界  
結合データ: 2000年人口・世帯員A票

データ名称: 農業集落人口  書込禁止として保存する

保存先: C:\temp 参照...

コメント:

データは C:\temp\農業集落人口 フォルダに保存されます。

< 前へ 次へ > 実行 キャンセル

図 3 - 1 9 保存先、諸元情報の指定

- 「データ名称」には保存するデータの名称を指定します。この名称がデータのファイル名になります。
- 「書込禁止として保存する」をチェックすると、読み込み専用のデータとして保存されます。
- 「保存先」にデータを保存するフォルダを指定します。「参照」ボタンをクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、そこからフォルダを指定することもできます。
- 「コメント」には必要に応じてデータの説明等を入力して下さい。
- 「< 前へ」ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。
- 「実行」ボタンをクリックすると、ファイル結合を実行します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、ファイル結合を中止します。



### 3. 6 データ加工編集

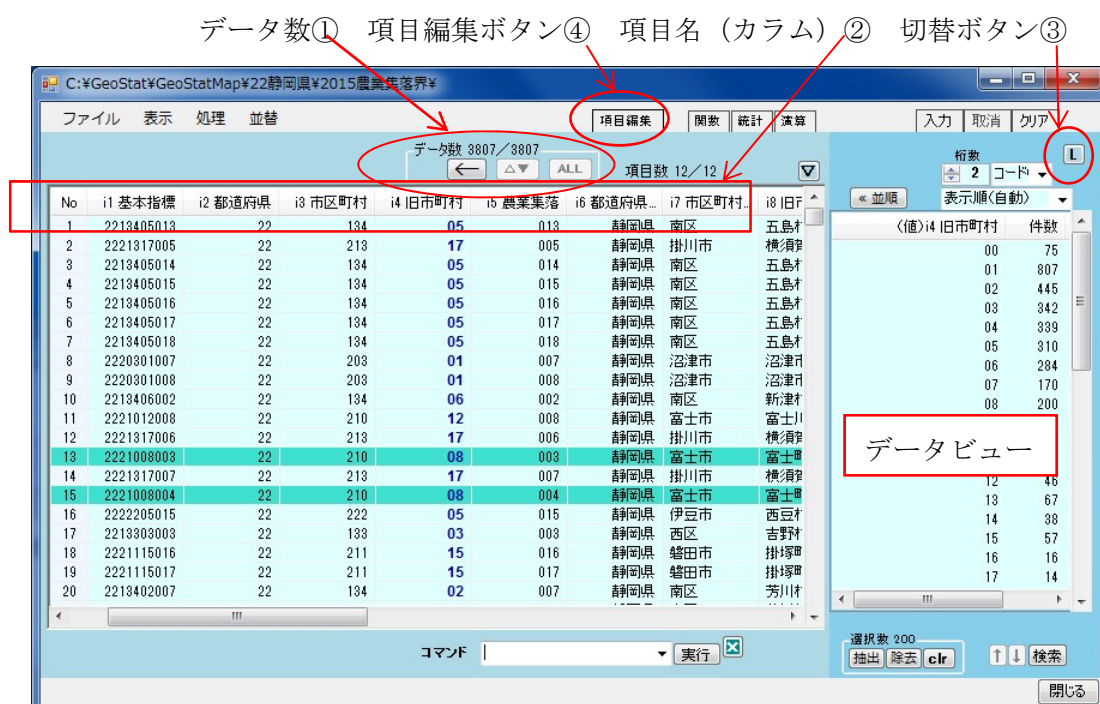
加工編集プログラムは、統計データ及び地図データの属性データを編集します。

属性データを操作して、次のことを実行します。

- 1 データおよび項目の抽出
- 2 データおよび項目の並び替え
- 3 項目間の演算
- 4 分類（分級）データの作成
- 5 ファイルの分割

#### (スタート画面)

データを編集する画面です。データファイル(オリジナルファイル)から、データの抽出、分割ファイルの作成などをビジュアルに行います。



① データ数は、現在の表示数／全データ数 です。

「ALL」ボタンをクリックすると、全データを表示対象にします。

「△▼」ボタンをクリックすると、表示と非表示のデータを入れ替えます。

「<」ボタンをクリックすると、直前の表示状態に戻します。

② 項目名(カラム)をクリックすると、項目データを編集メモリに読み込みます。

(注) 「▽」ボタン(表の右上にあります。)をクリックすると、項目名の一覧を表示します。

一覧の項目名をクリックしても、項目のデータ(値)をデータビューに読み込みます。

- ③ 編集メモリ内容を表示するデータビューには、集約表示と一覧表示があります。  
集約表示は、データ（値）ごとに件数を集計して表示します。（切替ボタンは「L」を表示）  
一覧表示は、データを個別に表示します。（切替ボタンは「Σ」を表示）
- ④ 項目編集ボタンをクリックすると、カラムと行が入れ替わり、項目を編集（項目の並び替え、項目の抽出）することができます。  
「編集了 X」ボタンをクリックすると、元に戻ります。



### 3. 6. 1 データビュー

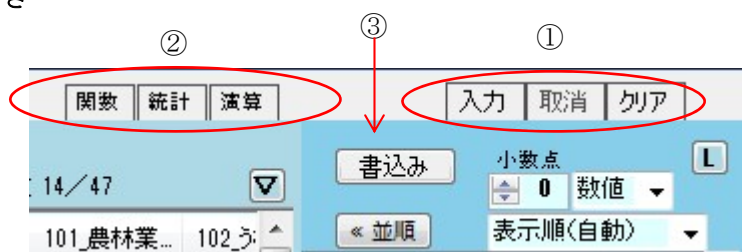
抽出、除去、並び替え、値の編集・入力はこのウィンドウで行います。



- ① 切り替えボタン  
集約表示（ボタンはLを表示）は、値と値ごとの件数として表示します。  
一覧表示（ボタンはΣを表示）は、編集メモリのデータを個別に表示します。
- ② 種別と小数点（一覧表示と共通）  
種別には数値、分類、文字等があり、プルダウンメニューから変更できます。  
少数点（数値のみ表示）は、小数点以下の桁数です。変更しても値に変化はありません。
- ③ 表示順のプルダウンメニューと「<<並替ボタン」。  
ファイルの順、値の大きい順、値の小さい順、件数の多い順、件数の少ない順、  
右昇順(文字)、右降順（文字）（文字列の右から昇順または降順に並び替えます）  
「<<並替」をクリックするとデータビューの並順にファイルを並び替えます。

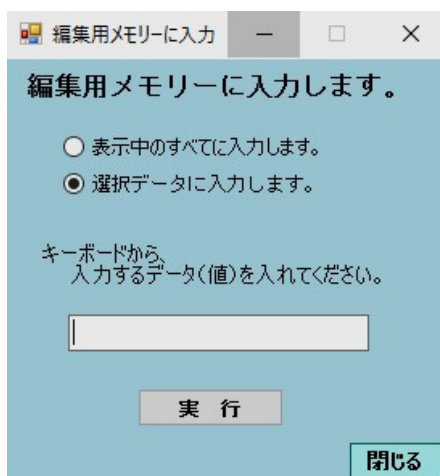
- ④ 表示データをクリックすると、クリックした値が選択されます（着色表示）。  
マウスドラッグまたは「shift」、「ctrl」キーを併用すると複数の値が選択できます。
- ⑤ 選択したデータについて、次の操作を行います。
- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 「抽出」ボタン    | 選択したデータを抽出（表示対象に）します。 |
| 「除外」ボタン    | 選択したデータを表示対象から除外します   |
| 「clr」ボタン   | 選択をクリアします。            |
| 「↑」、「↓」ボタン | 選択行の表示順を変更します。        |
- （Shift キーを併用すると選択したデータは、先頭または最後尾に移動します。）
- ⑥ データビューに読み込んだデータについて、値の検索を行います。

### （データビュー） つづき



- ① 「入力」、「取消」、「クリア」ボタン

「入力」をクリックすると、「編集メモリに入力」画面が表示されます。



キーボードから値を入力し、「実行」をクリックします。

- 「選択データに入力します。」  
選択したデータに値を入力します
- 「表示中のすべてに入力します」  
表示中の全データに値を入力します。

- 「取消」ボタン 編集メモリに対して行った操作を取り消します。
- 「クリア」ボタン 編集メモリをクリアし、初期状態にします。

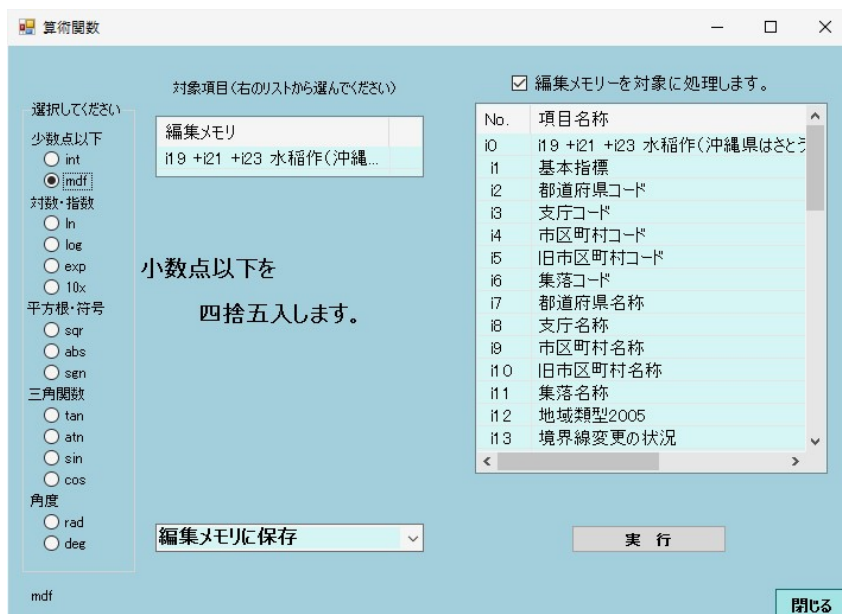
- ② 関数、統計、演算ボタン

「関数」ボタン

関数は左の一覧から、いずれか1つを選択します。

実行をクリックすると、編集メモリに結果を保存します。

「編集メモリーを対象に処理します」を選択すると、演算結果を対象にします。

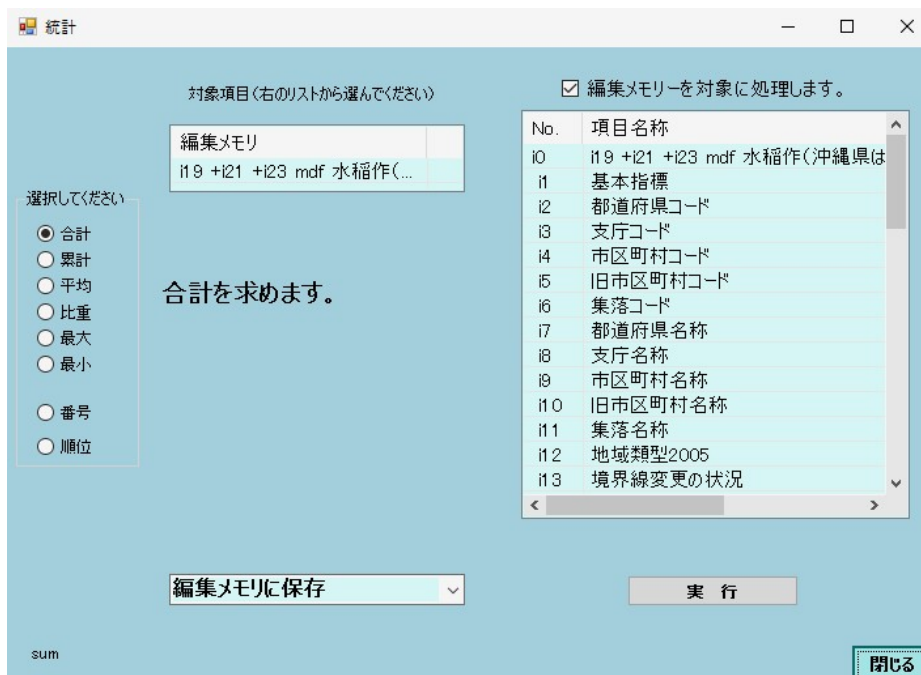


「統計」ボタン

関数は左の一覧から、いずれか1つを選択します。

実行をクリックすると、編集メモリーに結果を保存します。

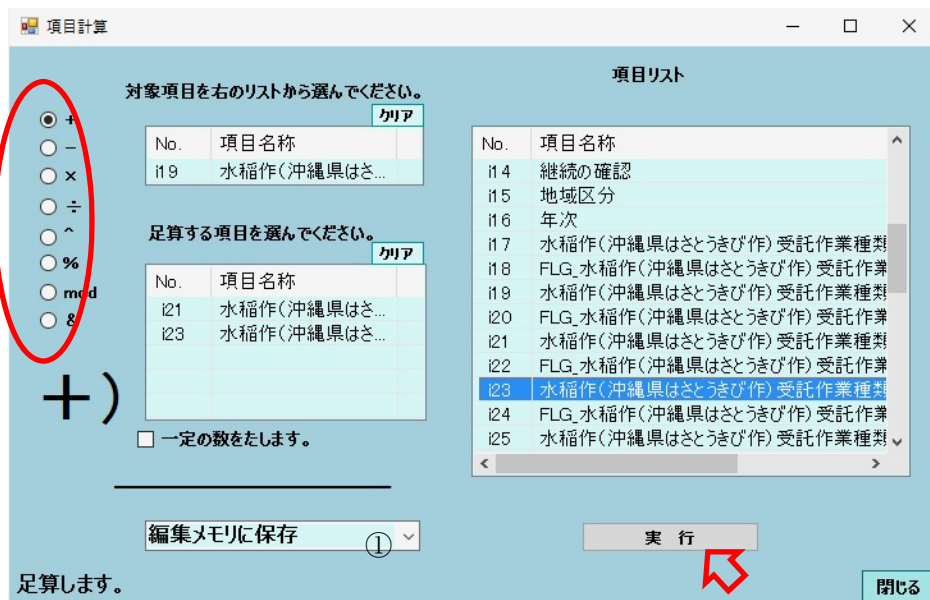
「編集メモリーを対象に処理します」を選択すると、演算結果を対象とします。



「演算」ボタン

項目間の四則演算等を行います。

演算結果は、編集メモリに格納されます。結果は「書込み」により保存します

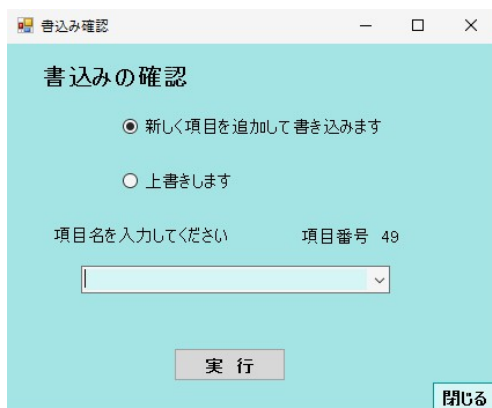


### 3. 6. 2 書き込み

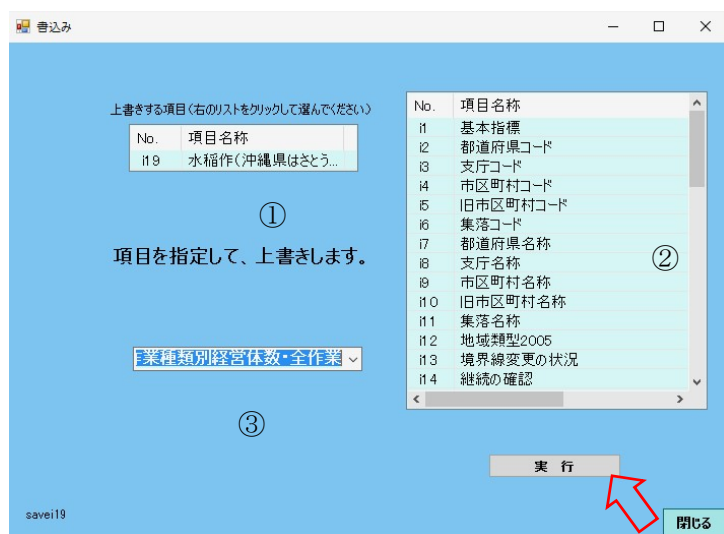
データ加工編集では、編集メモリで作業を行いますので、結果はファイルに書き込むことが必要です。書き込まないと結果は残りません。

(注) 書込みボタンは、書き込みが禁止されているファイルでは表示されません。

「書込み」ボタンをクリックすると、「書込みの確認」画面が表示されます。



新規に書込む場合は、項目名をキーボードから入力して「実行」をクリックします。「上書きします」を選択すると「項目を指定して上書き」ウインドウが開きます。



- あらかじめ、上書きする項目候補を表示している場合があります。良ければそのまま、「実行」をクリックします。
- 右の項目リストから、項目名をクリックして上書きする項目を指定します。
- 項目名称はキーボードから入力します。「実行」をクリックするとファイルに書き込みます。

### 3. 6. 3 ファイルビュー

ファイルの内容を確認するウインドウです。



ファイルビューでは、クリップボード（Windows のコピー&ペースト用のメモリ）にコピーすることができます。これにより、任意のデータ範囲をエクセルやワードなど他のソフトに貼り付けることができます。

- ① コピーする範囲の左上隅のデータをクリックします。
- ② **Shift** キーを押し下げながら、右下隅のデータをクリックします。  
 (表示画面の範囲内では、ドラッグにより指定することもできますが、画面はスクロールしませんので、2画面以上にまたがる範囲指定では、**Shift** キーを併用する方法を使用してください。)
- ③ 右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。
 

すべて選択	現在表示している全データをすべて選択します。
コピー	選択範囲をクリップボードにコピーします。
コピー (名称付き)	項目名称付きでクリップボードにコピーします。

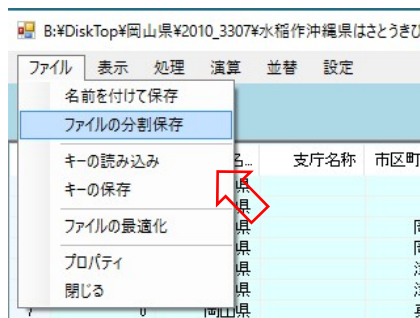
なお、クリップボードから加工編集画面にデータを貼り付けることはできません。

### 3. 6. 4 メニュー

#### 1 ファイルメニュー

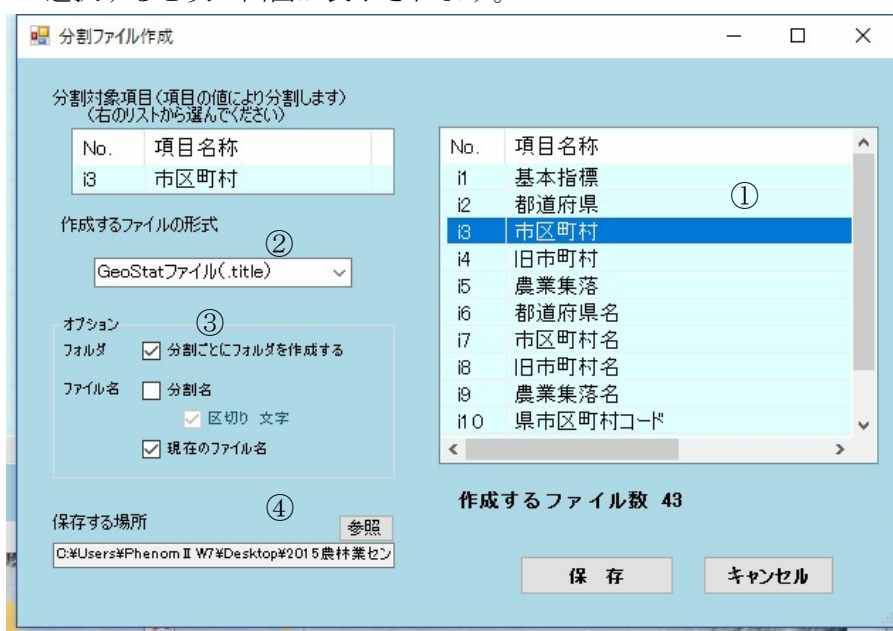
##### 1) 名前を付けて保存

現在の表示状態、並び順で新規のファイルを作成します。



##### 2) ファイルの分割保存

選択すると次の画面が表示されます。



- ① 分割する項目を指定します。ここでは市区町村コードを選択しています。
- ② 作成するファイルの形式を選択します。

GeoStat ファイル(.title)	GEOSTAT 用
CSV ファイル (.csv)	マイクロソフトエクセル用
シェープファイル (.shp)	地図ソフト用 (地図データがあるとき)

- ③ オプション

分割ごとにフォルダを 作成する (しない)。  
作成するファイル名について、次のいずれかを選択します。

現在のファイル名  
分割名

- ④ 保存するフォルダを指定します。

参照をクリックすると、フォルダ選択画面を表示します。

- 3) キーの読み込み

保存した表示状態 (キーファイル) を読み込みます。

- 4) キーの保存

表示状態をキーファイルとして保存します。

- 5) ファイルの最適化

GeoStat は項目ごとに、数値、分類、文字の種別で保持しています。

外部形式のファイル (CSV ファイル、シェープファイル) をインポートした場合、データ内容に適した種別と一致しない場合があります。

処理としては、文字項目をデータの内容から次のように種別に変更します。

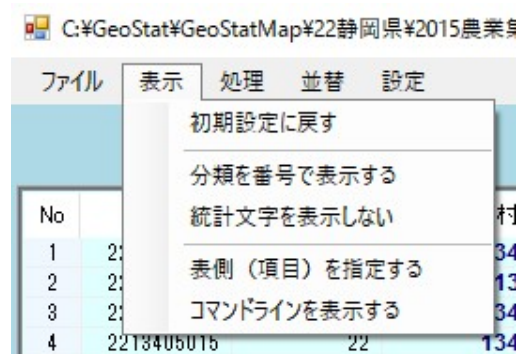
統計文字を含む数字	→ 数値
文字項目 (上記以外)	
分類数 100 以内	→ 分類
100 以上	→ 文字

## 2 表示メニュー

- (1) 初期設定に戻す

以下の設定を初期値に戻します。

画面サイズ  
分類を番号で表示する  
統計文字を表示しない



- (2) 分類を番号で表示する



分類を分類番号で表示します。(通常は分類名称で表示します。)

(3) 統計文字を表示しない

統計文字を0 (数字のゼロ) に置き換えて表示します。

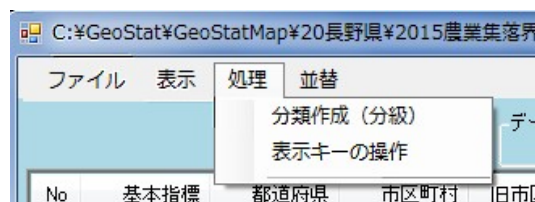
(4) 表側項目を指定する。

初期設定の表側は、番号 (No) ですが、番号の代わりに項目を指定して表側にすることができます。

(5) コマンドラインを表示する。

画面の下欄にコマンドを入力するテキストボックスを表示します。

### 3 処理メニュー

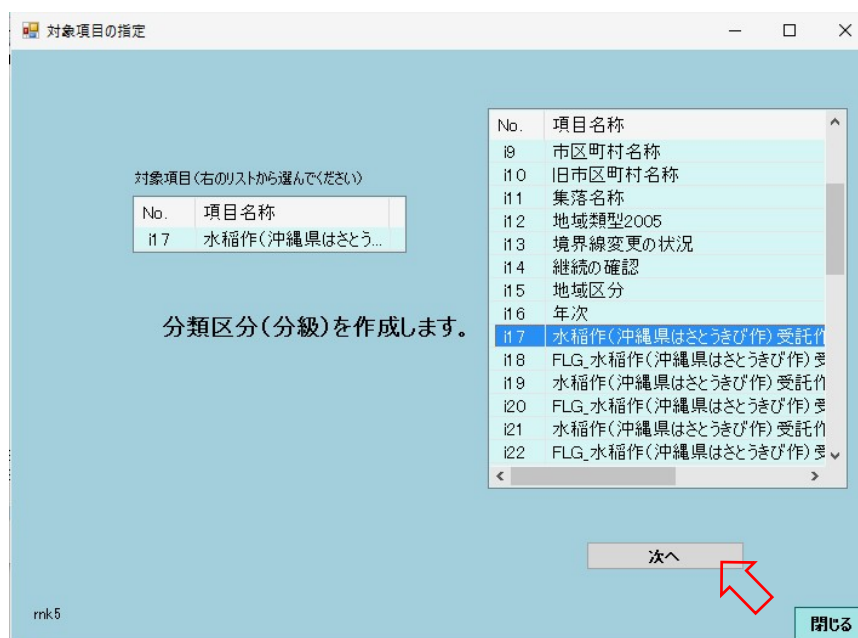


(1) 分類作成 (分級) #

数値データを分級 (範囲分け) して、分類を作成します。#

#

「分類作成 (分級)」をクリックすると対象項目の指定画面が開きます。#



分類を作成する項目を指定して、「次へ」をクリックします。

分類の作成

分類数

分類番号のつけ方  昇順  降順

分類の方法 境界値の位

分類するときの評価する位です。  
小数点以下の場合は、1,2,3,4,5・・・のように10以上は、10,100,1000・・・と指定してください。

分布範囲を均等に分ける

最小値から最大値まで  件数を均等に分ける(分位)  
 0から最大値まで  数量の合計を均等に分ける

分布範囲を任意の値により分ける

分類数、分類番号の付け方、分類の方法を指定して、「次へ」をクリックします。  
前頁で指定した分類方法による分級が表示されます。

範囲分けが適切ではない場合「戻る」をクリックして、前ページの画面に戻ることができます。

分類作成

水稲作(沖縄県はさとうきび作)受託作業種類別経営体数・全作業 の分類を作成します

最小値から最大値までの値(目盛)を均等に分けています。 分類数5

番号	分類名	最小値(以上)	最大値(未満)	件数	数量計
1	1未満	~	1	2435	0
2	1~2	1	① 2	562	562
3	2~5 ③	2	5	101	226
4	5~6	5	6	0	0
5	6以上	6	~	6	38

(分類表の編集について)  
 ① 初めに、最小値(最大値)をクリックして変更、確定します。  
 ② 次に、分類名を編集します。  
 (理由)最小値(最大値)を編集すると分類名が変更されます。

② 演算メモリに保存

(留意事項) 分類作成は、表示状態にかかわらず、全データを対象とします。 #

この画面では、最小値、最大値、分類名を編集することができます。

① 分類結果を確認し、必要があれば最大値（最小値）をクリックして編集します。  
（最小値または最大値は、連動して変更されます。）

② 次に分類名をクリックして編集します。

分類名の編集は、最小値、最大値を確定してから行ってください。

（最小値、最大値を編集すると、分類名が変わります。）

「実行」をクリックします。（分類結果は編集メモリに表示されます。）

この画面を終了し、分類結果をデータビューで確認することができます。

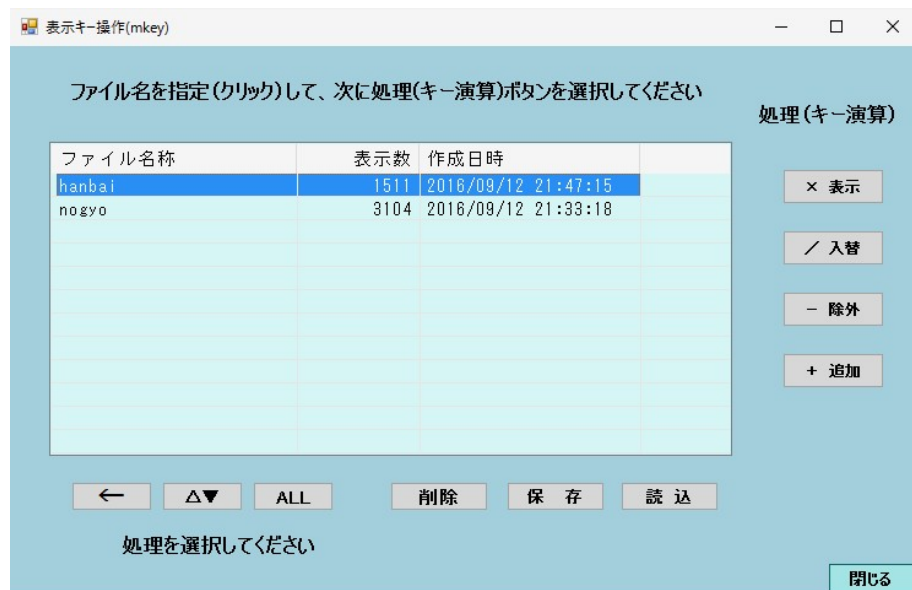
確認後、結果を保存するには「書込み」ボタンをクリックして、保存します。

③ プルダウンメニューから、ファイルに保存（新規項目）またはファイルに保存（上書き）を選択して、直接保存することもできます。

④

## (2) 表示キーの操作

「表示キーの操作」をクリックすると、次の画面が表示されます。



「× 表示」 表示中のデータと指定したキーファイルの両方に含まれるものを表示対象とします。

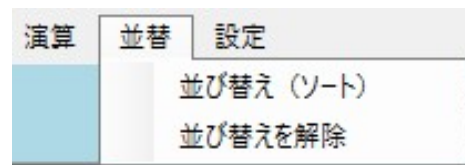
「/ 入替」 キーファイルに含まれるデータから、表示中のデータを除いたデータを表示対象とします。

「- 除外」 表示中のデータから、指定したキーファイルに含まれるデータを、除外します。

「+ 追加」 指定したキーファイルにあるデータを、表示に加えます。

- 「←」       ひとつ前の表示状態に戻します。
- 「▽▲」   表示中のデータと、非表示のデータを入れ替えます。#
- 「ALL」   全てを表示対象にします。#
  
- 「削除」   指定したキーファイルを削除します。
- 「保存」   現在の表示状態を新しいキーファイルに保存します。
- 「読込」   指定したキーファイルを読み込みます。

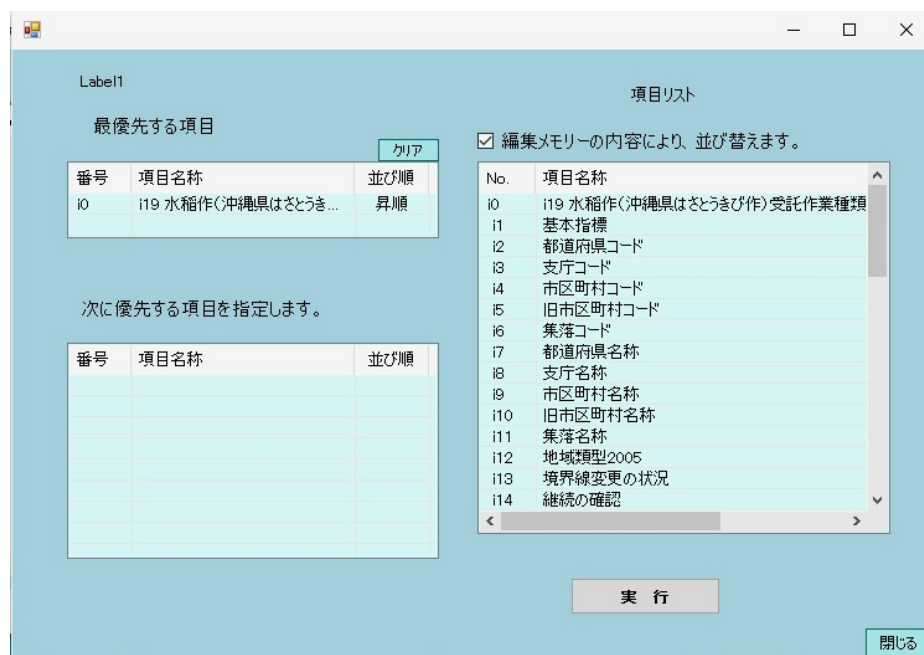
#### 4 並替メニュー



##### (1) 並び替え(ソート)

項目の値により、並び替えを行います。

ここでは、複数の項目を使用して並び替えを行うことができます。



##### (2) 並び替えの解除

並び替えを解除して、データをファイルの出現順に表示します。

### 3. 6. 5 コマンドライン

表示メニューから、「コマンドラインを表示する」を選択すると、操作画面の下欄に次のようなコマンドライン入力ツールが表示されます。



加工編集は、画面から選択する場合など、一部を除いて、ほとんどの場合コマンドで動作しています。動作したコマンドは、上図コマンドラインの右端にあります「V」をクリックすると表示されます。また、クリックするとコマンドラインに読み込まれ、再実行することができます。

#### (1) 操作方法

テキストボックスをクリックして、キーボードからコマンドを入力し、「実行」をクリックします。

#### (2) コマンド一覧

入力	データを編集メモリに読み込みます。
iN	項目番号 N のデータを読み込みます (i は項目、N は表示順の番号です)。 この操作は、表示状態 (表示キー) に左右されず、全データを読み込みます。
@N	表示中の編集メモリに N (定数) を入力します。
書き込み	メモリの内容をファイルに書き込みます。
save	編集メモリを新規の項目を追加して書き込みます。 新規書き込みでは、表示状態にかかわらず、全データを書き込みます。 表示中のデータのみを書き込むには、あらかじめデータがゼロまたはスペースの項目を準備し、これに上書きします。
saveiN	N で指定する項目番号に編集メモリのデータを上書きします。 指定する項目と表示データの種別が異なると上書きはできません。既存の項目を削除しての新規書き込みとなります。
削除	ers 表示中の項目を指定してデータを消去します (空白を書き込みます)。 idel 表示中の項目を指定して非表示にします。
検索	編集メモリを対象に検索します。(検索する項目を編集メモリに読み込んでおく必要があります。)
fin>N	表示中のデータから N より大きいデータを選択 (着色) します。
fin =N	表示中のデータから N に等しいデータを選択 (着色) します。
fin<N	表示中のデータから N より小さいデータを選択 (着色) します。
fin>=N	表示中のデータから N より大きいか等しいデータを選択 (着色) します。
fin<=N	表示中のデータから N より小さいか等しいデータを選択 (着色) します。
finN1,N2	表示中のデータから N1 から N2 までの値のデータを選択 (着色) します。

fic	選択(着色)をクリアします。
fit	選択(着色)データを先頭に移動します(並び替えます)。
fib	選択データを末尾に移動します(並び替えます)。
del>N	表示中のデータから N より大きいデータを除外します。
del=N	表示中のデータから N に等しいデータを除外します。
del<N	表示中のデータから N より小さいデータを除外します。
del>=N	表示中のデータから N より大きいか等しいデータを除外します。
del<=N	表示中のデータから N より小さいか等しいデータを除外します。
delN1,N2	表示中のデータから N1 から N2 までの値のデータを除外します。
sel>N	表示中のデータから N より大きいデータを表示します。
sel=N	表示中のデータから N に等しいデータを表示します。
sel<N	表示中のデータから N より小さいデータを表示します。
sel>=N	表示中のデータから N より大きいか等しいデータを表示します。
sel<=N	表示中のデータから N より小さいか等しいデータを表示します。
selN1,N2	表示中のデータから引数 N1 から N2 までのデータを表示します。
app>N	表示されていないデータから値が N より大きいデータを追加します。
app=N	表示されていないデータから値が N に等しいデータを追加します。
app<N	表示されていないデータから値が N より小さいデータを追加します。
app>=N	表示されていないデータから値が N より大きいか等しいデータを追加します。
app<=N	表示されていないデータから値が N より小さいか等しいデータを追加します。
appN1,N2	表示されていないデータから値が N1 から N2 までのデータを追加します。
uni	表示のデータ中の同値データから、1つずつを表示します(単一化)。
spr	非表示から、表示中の値と同じデータを表示に加えます(uni の逆関数)。
表示キー	現在表示中のキーとキーファイルを演算・合成します。
+kA	表示中のデータにキーファイル A にあるデータを加えます。
-kA	表示中のデータからキーファイル A にあるデータを除外します。
*kA	表示中とキーファイル A の両方にあるデータを表示します。
/kA	キーファイル A から表示中のデータを除くデータを表示します。
^kA	表示中とキーファイル A のどちらか一方にのみあるデータを表示します。
初期化	表示状態を初期化します(並び順も初期化します)。
all	項目編集時は、項目の全データ(データがある項目)を表示にします。
setall	項目、データ両方の全データを表示にします。
setini	ファイルのすべてを(データがない項目を含めて)表示対象にします。
並替え	表示順を並び替えます。
srt(u)	昇順に並び替えます(u はデフォルトでつけてもつけなくても同じです)。
srt d	降順に並び替えます。

	srtk	解除(ファイルに書き込まれている順に表示します。)
	spn	並び順を180度回転します(逆順に並び替えます)。
計算		四則演算を行います。
	+iN	加算(編集メモリの値に項目Nの値を加えます)。
	-iN	減算(編集メモリの値から項目Nの値を減じます)。
	*iN	乗算(編集メモリの値に項目Nの値を乗じます)。
	/iN	除算(編集メモリの値を項目Nの値で除します)。
	^iN	べき乗(編集メモリの値に項目Nの値をべき乗します)。
	modiN	剰余(編集メモリの値を項目Nの値で除した余りを求めます)。
	+N	定数加算(編集メモリの値に N を加えます)。
	-N	定数減算(編集メモリの値から N を減じます)。
	*N	定数乗算(編集メモリの値に N を乗じます)。
	/N	定数除算(編集メモリの値を N で除します)。
	^N	定数べき乗(編集メモリの値を N 乗します)。
	modN	定数剰余(編集メモリを値 N で除した余りを求めます)。
変換		項目の値を変換します。
	int (N)	小数点 N+1 位以下を切り捨て、小数点 N 位で揃えます。 (N は 0 から 9 まで、省略時は 0)。
	mdf (N)	小数点 N+1 位を四捨五入し、小数点 N 位で揃えます。 (N は 0 から 9 まで、省略時は 0)。
	wgt	合計を 100 とした数値に変換します。
	idxN	N で指定したデータの値を 100 として、データを変換します。
	num	編集メモリの現在の並び順に番号を入力します。
	jun	編集メモリの先頭から順に値ごとに番号をつけます。
	hknN1,N2	項目 N1 と N2 の値から N1 から N2 までの間の値を直線的に補完します。
統計量		最大、最小、合計などの統計量を求めます(N1, N2 を省略すると表示中のデータを対象とします)。
	maxN1,N2	最大値を求めます。
	minN1,N2	最小値を求めます。
	aveN1,N2	平均を計算します。
	sumN1,N2	合計を計算します。
	ruiN1,N2	累計を計算します。
関数		算術関数の演算を行います。
	log	常用対数
	ln	自然対数
	10x	log の逆関数
	exp	ln の逆関数

	sqr	平方根
	abs	絶対値
	sgn	符号化(プラスは 1、マイナスは -1 となります)
	tan	正接(ラジアン)
	atn	tan の逆関数
	sin	正弦(ラジアン)
	cos	余弦(ラジアン)
	rad	角度(°)からラジアンに変換
	deg	ラジアンから角度(°)に変換
表示		表示画面を操作します。
	t(N)	N ページ目を表示します。(1 ページは 20 行、N はページ数)
	b(N)	ページの終わりから N ページ目を表示します。
	lN	N 行目を先頭に表示します( l は小文字のエルです)。
	f	後方に選択データを探して表示します。
	r	前方に選択データを探して表示します。
作成		ファイルを作成します。
	gsff	現在表示状態の GEOSTAT ファイルを作成します。
	csvf	現在表示状態の CSV ファイルを作成します。
	shpf	現在表示状態のシェープファイルを作成します。
分割		あらかじめ分割するデータ(項目)を編集メモリに読み込む必要があります。
	mkgsf	編集メモリのデータ値ごとに GEOSTAT ファイルを作成します
	mkcsv	編集メモリのデータ値ごとに CSV ファイルを作成します
	mkshp	編集メモリのデータ値ごとにシェープファイルを作成します
終了		加工編集を終了します。
	end	加工編集を終了します。



### 3.7 プロパティ

メニュー：「データ処理」－「プロパティ」

メニューを選択すると、現在のデータの諸元及び項目情報が表示されます。

データの場所:  
C:\temp\第4次土地利用基盤整備<福島>\第4次土地利用基盤整備<福島>.title

データ諸元 項目

タイトル: 第4次土地利用基盤整備<福島>

調査名:

作成者:

作成日: 20070521

コメント:

項目数: 33      データ数: 124124      図形データ: あり

読み取り専用

OK      キャンセル

図3-21 データのプロパティ画面（データ諸元）

- データ諸元は随時変更できます。但し、本システムに付属の背景地図データや、購入したデータについては、変更できないものもあります。
- 読み取り専用をチェックすると、データ加工編集（3.6章）で編集／保存することができなくなります。

項目タブではデータの項目一覧が表示されます。

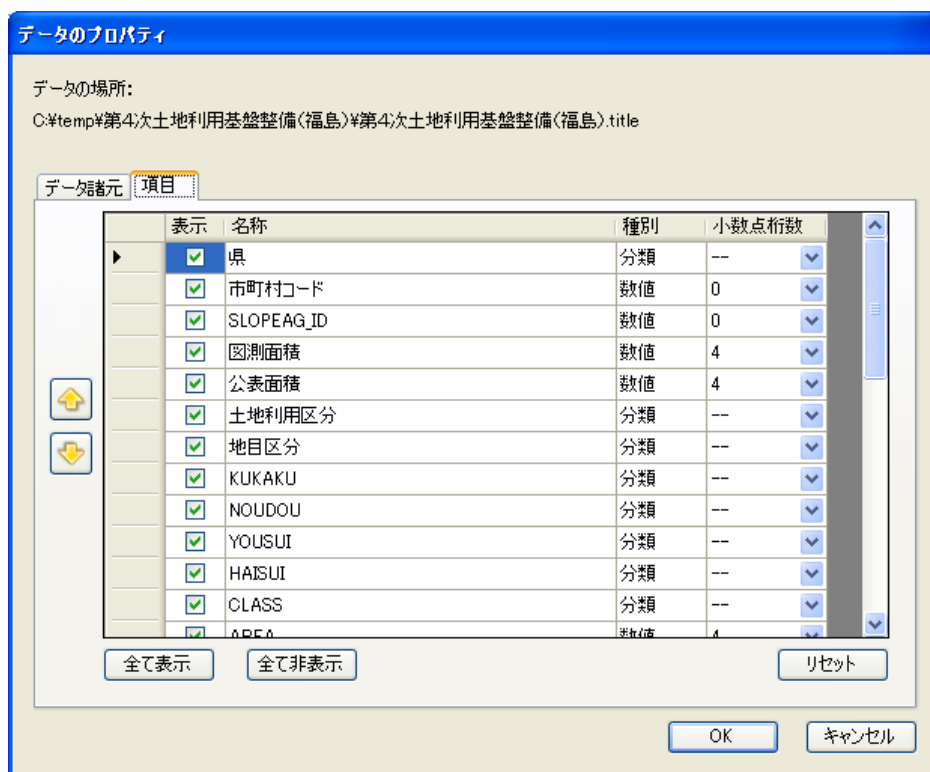


図 3-22 データのプロパティ画面 (項目)

- 「表示」欄のチェックを外すことで、その項目を非表示にできます。
- 「全て表示」、「全て非表示」ボタンをクリックすると、「表示」欄のチェックを全て ON/OFF します。
- 左側の上下矢印ボタン、あるいは項目のマウสดラッグにより、表示順を入れ替えることができます。
- 「リセット」ボタンをクリックすると、項目の表示順、表示可否を初期状態に戻します。
- 「名称」及び数値種別の「小数点以下桁数」は随時変更可能です。

## 4. 地図処理メニュー

### 4.1 新規レイヤ

メニュー：「地図処理」－「新規レイヤ」

地図データを持つデータに対して、新規にレイヤを作成します。本システムでは、1つのデータに複数のレイヤを作成することができ、切り替えて表示したり、重ねて表示したりすることができます。

メニューを実行すると、レイヤの新規作成画面が表示されます。

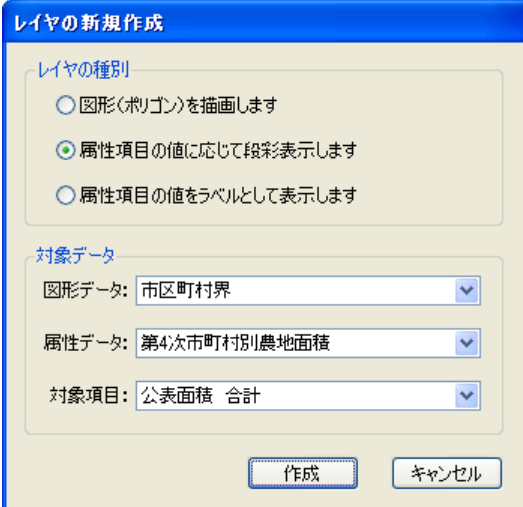


図4-1 レイヤの新規作成画面

- 作成するレイヤの種別を指定します。
  - 図形を描画します  
地図データの図形種別（ライン、ポリゴン、ポイント）に従って、図形を表示します。
  - 項目の値に応じて段彩表示します  
指定された対象項目の値に応じて色分け表示を行います。色だけでなく、ハッチングパターンや線の太さ等のスタイルを段階的に指定することもできます。図形データとは異なるデータの項目を対象項目として指定することができます（図形データと属性データの関連性「リレーション」を指定していただきます）。  
なお、対象項目は数値項目もしくは分類項目である必要があります。
  - 項目の値をラベルとして表示します  
指定された対象項目の値をラベルとして表示します。段彩表示と同様に、

図形データとは異なるデータの項目を対象項目として指定することができます。

ラベルの表示位置の調整や回転等はできませんので、データ確認のための簡易的な表示としてご利用下さい。

- 「図形データ」からレイヤを作成するデータを指定します。
- 段彩表示、ラベル表示の場合は、参照する「属性データ」、「対象項目」を選択します。
- 「作成」ボタンをクリックするとレイヤを作成します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、レイヤの作成を中止します。

段彩表示及びラベル表示で「図形データ」と「属性データ」に別のデータを指定した場合は、2つのデータを連結するためのキー項目を指定します（リレーション設定）。

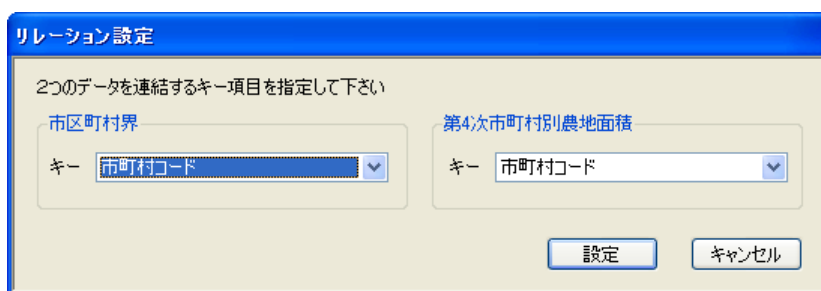


図4-2 リレーション設定画面

- それぞれのデータのキー項目を指定し、「設定」ボタンをクリックします。図形データ側のキー値に一致する属性データを検索し、その対象項目を参照して図形描画します。

レイヤが作成されると、引き続き表示設定を行います。表示設定については4.4章を参照してください。

## 4. 2 新規マップ

メニュー：「地図処理」－「新規マップ」

新規にマップ（レイヤの重ね合わせ表示）を作成します。

メニューを実行すると、新規マップ作成画面が表示されます。

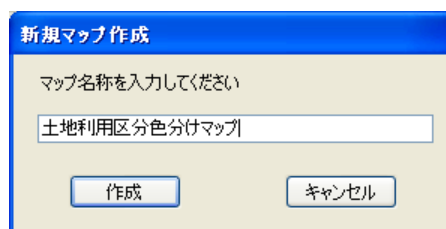


図 4-3 新規マップ作成画面

- 新たに作成するマップの名称を入力してください。
- 「作成」ボタンをクリックするとマップを作成します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、マップの作成をキャンセルします。

作成されたマップは即座に表示されますが、最初の状態では表示するレイヤが1つも選ばれていないため、何も表示されません。表示したいレイヤをチェックしてください。

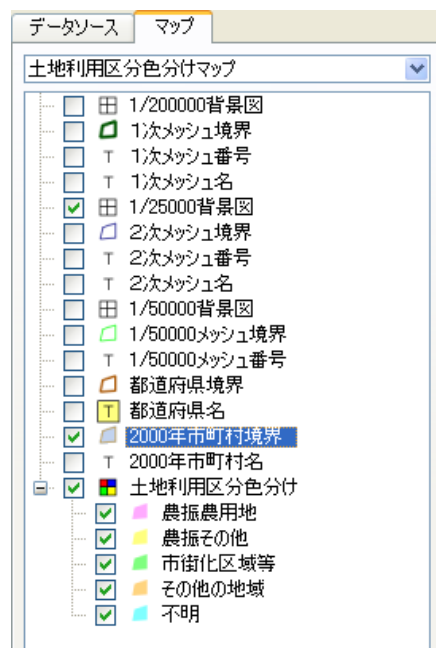


図 4-4 表示するレイヤをチェック

### 4. 3 レイヤ/マップの削除

メニュー：「地図処理」－「レイヤの削除」（「マップの削除」）

現在表示しているレイヤ/マップを削除します。メニューの名称は、現在表示しているデータがレイヤの場合は「レイヤを削除」、マップの場合は「マップを削除」と自動的に変わります。

メニューを実行すると、削除確認のメッセージが表示されます。

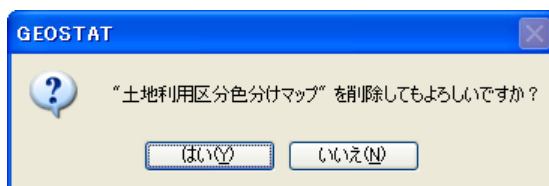


図 4-5 削除確認メッセージ

- 「はい(Y)」ボタンをクリックすると、レイヤ/マップを削除します。
- 「いいえ(N)」ボタンをクリックすると、レイヤ/マップの削除を中止します。

レイヤを削除した場合は、そのレイヤを表示しているマップも全て更新されます。

## 4. 4 表示設定

メニュー：「地図処理」－「表示設定」

現在表示しているレイヤの表示設定を行います。プロジェクトエクスプローラで表示されているレイヤを右クリックして表示されるメニューからも実行することができます。表示設定はレイヤの種別に応じて内容が異なります。

### 1) 全てのレイヤに共通の設定項目：表示スケール

それぞれのレイヤには、そのレイヤを表示する最小のスケールと最大のスケールを設定することができます。設定された範囲外のスケールでは描画は行われません。大量データの地図表示では、広域表示時に表示しても何が描画されているのか理解不能な（個々のデータが区別できない）場合があり、さらに描画にかかる時間も大幅に増加してしまいます。表示スケールを適切に設定することで、地図の表示内容及び表示にかかる時間を最適化することができます。

また、データはきちんとあるはずなのに表示されないという場合は、この設定により表示スケール外となっていないか、再確認してみてください。

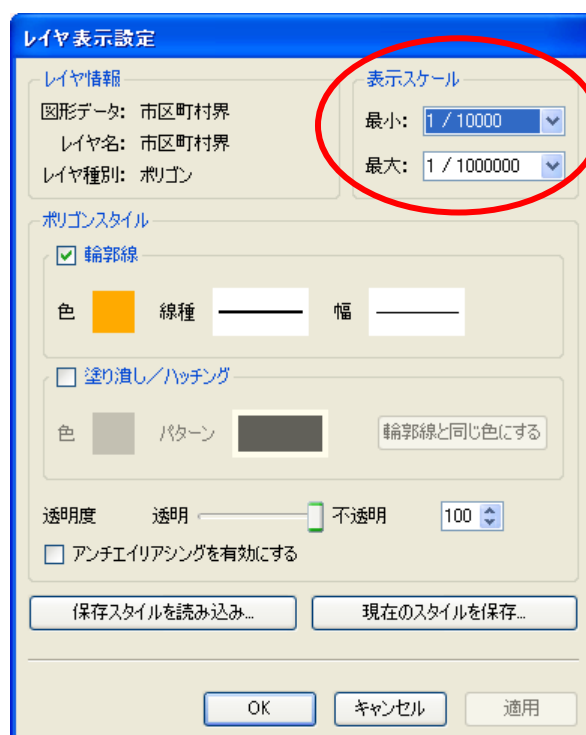


図 4-6 表示スケールの設定

## 2) 全てのレイヤに共通の機能：スタイルの保存・読み込み

設定したレイヤのスタイルは名前を付けて保存することができ、別のレイヤ設定時に再利用することができます。

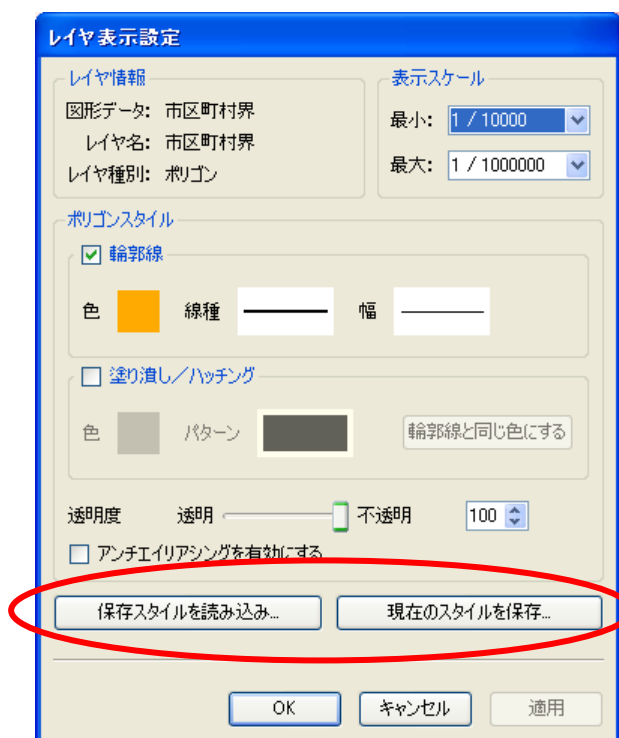
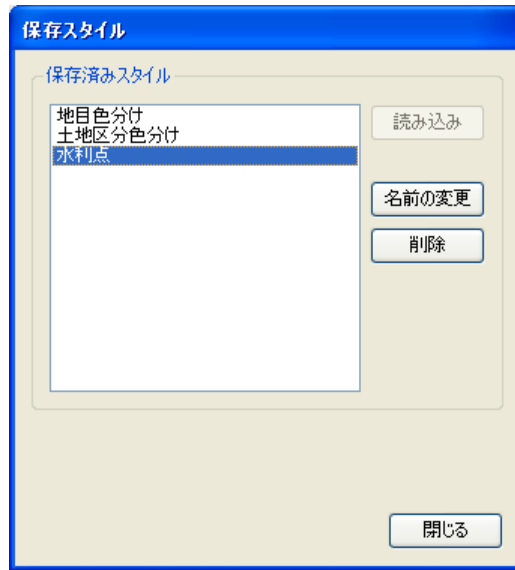


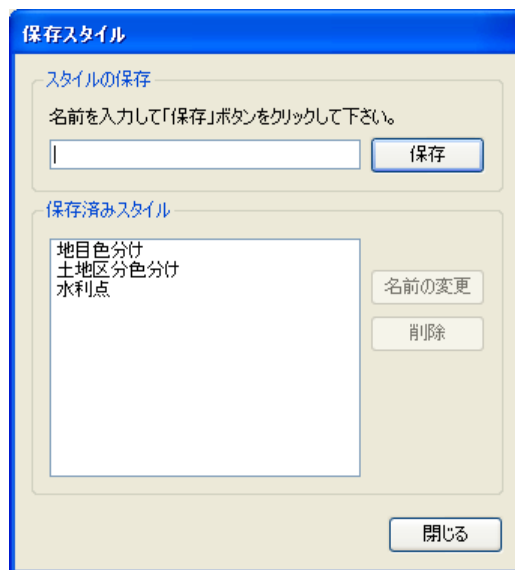
図 4-7 表示スケールの設定

- 「保存スタイルを読み込み」をクリックすると、「保存スタイル」画面が表示され（図 4-8）、保存されているスタイルの名称がリスト表示されるので、スタイルを選択し、「読み込み」ボタンをクリックします。（設定対象と異なるレイヤ種別の場合、「読み込み」ボタンは無効状態となります）
- 「現在のスタイルを保存」をクリックすると、「保存スタイル」画面が表示されるので、名前を入力し「保存」をクリックします。保存済みのリストから選択すると、既存の保存済みスタイルを上書き保存することができます。





(読み込み時)



(保存時)

図4-8 スタイルの保存・読み込み

### 3) ポリゴンレイヤ

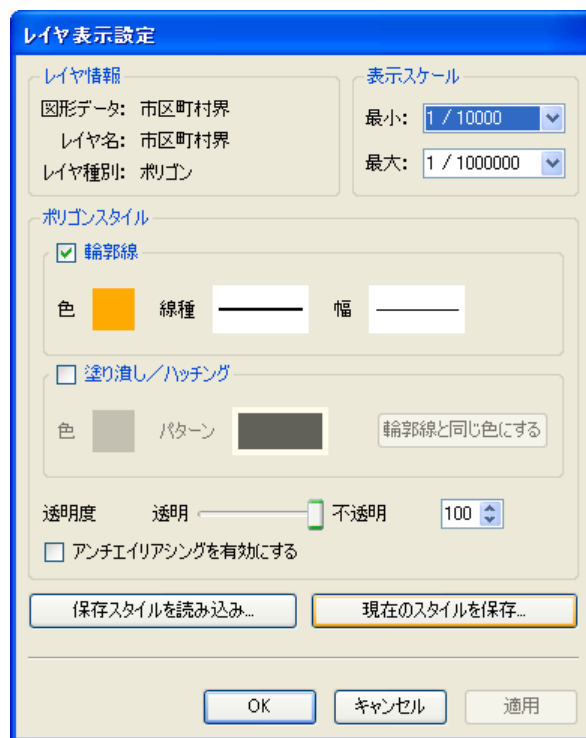


図 4-9 ポリゴンレイヤ表示設定

- ポリゴンの境界線を描画する場合は、「輪郭線」をチェックし、色、線種、幅を指定してください。
- ポリゴン内部を塗りつぶし・ハッチングする場合は、「塗り潰し/ハッチング」をチェックし、色とパターンを指定してください。「輪郭線と同じ色にする」ボタンをクリックすると、輪郭線と同じ色を設定します。
- 透明度を指定することができます。スライダーもしくは数値入力により指定してください。0 が透明で、100 が不透明です。指定された透明度は輪郭線と塗り潰しの両方に影響します。

#### 4) ラインレイヤ

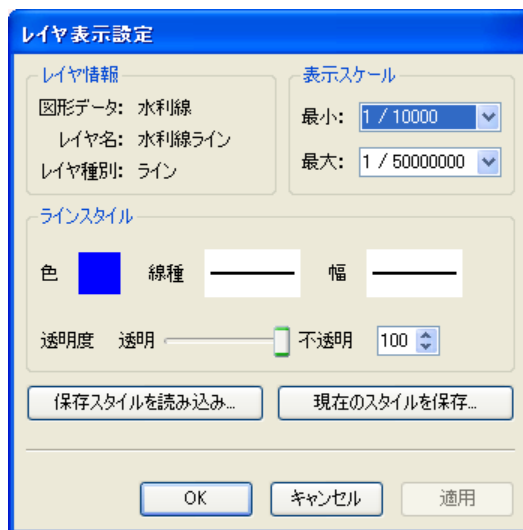


図 4-10 ラインレイヤ表示設定

- ラインの色、線種、幅を指定してください。
- 透明度を指定することができます。スライダーもしくは数値入力により指定してください。0 が透明で、100 が不透明です。

## 5) ポイントレイヤ

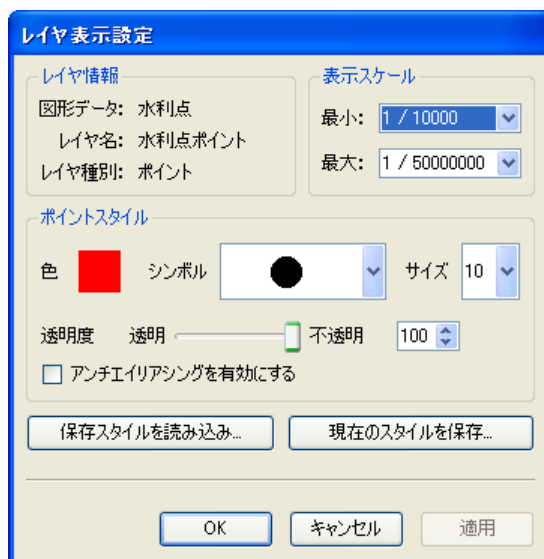


図 4 - 1 1 ポイントレイヤ表示設定

- シンボルの種別、色、サイズを指定してください。
- 透明度を指定することができます。スライダーもしくは数値入力により指定してください。0 が透明で、100 が不透明です。
- 「アンチエイリアシングを有効にする」をチェックすると、シンボルの輪郭線をスムージングします。ただし若干描画が遅くなります。

## 6) 段彩レイヤ表示設定

表示	スタイル	凡例名	範囲最小	範囲最大	件数
<input checked="" type="checkbox"/>		値1	0.0028	28152.6484	29
<input checked="" type="checkbox"/>		値2	28152.6485	56305.2942	1
<input checked="" type="checkbox"/>		値3	56305.2943	84457.9400	
<input checked="" type="checkbox"/>		値4	84457.9401	112610.5857	
<input checked="" type="checkbox"/>		値5	112610.5858	140763.2316	

図 4 - 1 2 段彩レイヤ表示設定

- まず標準スタイルを設定します。標準スタイルのボタンをクリックすると、データの図形に応じた表示設定画面が表示され、標準となる表示設定を指定することができます。各範囲の表示スタイルはこの標準スタイルをベースに設定されます。
- 「範囲作成」ボタンをクリックすると、範囲の作成を行います。参照している属性が分類項目の場合は、即座に分類項目毎に範囲（段階）が作成されます。参照している属性が数値項目の場合は、範囲を自動作成するための設定画面が表示されます（後述）。
- リストには範囲毎の表示可否、スタイル、凡例名、値が表示されています。
  - 表示のチェックをはずすことで、その範囲を非表示にすることができます。
  - スタイルのアイコンをクリックすると、表示設定画面が表示され、表示設定を修正することができます。

- 凡例名をダブルクリックすると、入力モードになり、凡例名称を修正できます。
- 範囲を選択して「範囲削除」ボタンをクリックすると、その範囲を削除します。

#### 参照する属性が数値項目の場合の範囲作成：

「範囲作成」ボタンをクリックすると、範囲分割設定画面が表示されます。

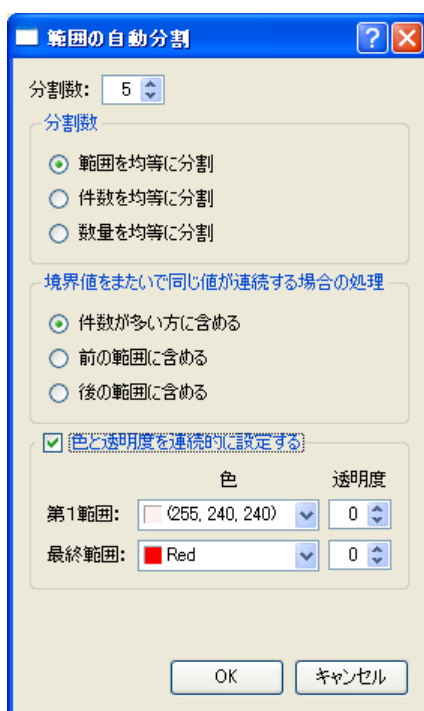


図 4 - 1 3 範囲設定画面

- 作成する範囲の数を範囲分割数として入力します。
- 分割方法を3つのオプションから選択します。
  - 範囲を均等に分割  
データの上限/下限を調べ、その間を指定された分割数で分割します。
  - 件数を均等に分割  
各範囲に含まれるデータの件数が等しくなるように範囲を調整します。
  - 数量を均等に分割  
各範囲に含まれるデータの和が等しくなるように範囲を調整します。
- 境界値をまたいで同じ値が連続する場合の処理方法を指定します。なお、この処理によって、2つもしくはそれ以上の範囲の融合が起これ、指定された範囲数と作成された範囲数に差が出る場合があります。

- 件数が多い方に含める
- 1つ前の範囲に含める
- 1つ後の範囲に含める
- 「色と透明度を連続的に設定する」をチェックすると、各範囲の色と透明度をグラデーションのように連続的に設定することができます。最初と最後の範囲の色及び透明度を指定して下さい。最初の範囲から最後の範囲まで色及び透明度が均等に変化するように自動設定されます。

## 7) テキスト (注記) レイヤ

レイヤ表示設定

レイヤ情報

図形データ: 市区町村界  
レイヤ名: 市区町村名  
レイヤ種別: テキスト(注記)

表示スケール

最小: 1 / 10000  
最大: 1 / 500000

表示する属性

属性データ: 市区町村界  
項目: 名称

フォント

フォント: MS UI Gothic  
色: Black  
サイズ: 10

フレーム

境界線: <境界線なし>  
塗り潰し: <塗り潰しなし>

配置

基準位置: 第1ポリゴンの重心  
オフセット(水平): 0  
オフセット(上下): 0  
アライメント(水平): 中央  
アライメント(垂直): 中央

保存スタイルを読み込み... 現在のスタイルを保存...

OK キャンセル 適用

図4-14 テキストレイヤ表示設定

- 「フォント」では、フォントの種類、色、サイズを指定することができます。
- 「フレーム」では、テキストの表示枠及び背景色を指定できます。
- 「配置」では、テキストを表示する基準位置及び基準位置からのオフセット、アライメント（オフセットした基準位置に文字列のどの部分を沿わせるか）を指定することができます。オフセット及びアライメントについては図4-15もご参照下さい。
- 個々の文字列の位置微調整や回転はできません。



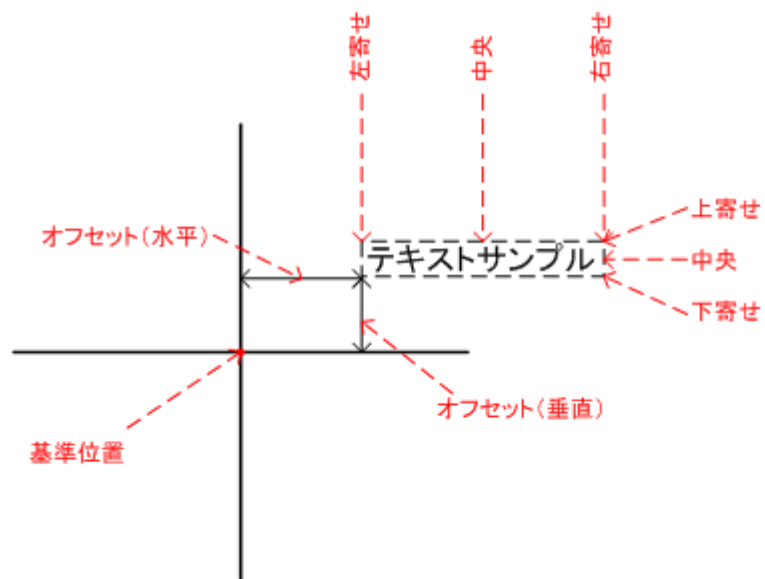


図4-15 オフセット及びアライメントについて  
 (上記例でのアライメントは「左寄せ」&「下寄せ」)

## 4. 5 拡大

メニュー：「地図処理」－「拡大」

現在の地図表示（レイヤ/マップ）のスケールを2倍にします。

マウスを拡大/縮小モードにして、地図上を左クリックした場合と同じ処理です。

## 4. 6 縮小


メニュー：「地図処理」－「縮小」

現在の地図表示（レイヤ/マップ）のスケールを1/2にします。

マウスを拡大/縮小モードにして、地図上を右クリックした場合と同じ処理です。

## 4. 7 全体表示


メニュー：「地図処理」－「全体表示」

ツールバー：

設定されている全体表示領域（4. 9章参照）が表示できるようにスケールを自動調整して、再描画します。全体表示領域が設定されていない場合は、現在のデータが全て表示できるスケールとします。なお、その際は検索等によりデータが絞り込まれている場合は、絞り込まれているデータだけが対象となります。

## 4. 8 連動設定

メニュー：「地図処理」－「連動設定」

ツールバー：

本システムでは複数の地図画面を表示することができますが、その地図画面の連動を設定します。

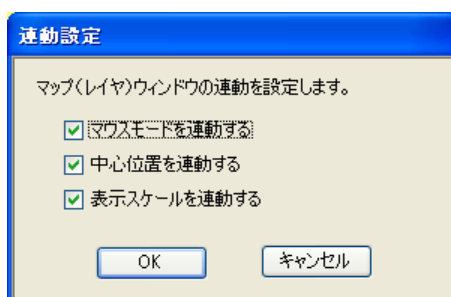


図 4 - 1 6 連動設定画面

- 「マウスモードを連動する」をチェックすると、全ての地図表示のマウスモードを連動させます。
- 「中心位置を連動する」をチェックすると、全ての地図表示の中心位置を連動させます。
- 「表示スケールを連動する」をチェックすると、全ての地図表示の表示スケールを連動させます。

この機能を利用すると、2つの地図画面を並べて表示して、2つの色分け表示を見比べながらスクロールしたり、一方を詳細表示、他方を全体図として連動表示させたりすることができます。

#### **4. 9 全体表示領域を設定**

メニュー：「地図処理」－「全体表示領域を設定」

全体表示メニュー実行時に表示する全体領域を設定します。あらかじめ全体表示領域として登録したい領域を表示した状態でメニューを選択すると、その表示領域を全体表示領域として登録することができます。

#### **4. 10 全体表示領域をクリア**

メニュー：「地図処理」－「全体表示領域をクリア」


上記で登録した全体表示領域をクリアします。

## 4. 1 1 表示位置

本システムでは地図の表示位置・スケールを、「表示位置」として名前を付けて保存することができます。よく利用する場所を「表示位置」として登録しておけば、即座に目的位置にジャンプすることができます。この表示位置はプロジェクト共通データです。一度設定した表示位置は、どのレイヤ・マップを表示していても利用することができます。

### 4. 1 1. 1 表示位置を指定

メニュー：「地図処理」－「表示位置を指定」

ツールバー：

「表示位置を指定」メニューには登録されている表示位置がサブメニューとして表示されています。このメニューを選択することで、即座に登録されている位置にジャンプします。

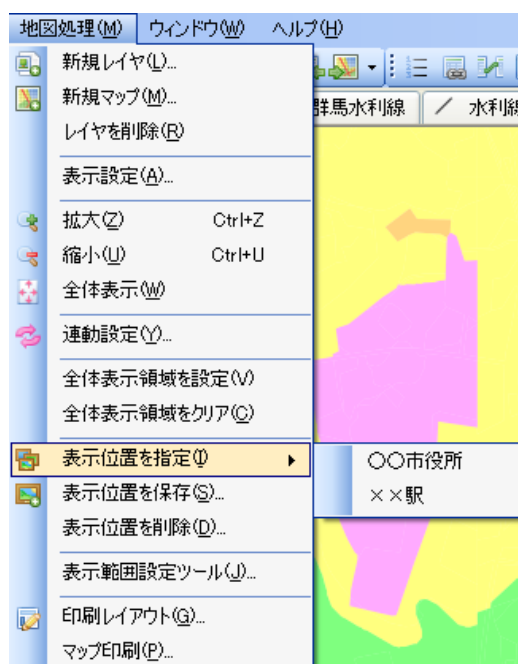



図 4 - 1 7 「表示位置を指定」メニュー表示例

#### 4. 1 1. 2 表示位置を保存

メニュー：「地図処理」－「表示位置を保存」

ツールバー：

現在の表示位置を「表示位置」として登録します。メニューを実行すると、表示位置の名称を入力する画面が表示されます。

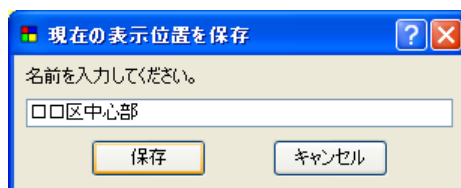


図 4 - 1 8 表示位置登録画面

- 保存する表示位置の名称を入力します。すでに使われている表示位置名称を指定することはできません。
- 「保存」ボタンをクリックすると、指定された名称で表示位置を保存します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、表示位置の保存をキャンセルします。

#### 4. 1 1. 3 表示位置を削除

メニュー：「地図処理」－「表示位置を削除」

登録されている表示位置を削除します。メニューを実行すると、「表示位置を削除」画面が表示されます。

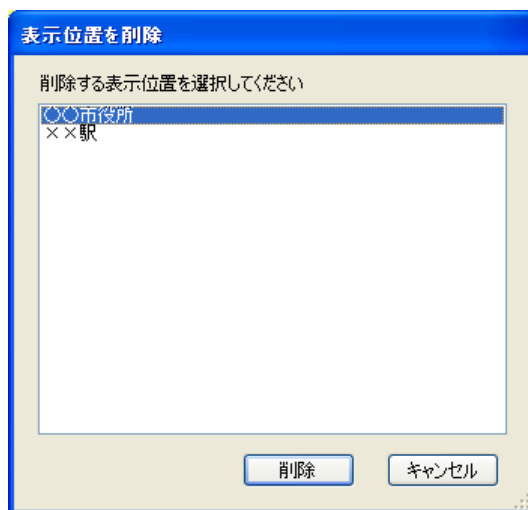


図 4 - 1 9 表示位置の削除画面

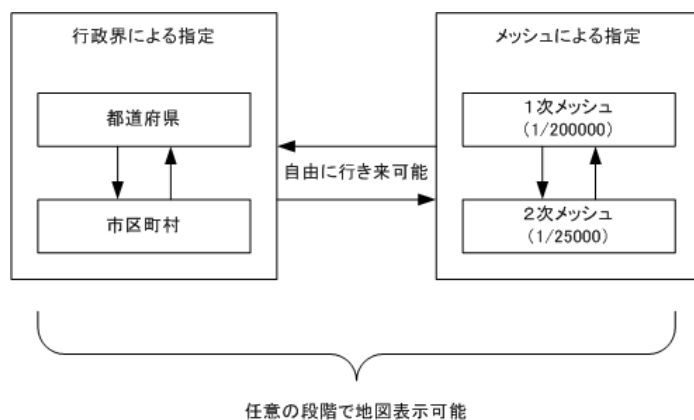
- 登録されている表示位置が一覧表示されるので、削除したい表示位置を選択します。
- 「削除」ボタンをクリックすると、選択されている表示位置を削除します。
- 「キャンセル」ボタンをクリックすると、表示位置の削除をキャンセルします。

## 4. 1 2 表示範囲設定ツール

メニュー：「地図処理」－「表示範囲設定ツール」

表示したいメッシュあるいは行政区の指定により、指定された領域が画面中心に表示されるように表示領域を設定します。

現在は以下のデータが用意されています。



メニューを実行すると、表示範囲の設定画面が表示されます。



図 4 - 2 0 表示範囲の設定画面



- 表示系統の選択で「行政界表示」と「メッシュ表示」を切り替えることができます。
- 画面をスクロールさせて表示したいエリアを探し、そのエリアをクリックすると強調表示されます。その状態で「地図表示」ボタンをクリックすると、選択されている表示オプションに従って、選択エリアが画面に表示されます。
  - 「選択領域全体を表示する」がチェックされていると、地図表示時に選択エリア全体が表示されるようにスケールを調整して表示します。
  - 「スケールを変えずに選択領域の中心を表示する」がチェックされていると、地図表示時には、スケールを変えずに選択エリアの中心を表示します。
- 現在のデータより下の階層のデータがある場合は、「下の階層へ」ボタンをクリックすると、下の階層に移ることができます。
- 「上の階層へ」ボタンをクリックすると、上の階層表示に戻ります。
- 「閉じる」ボタンをクリックするとこの画面を閉じます。

## 4. 1.3 印刷レイアウト

メニュー：「地図処理」－「印刷レイアウト」

本システムでは、マップや凡例、任意のテキストや縮尺記号等を自由にレイアウトし、印刷を行うレイアウト印刷を行うことができます。本メニューではこのレイアウトを作成します。作成したレイアウトはすぐに印刷することができます。

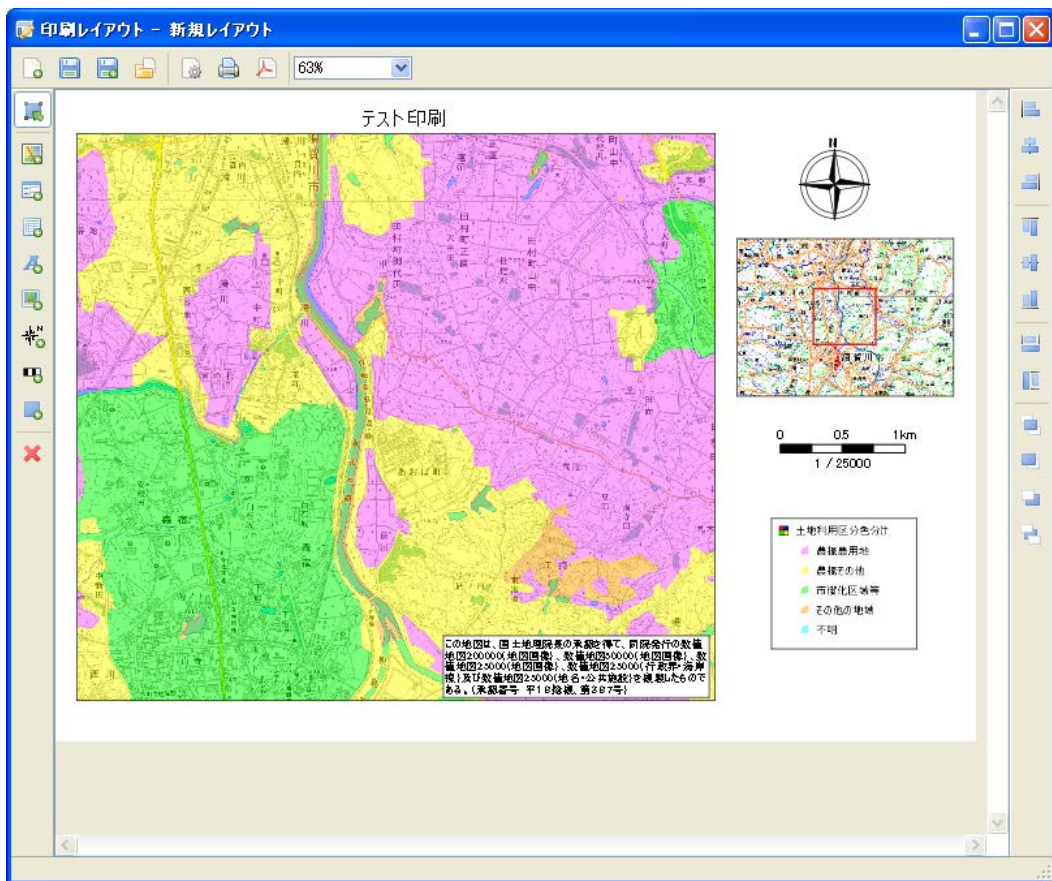


図4-21 印刷レイアウト例

#### 4. 13. 1 レイアウトの操作

印刷レイアウト画面上部にはレイアウトの操作に関するツールボタンが配置されています。



図4-22 レイアウト操作ツールボタン

##### 1) 新規レイアウト

印刷レイアウトメニューを実行すると、新しいレイアウトが開いた状態で印刷レイアウト画面が表示されるので、すぐにレイアウトの作成を始めることができます。再度新たなレイアウトを作成する場合は、「新規レイアウト」ボタンをクリックすると、現在のレイアウトを閉じ、新たなレイアウトが開かれます。

##### 2) レイアウト保存

作成したレイアウトは保存することができ、後から何度でも利用することができます。レイアウトを保存するには、「レイアウト保存」ボタンをクリックします。すると、レイアウト名称を入力するダイアログが表示されるので、レイアウトの名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

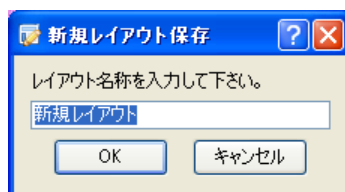


図4-23 レイアウトの保存画面

##### 3) レイアウトの別名保存

現在のレイアウトを別名で保存しますこのボタンをクリックすると、すると、レイアウト名称を入力するダイアログ（図4-19）が表示されるので、レイアウトの名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

#### 4) レイアウト一覧

保存されているレイアウトを読み込むには「レイアウト一覧」ボタンをクリックします。すると、保存されているレイアウトの一覧が表示されるので、読み込みたいレイアウトを選択し、「読み込み」ボタンをクリックするとレイアウトが読み込まれます。

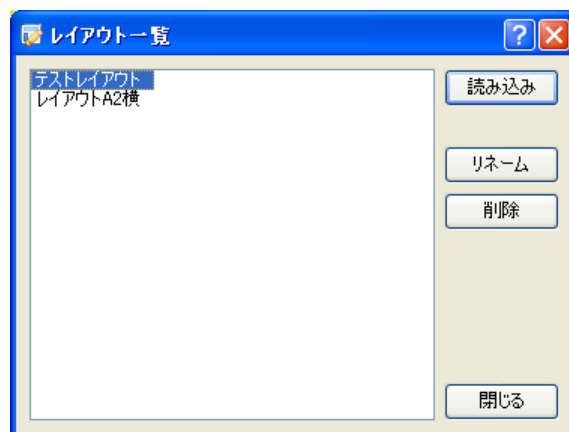


図 4-24 レイアウト一覧画面

ここではレイアウトの読み込みの他、レイアウトのリネームや削除も行うことができます。

- レイアウトを選択して「リネーム」ボタンをクリックすると、レイアウトの名称を変更することができます。
- レイアウトを選択して「削除」ボタンをクリックすると、指定されているレイアウトを削除します。

#### 5) 用紙設定

「用紙設定」ボタンをクリックすると、ページ設定画面 (図 4-21) が表示されます。ここでプリンタの選択や、用紙サイズや用紙の向きを設定します。この設定は現在開いている印刷レイアウトに対して有効となります。用紙が正しく設定されていないと、印刷を正しく行うことができなくなります。新規レイアウトを開いた場合は、最初に用紙設定を確認するようにしてください。

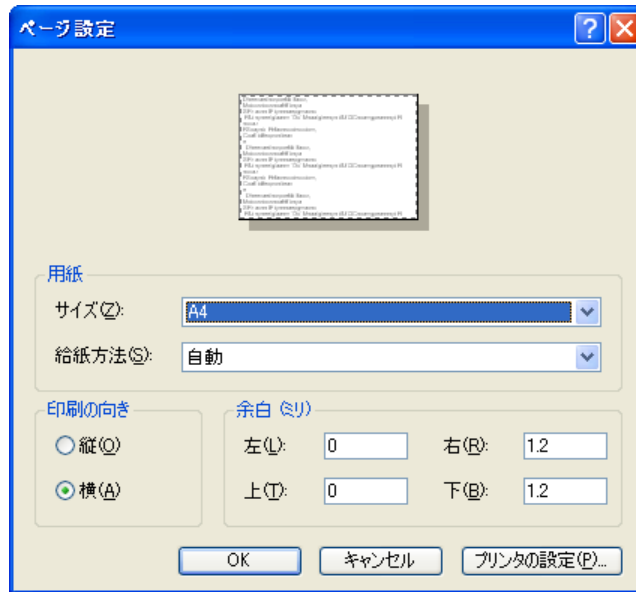


図 4 - 2 5 ページ設定画面

#### 6) 印刷

現在のレイアウトを印刷します。「印刷」ボタンをクリックすると、プリンタの設定画面が表示されます。印刷するプリンタが選択されていることを確認し、「印刷(P)」ボタンをクリックします。

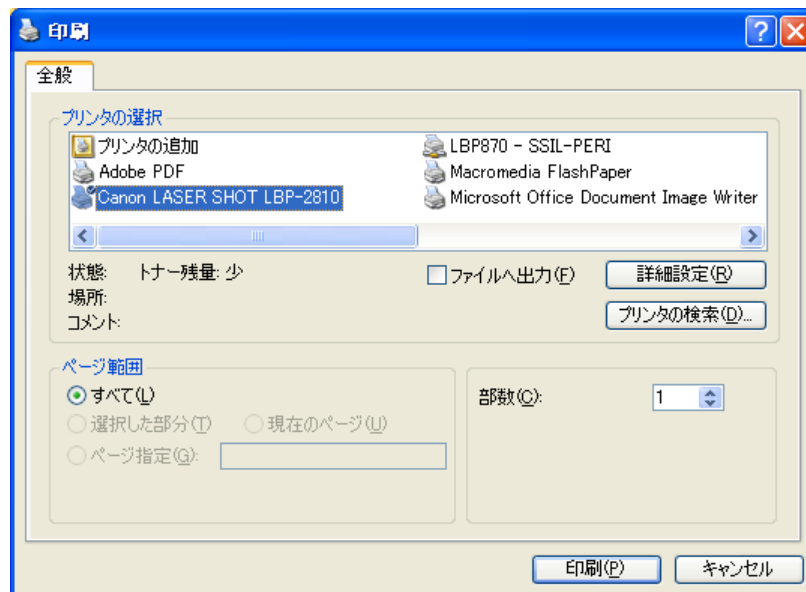


図 4 - 2 6 印刷実行画面

## 7) PDF

本システムではレイアウトを PDF として出力することもできます。Adobe 社の Acrobat は必要ありません。「PDF」ボタンをクリックすると、出力先を指定するファイルダイアログが表示されます。出力先を指定し、「保存(S)」ボタンをクリックすると PDF 出力が開始されます。

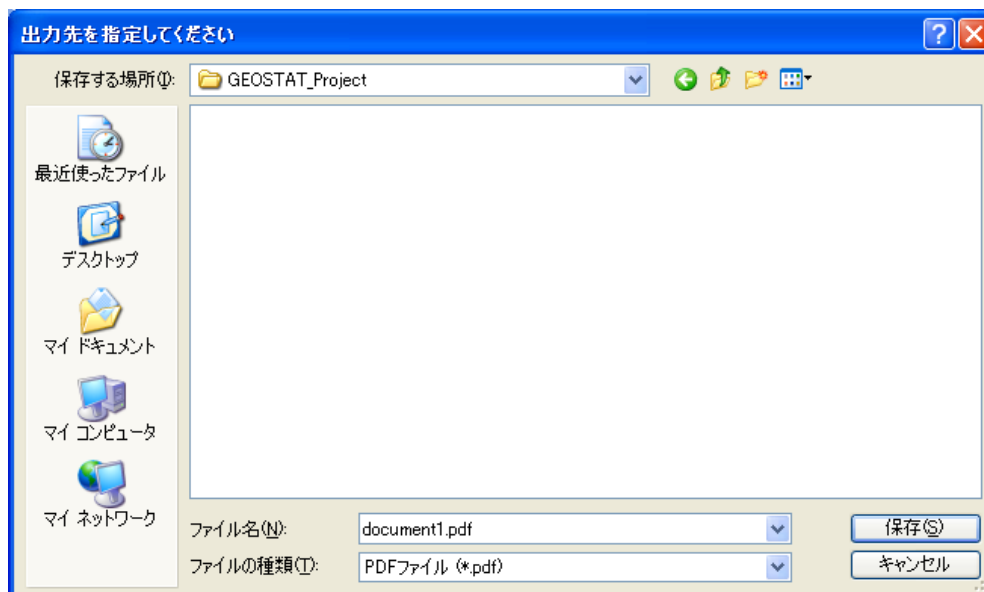


図 4 - 2 7 PDF 出力先指定

#### 4. 13. 2 レイアウトアイテムの設定









印刷レイアウト画面の左側にはレイアウト上に配置するアイテム（部品）とその操作に関するツールボタンが装備されています。



図 4 - 2 8 アイテムツールバー

印刷レイアウトで利用できるアイテムを次ページにまとめます。

印刷レイアウトアイテム一覧

レイアウトアイテム	内容
マップ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図を描画する</li> <li>・ 複数のマップ部品が定義することが可能</li> <li>・ 画面での表示状態とは別に、位置、スケール、表示レイヤーの設定が可能</li> </ul>
凡例 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 凡例を印刷する</li> </ul>
表 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 属性表を印刷する</li> </ul>
テキスト 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任意のテキストを描画する</li> <li>・ テキスト内容の他、フォント、サイズ、色、輪郭線の有無等を指定することができる</li> </ul>
イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任意のイメージを描画する</li> <li>・ イメージの拡大・縮小、フレームの有無を指定することができる</li> </ul>
方位記号 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あらかじめ用意されている方位記号パターンから選択されたものを描画する</li> <li>・ 方向（角度）を指定できる</li> </ul>
縮尺記号 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スケールを表示する</li> </ul>
矩形 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任意の矩形を描画する</li> <li>・ 表示スタイル（ポリゴン）と同様の設定ができる</li> </ul>



## 1) アイテムの基本操作

### アイテムの登録：

1. 登録したいアイテムのボタンをクリックします。
2. アイテムを登録する領域をマウスでドラッグします。(図4-29)
3. アイテムに応じた設定画面が表示されるので、設定を行います。

### アイテムの選択：

「選択」ボタンをクリックすると、マウスの左クリックでアイテムが選択できます。Shiftキーを押しながらクリックすることで複数のアイテムを選択するも可能です。また、選択したいアイテム(複数可)を囲うようにマウスでドラッグしてもアイテムを選択することができます。

### アイテムの移動：

選択状態にあるアイテムは、マウスでアイテムをドラッグすることで移動することができます。また、キーボードの矢印キーでも移動することができます。

### アイテムの再設定：

アイテムをマウスでダブルクリックすると、設定画面が表示され、設定を変更することができます。

### アイテムの削除：

アイテムを選択した状態で、「削除」ボタンをクリックすると選択されているアイテムを削除します。

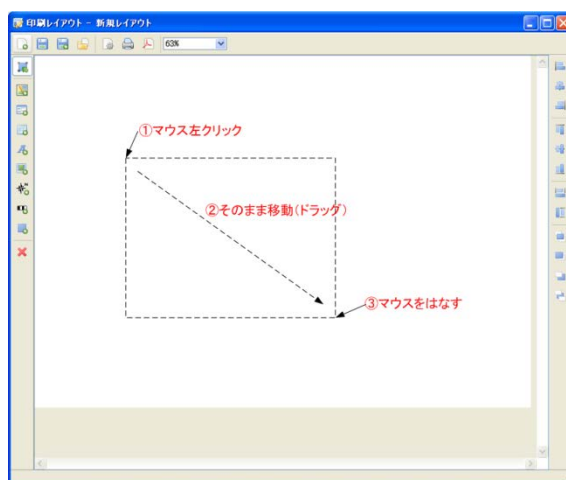


図4-29 アイテム登録操作

## 2) マップアイテム設定

マップアイテムの設定画面を以下に示します。

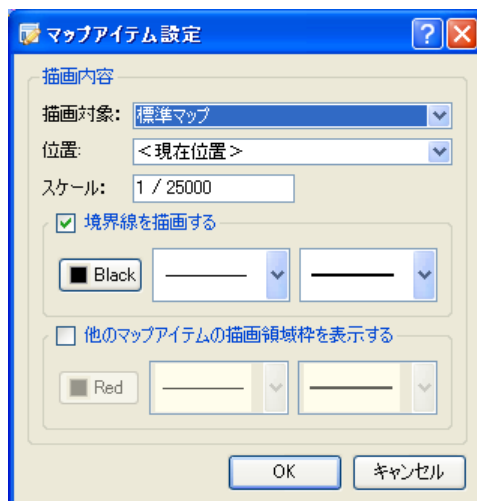


図 4-30 マップアイテム設定画面

- 「描画対象」にはこのマップアイテムで印刷したいマップ（あるいはレイヤ）を指定します。
- 「位置」は現在位置もしくは登録されている表示位置（4. 1 1 章参照）から選びます。現在表示していない場所でも問題ありません。
- 「スケール」に印刷での描画スケールを指定します。現在の描画スケールと異なってもかまいません。
- 「境界線を描画する」をチェックすると、マップアイテムの境界線を描画します。線の色、太さ、パターンを指定してください。
- 「他のマップアイテムの描画領域枠を表示する」をチェックすると、レイアウト上にある他のマップアイテムの印刷領域を指定された枠で描画します。

### 3) 凡例アイテム

凡例アイテムの設定画面を以下に示します。

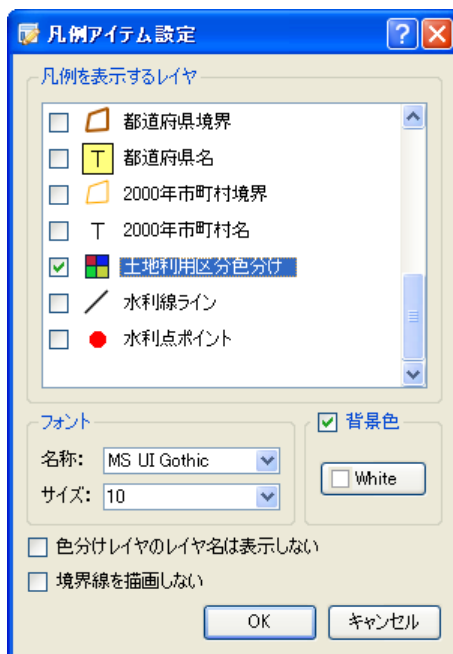


図 4-3-1 凡例アイテム設定画面

- 「凡例を表示するレイヤ」にはプロジェクトに存在する全てのレイヤがリスト表示されます。凡例として出力したいレイヤをチェックしてください。
- 凡例の「フォント」名称およびサイズを変更することができます。
- 凡例の背景色を指定したい場合は、「背景色」をチェックし、背景色を指定してください。「背景色」がチェックされていない場合は、背景は透過となります。
- 「色分けレイヤのレイヤ名は表示しない」をチェックすると、段彩表示のレイヤはその凡例名称のみを出力し、レイヤ名は出力しません。チェックされていない場合は、レイヤ名を出力し、凡例はレイヤ名から少し字下げして出力します。
- 凡例の境界線を描画しない場合は、「境界線を描画しない」をチェックしてください。

#### 4) 表アイテム

表アイテムの設定画面を以下に示します。

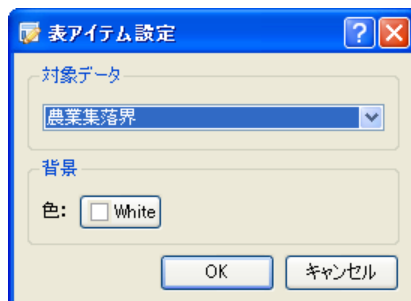


図4-32 表アイテム設定画面

- 「対象データ」から、表として出力するデータを指定します。
- 「背景」の色を変更することができます。
- 表はアイテムに登録された領域に収まる分だけしか出力されません（改ページ等の機能はありません）。

## 5) テキストアイテム

テキストアイテムの設定画面を以下に示します。



図 4-33 テキストアイテム設定画面

- 「テキスト」に描画したいテキストを入力します。
- 「水平位置」、「垂直位置」を指定することで、どの領域にテキストを出力するか変更することができます。
- テキストの色（前景）、背景色を指定できます。
- フォントの種類、サイズやスタイル（斜体、太字等）を設定することができます。
- 「フレーム」をチェックすると、このアイテムの境界線を表示します。線の種類と色を設定することができます。

## 6) イメージアイテム

イメージアイテムの設定画面を以下に示します。

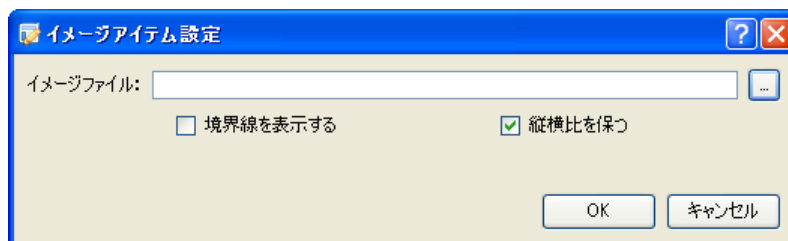


図 4 - 3 4 イメージアイテム設定画面

- 「イメージファイル」に印刷したいイメージファイルを指定します。「参照(...)」ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されます。
- 「境界線を表示する」をチェックすると、アイテムの境界線を描画します。(境界線の色や太さは変更できません)。
- このイメージアイテムはアイテムの領域に応じて自動的に拡大・縮小して表示されますが、「縦横比を保つ」がチェックされている場合、元のイメージの縦横比を保ったまま拡大・縮小を行います。

## 7) 方位記号アイテム

方位記号アイテムの設定画面を以下に示します。

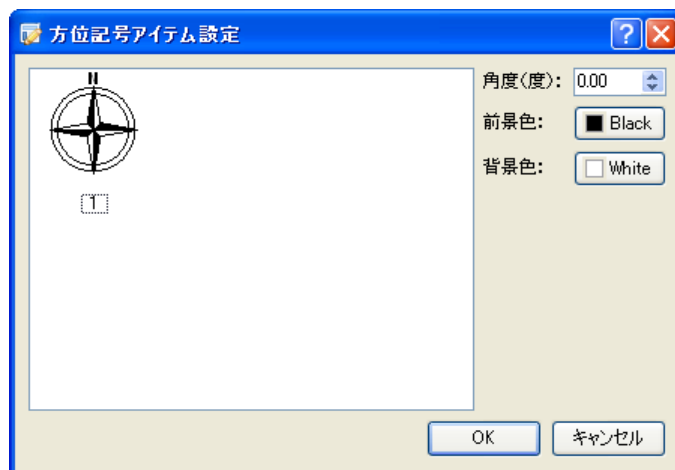


図 4 - 3 5 方位記号アイテム設定画面

- 印刷する方位記号のパターンを指定します。
- 「角度」を入力することで記号を回転させることができます。角度は度単位で12時の方向から時計回りで回転します。
- 前景色および背景色を変更する場合は、それぞれのボタンをクリックし、色を指定します。

## 8) 縮尺記号アイテム

縮尺記号アイテムの設定画面を以下に示します。

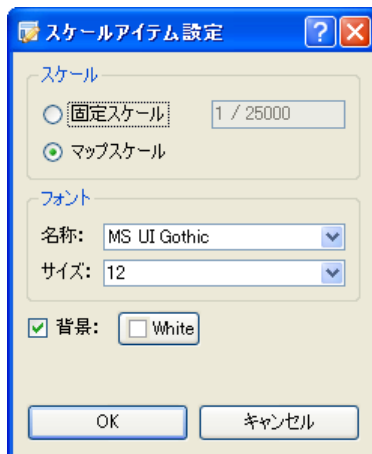


図 4 - 3 6 縮尺記号アイテム設定画面

- 縮尺記号の「スケール」を指定します。1/25000 のような形式で指定してください。
- 縮尺記号で描画するフォントを変更することができます。
- 「背景」をチェックすると、指定された色で背景を塗りつぶします。



## 9) 矩形アイテム

矩形アイテムの設定画面を以下に示します。

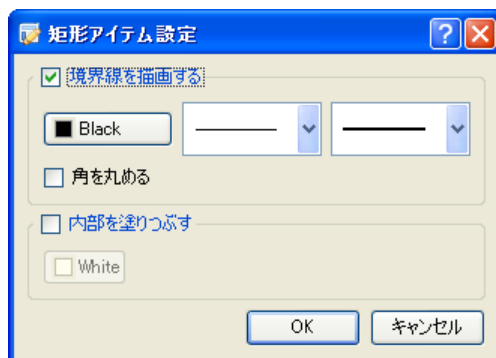


図 4 - 3 7 矩形アイテム設定画面

- 「境界線を描画する」をチェックすると、矩形の境界線を指定された線幅、色、パターンで描画します。
- 「角を丸める」をチェックすると、四隅が丸められた矩形を描画します。
- 矩形の内部を塗りつぶす場合は、「内部を塗りつぶす」をチェックし、塗り潰しの色を指定してください。

#### 4. 13. 3 位置合わせ機能

印刷レイアウト画面の右側にはアイテムの位置合わせ、サイズ合わせと、表示順に関するツールボタンが装備されています。

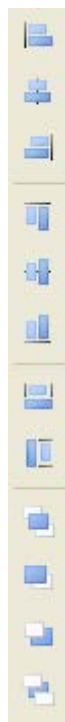


図4-38 位置合わせツールバー

## 4. 1 4 マップ印刷

メニュー：「地図処理」－「マップ印刷」

マップ印刷を利用すると、既存の印刷レイアウトに任意領域を指定して印刷を行うことができます。

メニューを実行すると、マップ印刷画面が表示されます。

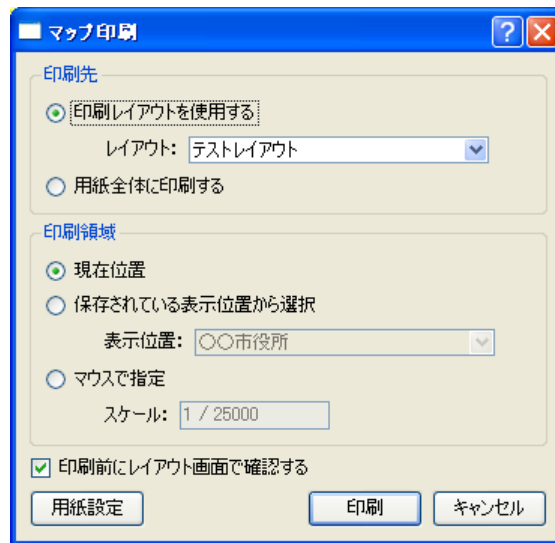


図 4－3 9 マップ印刷画面

- 印刷先では「印刷レイアウトを使用する」か、レイアウトは使用せず「用紙全体に印刷する」か、を指定します。レイアウトを使用する場合は、レイアウトリストから使用するレイアウトを指定してください。
- 印刷領域では、どの領域を印刷するか指定します。
  - 「現在位置」の場合は、現在アクティブな地図表示の現在位置を印刷します。
  - 「保存されている表示位置から選択」をチェックした場合は、印刷を行う表示位置を指定します。
  - 「マウスで指定」がチェックされている場合は、「印刷」ボタンをクリックした後に印刷する領域をマウスで指定します。印刷のスケールを指定してください。
- 「印刷前にレイアウト画面で確認する」がチェックされている場合は、レイアウト画面にて印刷内容を確認することができます。
- 「用紙設定」ボタンをクリックすると、ページ設定画面が開きます。
- 「印刷」ボタンをクリックすると、印刷を実行します。印刷領域をマウスで指定する場合は、この後で印刷領域を指定します。

### マウスによる印刷領域指定：

「マウスで指定」が選択されていた場合は、「印刷」ボタンクリック後に領域を指定するモードになります。マウスに連動して印刷領域枠が描画されていますので、印刷したい領域が収まるように調整し、マウスクリックします。

印刷枠が画面に収まっていない場合は、印刷枠を表示できるように表示スケールを変更し、印刷領域を設定します。

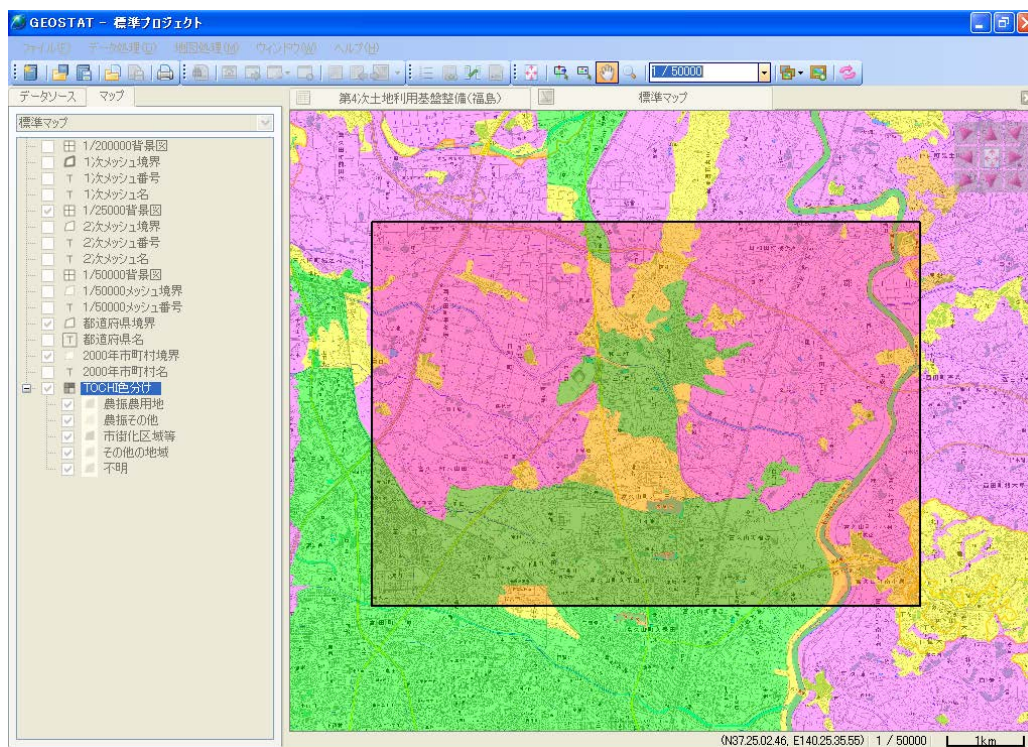


図4-40 マウスによる領域指定

## 5. ウィンドウメニュー

### 5.1 並べて表示

メニュー：「ウィンドウ」－「並べて表示」

表示しているウィンドウをタイル上に整列して表示します。属性（表）と地図、あるいは複数の地図を同時に表示させながら作業を行うことができます。

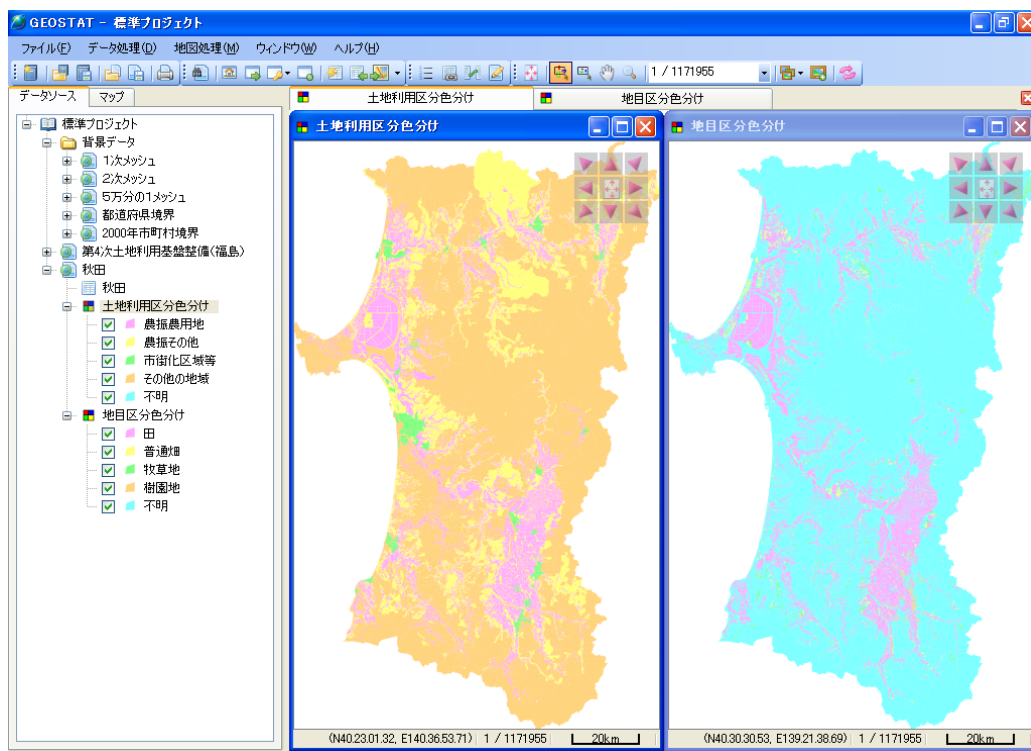


図5-1 「並べて表示」例

## 5. 2 重ねて表示

メニュー：「ウィンドウ」－「重ねて表示」

表示されているウィンドウを重ねて（タイトルが全て表示されるように）表示します。たくさんのウィンドウが開かれているときに、目的のウィンドウをすばやく探すことができます。

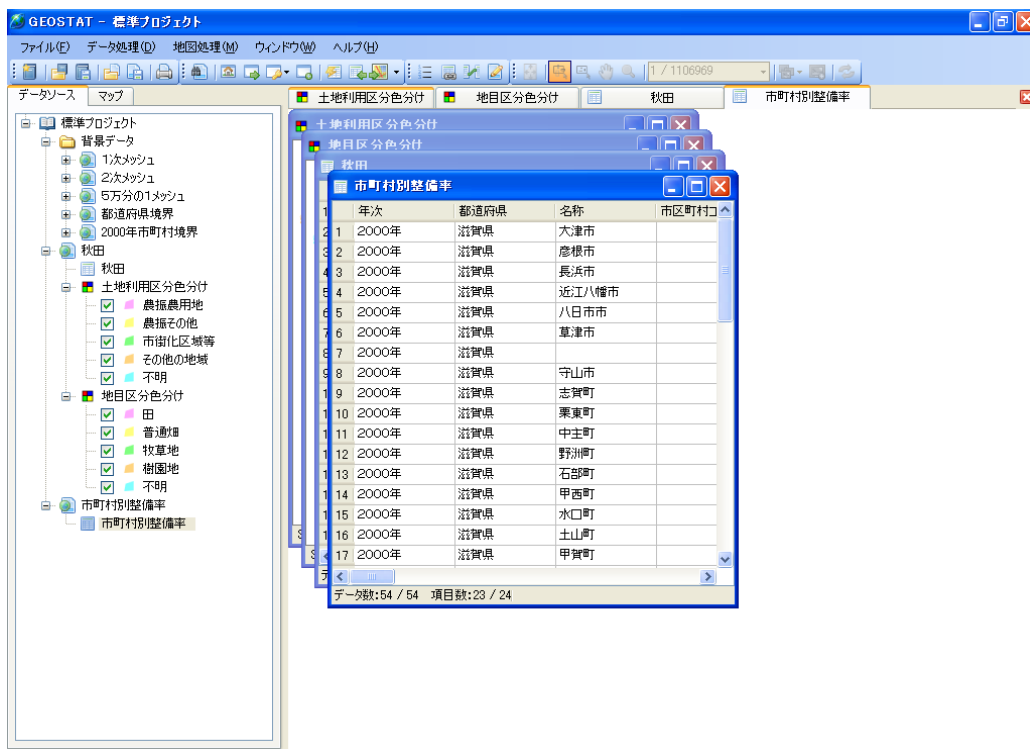


図 5-2 「重ねて表示」例

### 5. 3 ウィンドウを閉じる

メニュー：「ウィンドウ」－「ウィンドウを閉じる」

現在アクティブになっているウィンドウ（タブで選択されているウィンドウ）を閉じます。

### 5. 4 表ウィンドウを全て閉じる

メニュー：「ウィンドウ」－「表ウィンドウを全て閉じる」

開いているウィンドウの内、属性を表示しているウィンドウを全て閉じます。

### 5. 5 レイヤウィンドウを全て閉じる

メニュー：「ウィンドウ」－「レイヤウィンドウを全て閉じる」

開いているウィンドウの内、レイヤを表示しているウィンドウを全て閉じます。

### 5. 6 マップウィンドウを全て閉じる

メニュー：「ウィンドウ」－「マップウィンドウを全て閉じる」

開いているウィンドウの内、マップを表示しているウィンドウを全て閉じます。

### 5. 7 全て閉じる

メニュー：「ウィンドウ」－「全て閉じる」

開いているウィンドウを全て閉じます。





# 付録

## 平面直角座標系一覧

都道府県名	都道府県 番号	座標系	国土交通省 告示の 座標系	都道府県名	都道府県 番号	座標系	国土交通省 告示の 座標系
北海道	1	12	11, 12, 13	滋賀県	25	6	6
青森県	2	10	10	京都府	26	6	6
岩手県	3	10	10	大阪府	27	6	6
宮城県	4	10	10	兵庫県	28	5	5
秋田県	5	10	10	奈良県	29	6	6
山形県	6	10	10	和歌山県	30	6	6
福島県	7	9	9	鳥取県	31	5	5
茨城県	8	9	9	島根県	32	3	3
栃木県	9	9	9	岡山県	33	5	5
群馬県	10	9	9	広島県	34	3	3
埼玉県	11	9	9	山口県	35	3	3
千葉県	12	9	9	徳島県	36	4	4
東京都	13	9	9, 14, 18, 19	香川県	37	4	4
神奈川県	14	9	9	愛媛県	38	4	4
新潟県	15	8	8	高知県	39	4	4
富山県	16	7	7	福岡県	40	2	2
石川県	17	7	7	佐賀県	41	2	2
福井県	18	6	6	長崎県	42	2	1
山梨県	19	8	8	熊本県	43	2	2
長野県	20	8	8	大分県	44	2	2
岐阜県	21	7	7	宮崎県	45	2	2
静岡県	22	8	8	鹿児島県	46	2	1, 2
愛知県	23	7	7	沖縄県	47	15	15, 16, 17
三重県	24	6	6				